

<p align="center">園野村立 園野小学校校舎内運動場改築工事 建築工事特記仕様書</p>	
1. 工事概要	<p>1. 工事名称 下野村立園野小学校校舎内運動場改築工事 136</p> <p>2. 敷地面積 12232.21 M²</p> <p>3. 工事種別 増築</p> <p>4. 工事規模 屋内運動場 922.25 M²</p>
2. 建築工事	
3. 電気工事	
4. 水道工事	
5. 舗装工事	

II 建築工事仕様 建築現場管理責任者 菅野 隆

1. 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、**建築現場管理責任者**（昭和60年）によるものである。建築現場管理責任者（昭和60年）によるものも適用する。（平成5年改訂）

2. 特記仕様

1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
 2) 特記事項は、○印のついたものを適用する。
 ○印のない場合は、●印のものも適用する。
 ○印と●印のある場合は、共に適用する。
 3) 特記事項に記載の()内表示等は、建築工事共通仕様書中の、該当する項目又は頁を示す。

1. 用途別区分	<p>○建築工事種別区分 建設大臣官庁官庁建築部監修（昭和60年）平成元年 ・敷地面積管理区分 建設大臣官庁官庁建築部監修（昭和60年） ・建築工事種別区分 建設大臣官庁官庁建築部監修（昭和60年）</p> <p>○工事監理責任者 建設大臣官庁官庁建築部監修（昭和60年）</p>																												
2. 担当者	<p>下記工事に適用し、当該職種の技師1名以上とする。資格証明書を添付した 使用名称を監督員に提出する。 適用工事種別</p> <p>○鉄筋工事 ○コンクリート工事 ○鉄骨工事 ○ブロック及びALC/軽量コンクリート ○防水工事 ○石工事 ○アスベスト工事 ○木工事 ○屋根及び土間工事 ○左官工事 ○舗装工事 ○電気工事 ○内装工事 ○舗装工事</p>																												
3. 電気担当技術者	○適用する ○適用しない																												
4. 特別仕様の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別仕様の工法は、監督員の承認を受けて、当該製品の指定工法による。																												
5. 建築材料等	建築材料の製造所、製品及び施工業者などは、特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし、同等以上のものは、監督員の承認を受ける。 木材の無主材料等は、単品品の使用に努めるとともに、建設現場は、国内産木材を優先するものとする。（平成5年改訂）																												
6. 養生材の処理	○自由処分 下記のものを撤去し監督員に提出する。																												
7. 工事写真	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>写真枚数</th> <th>撮影箇所</th> <th>枚数</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">■ 工 前</td> <td>○カメラ</td> <td>●キャビネット ●金具/パネル</td> <td>監督員の指示による。</td> <td>2</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>○カメラ</td> <td>●キャビネット ●セパレーター ●サービスマン</td> <td>(撮影計画を提出する)</td> <td>2</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">■ 工 中</td> <td>○カメラ</td> <td>●キャビネット ●スライド</td> <td></td> <td>2</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>○カメラ</td> <td>●キャビネット ●スライド</td> <td></td> <td>2</td> <td>部</td> </tr> </table>	区分	項目	写真枚数	撮影箇所	枚数	備考	■ 工 前	○カメラ	●キャビネット ●金具/パネル	監督員の指示による。	2	部	○カメラ	●キャビネット ●セパレーター ●サービスマン	(撮影計画を提出する)	2	部	■ 工 中	○カメラ	●キャビネット ●スライド		2	部	○カメラ	●キャビネット ●スライド		2	部
区分	項目	写真枚数	撮影箇所	枚数	備考																								
■ 工 前	○カメラ	●キャビネット ●金具/パネル	監督員の指示による。	2	部																								
	○カメラ	●キャビネット ●セパレーター ●サービスマン	(撮影計画を提出する)	2	部																								
■ 工 中	○カメラ	●キャビネット ●スライド		2	部																								
	○カメラ	●キャビネット ●スライド		2	部																								
8. 技術工事との取合い	<p>写真の撮影者 監督員の承認するもの。（原紙の大きさ(mm) 24X36以上）</p> <p>施工現場</p> <p>○指示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の密閉及びその後の補修 ○指示した土間、天井の仕上げ、下地材の切込み及び下地材の補修 ○断熱材が電線による配線の際の2次配線及び換気スイッチ</p> <p>施工図</p> <p>○断熱材の位置、取合いなどの検討による施工図を提出し、監督員の承認を受ける。 ○敷設平均地盤高 表示 - BM</p> <p>下記図書は監督員の指示により提出する。（註記のある場合は一部省略することがある） (契約書) ○工事書 ① 工事工程表 ② 現場代理人及び主任技術者等 ○職種別(特許)施工書 ③ 協力下請工事書 ④ 材料使用承認書 ○建築代金内訳書 ⑤ 大工賃金内訳書(等) ⑥ 工事管理計画書 (工事中) ○各種工事施工計画書 ⑦ 各種工事図面 ⑧ 寸法図表 ⑨ 工事作業日報 ○主要材料検量又は品質証明書 ⑩ 各種試験成績書又は報告書 ○特殊施工技術者資格証明書 ⑪ 主要材料納入履歴 ⑫ 技師士資格証明書 ○出来検査書</p> <p>(完成後) ○工事完成報告書(内閣府登録簿) ⑬ 完成図(指示による) ⑭ 工事写真集 ○完成施工管理書 ⑮ 施工地盤証明書 ⑯ 重要管理図及び検査書 ○各種検査書 ⑰ 維持管理取組書(設備管理取組書を含む)</p> <p>現場には主任の下記の監理士及び係員を常駐させる。 ・主任技術者(監理技術者、専門技術者) 1 名 ・現場技術員(1級建築士 1 名、2級建築士 1 名) ・施工監督員(1級建築士 1 名又は2級建築士 1 名)</p>																												
9. 設計図																													
10. 提出図書																													
11. 現場常駐技術員																													
12. 現場常駐技術員																													
13. 現場常駐技術員																													

1. 基礎工事	<p>1. 基礎工事種別 1. 基礎工事種別</p> <p>2. 1. 基礎工事種別</p>
2. 土留工事	<p>① 掘削のしじり及び掘削の土留</p> <p>② 掘削の土留</p> <p>③ 掘削の土留</p>
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎工事	<p>1. 基礎工事種別</p> <p>2. 基礎工事種別</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

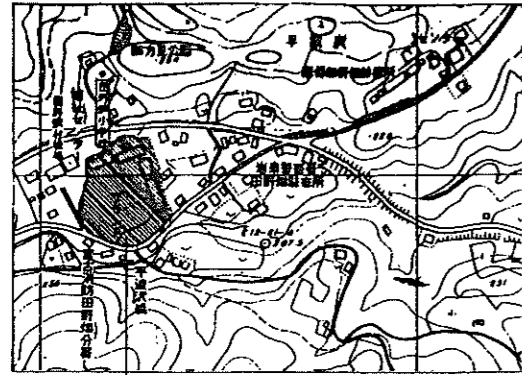
1. 基礎工事	<p>1. 基礎工事種別</p> <p>2. 基礎工事種別</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

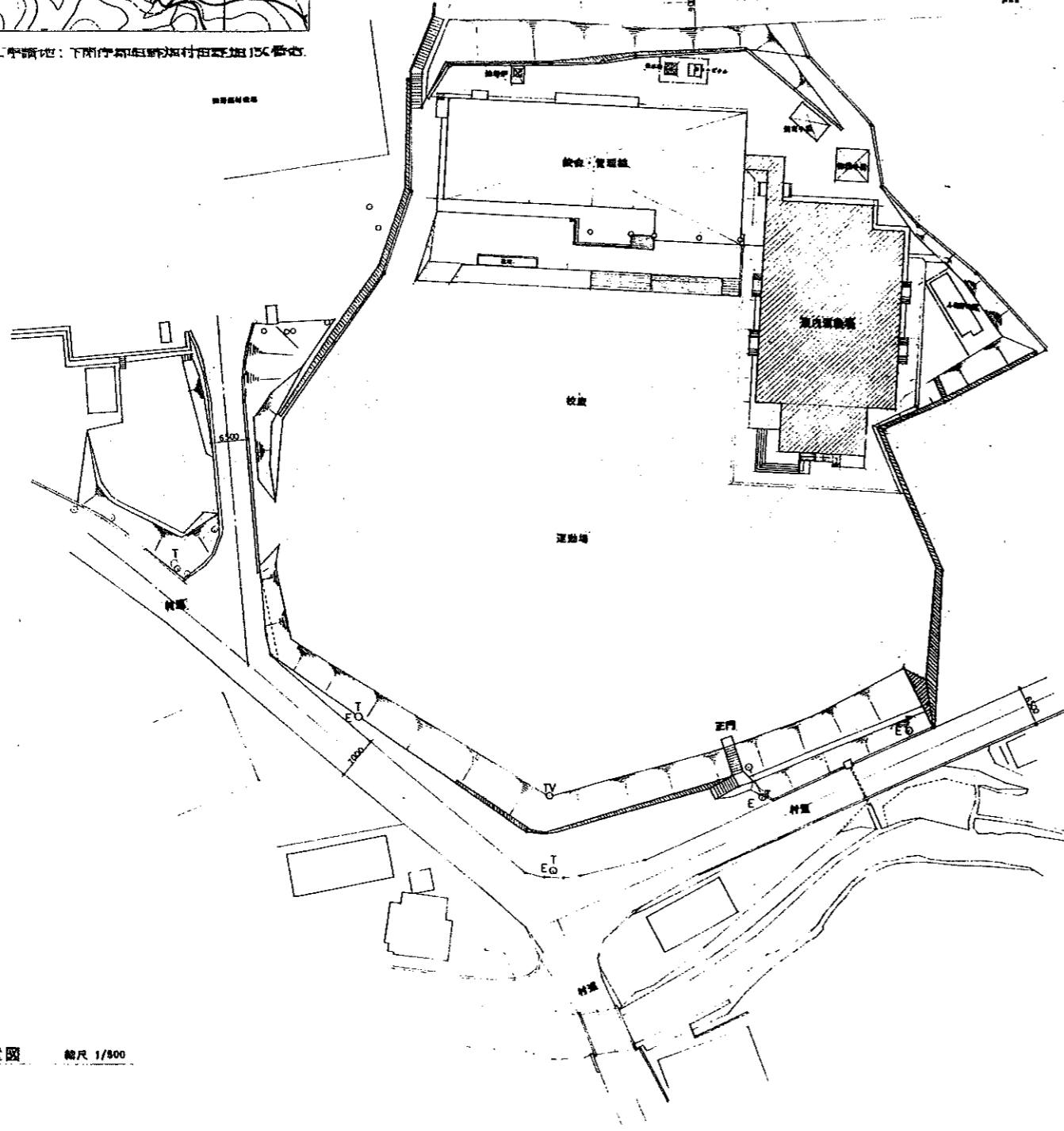
1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	

1. 基礎コンクリート	<p>1. 基礎コンクリート</p> <p>2. 基礎コンクリート</p>
2. 土留工事	
3. 地盤改良工事	



半額地：下野村小中学校敷地15%指定

案内図 5=1/5000



既存建物
 申請部分

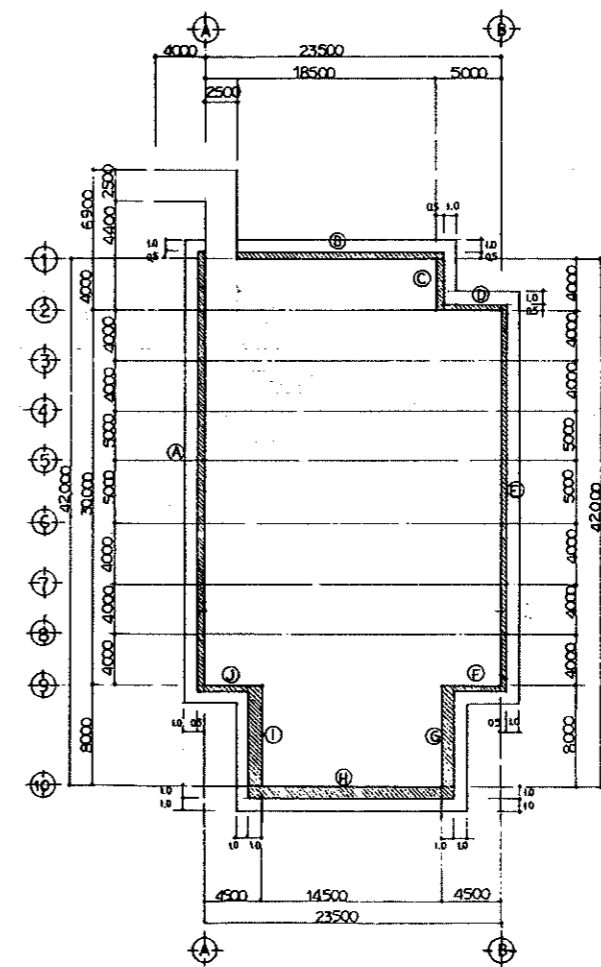
配置図 縮尺 1/800

面積表

区分	延床面積	床面積			
		1階	2階	3階	計
飲食・管理棟	929.54	892.10	752.00	507.00	2,151.10
児童+遊	29.16				29.16
児童+遊	21.06				21.06
遊具庫	8.00				8.00
合計	987.76				2,209.32

	申請部分	申請以外の部分	合計	12,231.21 × 70/100 = 8,561.847	建築可能な延床面積
建築面積	1,003.25	987.76	1,991.51		
延床面積	922.25	2,209.32	3,131.57	12,231.21 × 40/100 = 4,892.484	建築可能な延床面積

建築面積の敷地面積に対する割合	1,991.51 / 12,231.21 × 100 = 16.2822 %
延床面積の敷地面積に対する割合	2,209.32 / 12,231.21 × 100 = 18.0629 %



床面積

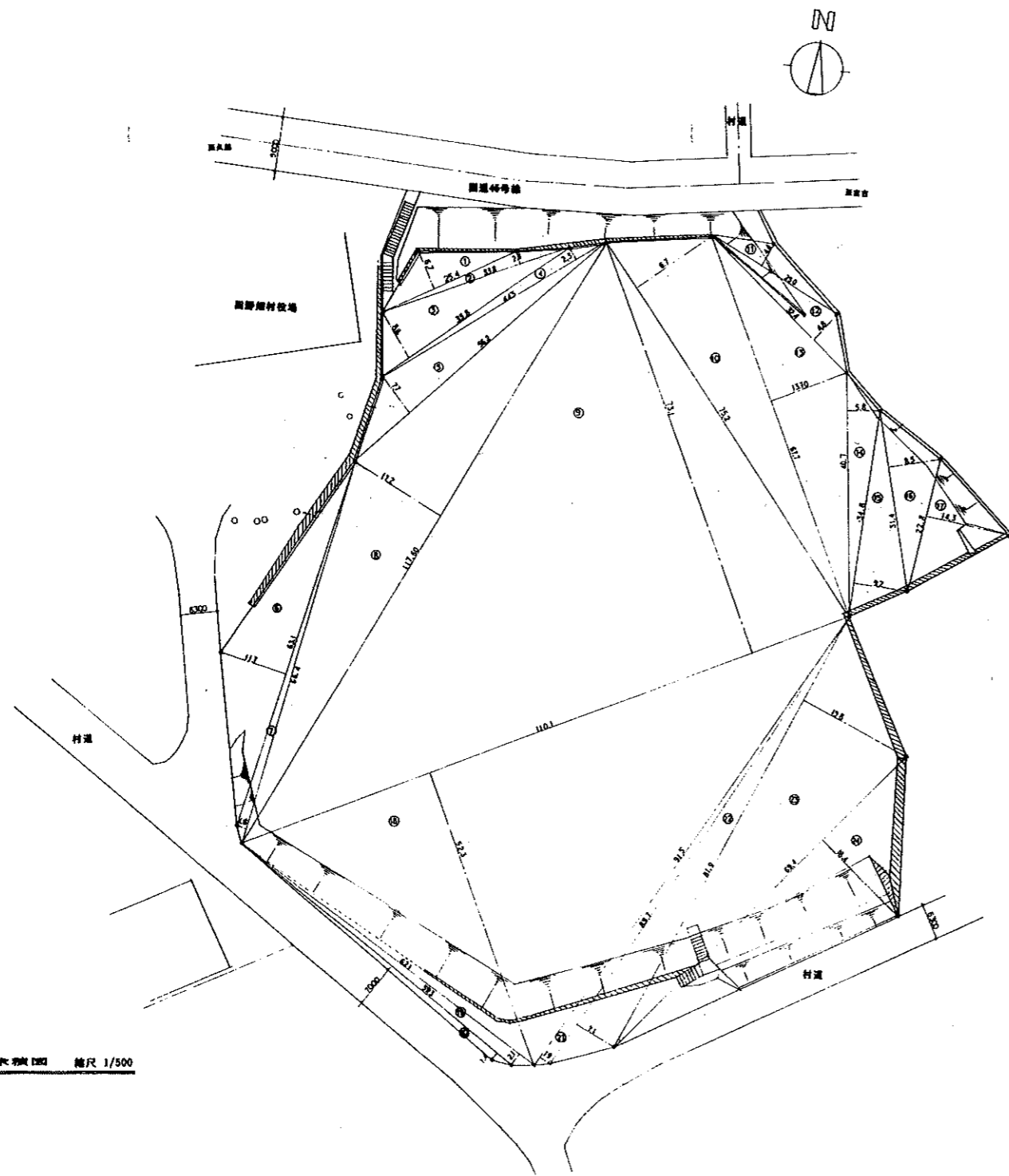
400 × 250 + 250 × 6.90	27.25
18.50 × 4.00	74.00
23.50 × 30.00	705.00
14.50 × 8.00	116.00
合計	922.25

建築面積

Ⓐ	35.00 × 0.50	17.50
Ⓑ	16.50 × 0.50	8.25
Ⓒ	4.00 × 0.50	2.00
Ⓓ	4.50 × 0.50	2.25
Ⓔ	31.00 × 0.50	15.50
Ⓕ	3.50 × 0.50	1.75
Ⓖ	8.00 × 1.00	8.00
Ⓗ	16.50 × 1.00	16.50
Ⓘ	8.00 × 1.00	8.00
Ⓚ	3.50 × 0.50	1.75
合計		922.25
合計		1,003.75

面積表

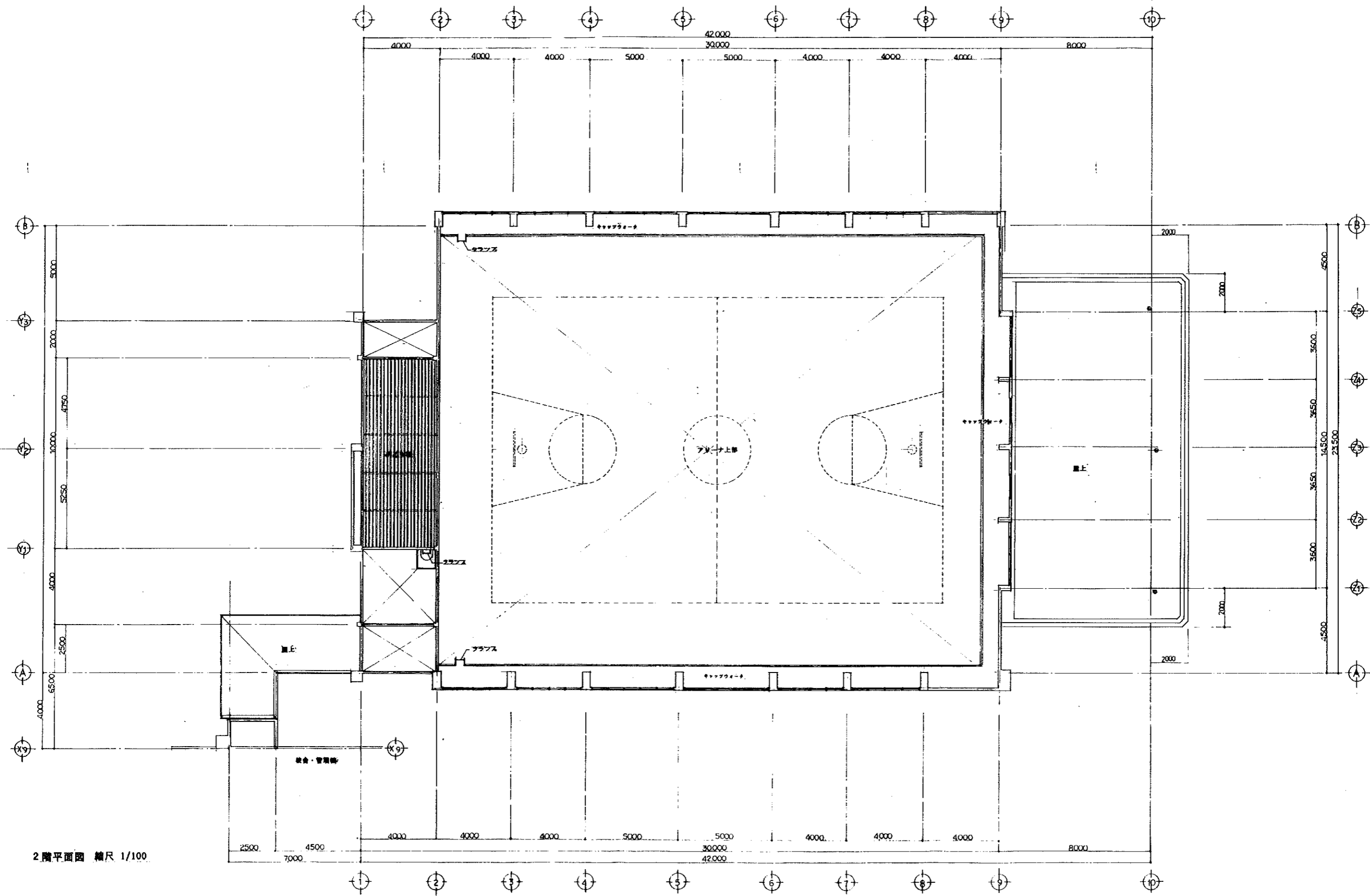
廊下	400 × 2.50 + 250 × 6.90	27.25	★-A	2.50 × 8.00	20.00
廊下	2.50 × 4.00	10.00	男子トイレ	2.20 × 5.20 - 0.6 × 1.80	10.36
入り口	10.00 × 5.00	50.00	女子トイレ	2.20 × 5.20 - 0.9 × 1.80	9.82
廊下	400 × 4.00 + 200 × 4.00	24.00	遊具庫	1.50 × 1.80	2.70
アtr-子	23.50 × 30.00 - 10.00 × 1.00	695.00	遊具庫	3.60 × 8.40	30.24
ロy-子	4.00 × 3.60	14.40	遊具庫	4.40 × 3.20	14.08
玄関	4.00 × 3.60	14.40			(8720)
		(835.05)			922.25



本図面 縮尺 1/500

面積表

区画番号	長さ	幅	面積(㎡)	区画番号	長さ	幅	面積(㎡)		
①	25.4	x	6.7	17018	⑤	34.8	x	5.8	20184
②	33.8	x	2.4	8112	⑥	31.4	x	8.5	26690
③	33.8	x	8.8	34144	⑦	22.8	x	14.3	32604
④	44.3	x	2.3	10189	⑧	110.1	x	52.3	575823
⑤	56.2	x	7.7	43274	⑨	62.1	x	2.1	13041
⑥	63.1	x	11.7	73827	⑩	59.3	x	1.4	8302
⑦	66.4	x	1.8	11952	⑪	91.2	x	1.9	17328
⑧	117.6	x	17.2	202272	⑫	89.7	x	7.1	63687
⑨	110.1	x	73.1	804831	⑬	81.9	x	19.8	162162
⑩	7.52	x	6.7	50384	⑭	69.3	x	18.4	127512
⑪	2.50	x	4.4	11000					1047333
⑫	32.4	x	4.8	15552					2446243
⑬	67.7	x	13.7	92748					12231215
⑭	40.7	x	5.8	23606					
			(1398910)						1223121

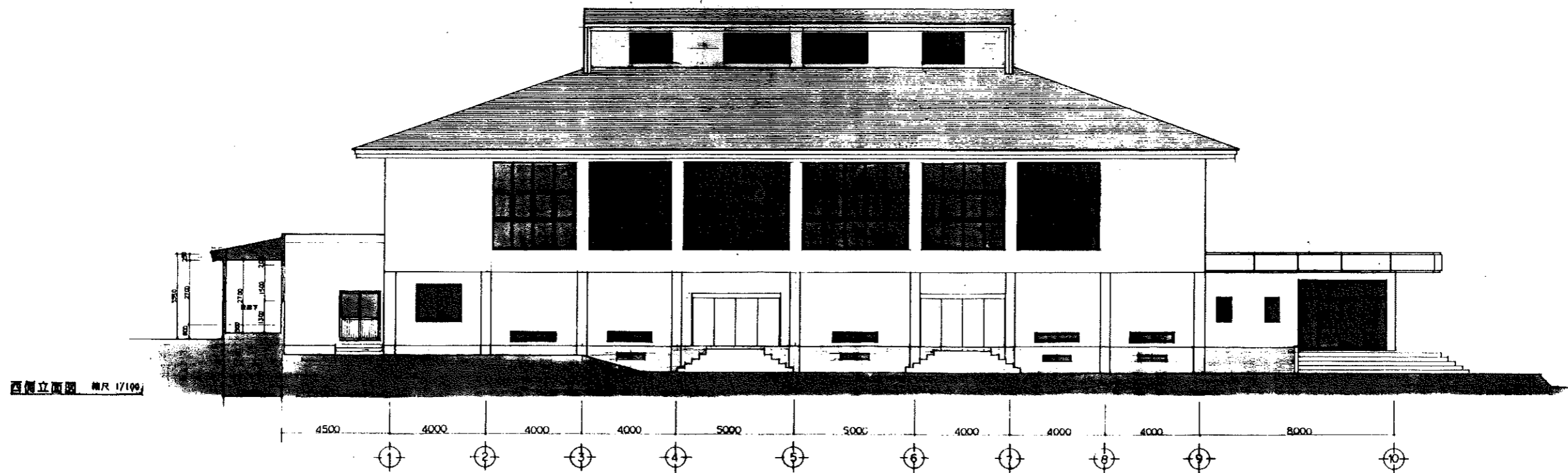
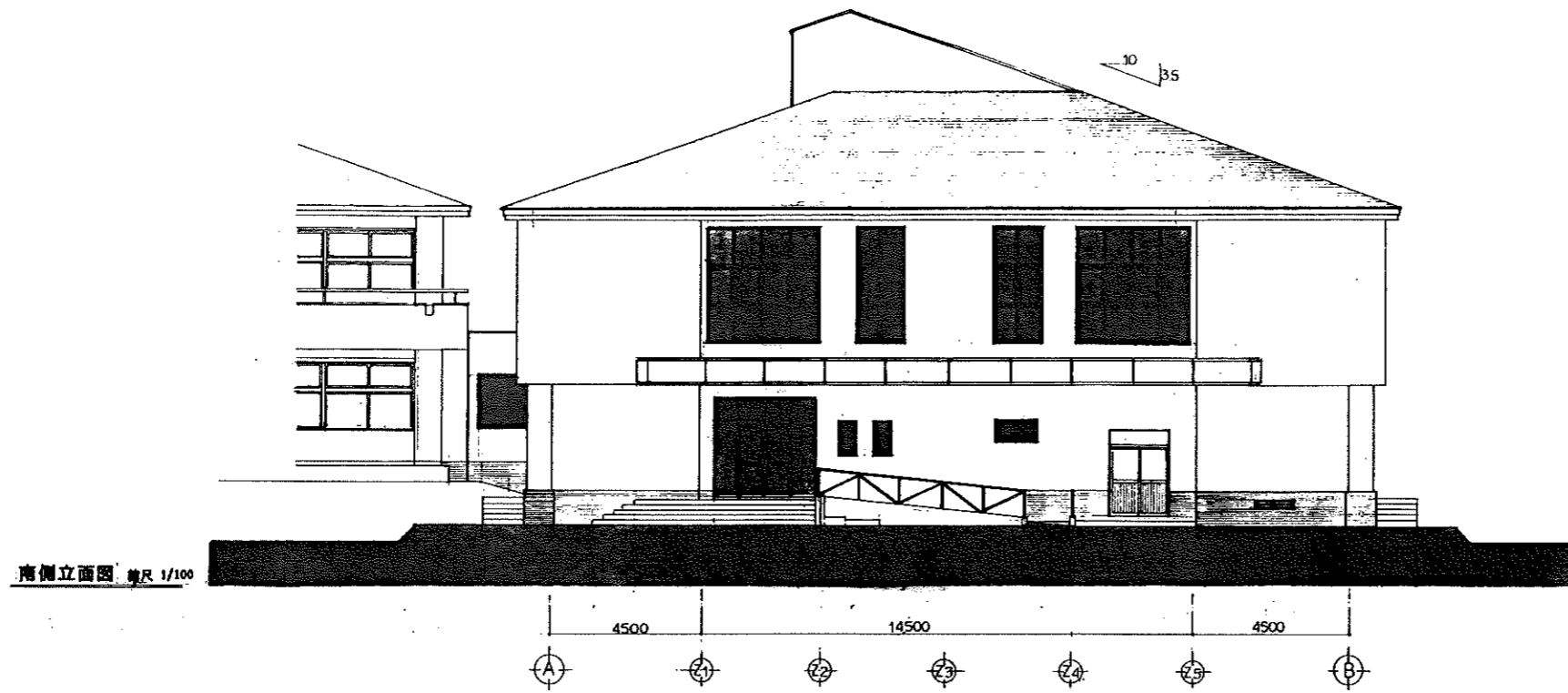


2階平面図 縮尺 1/100

三和建築設計事務所
 〒114-8501 東京都荒川区西日暮里1-15-1
 TEL 03-5621-1111

縮尺	1/100
図面名称	2階平面図

1. 名称 田野畑村立 田野畑小学校屋内運動場改築工事
 2. 図面名称 2階平面図



三和建築設計事務所

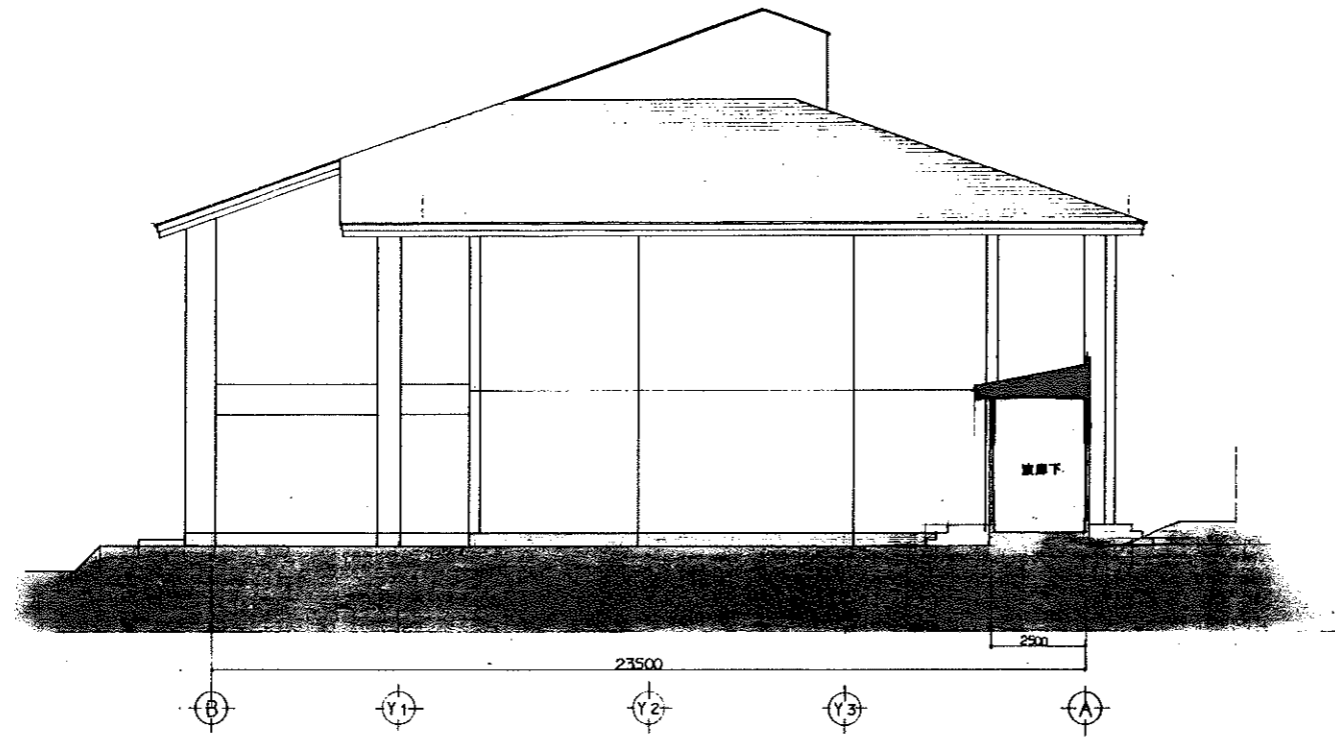
縮尺 1/100

工事名称 田野郷村立 田野郷小学校屋内運動場改築工事

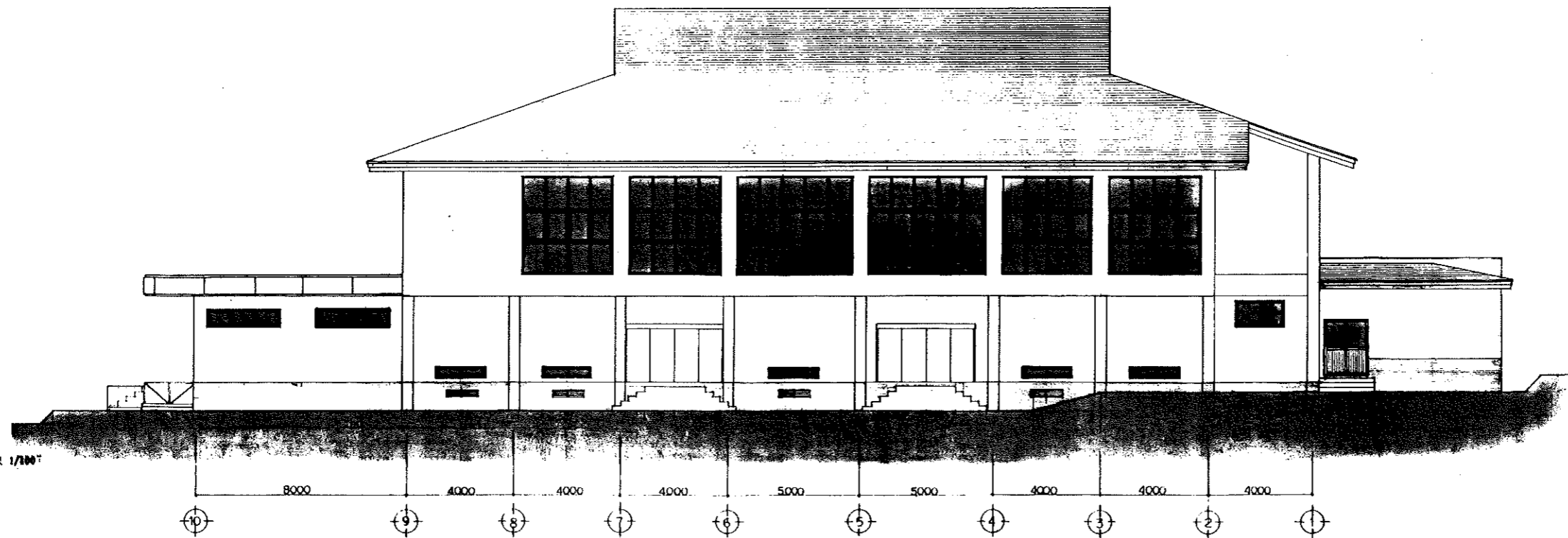
立面名称 南側立面圖 西側立面圖

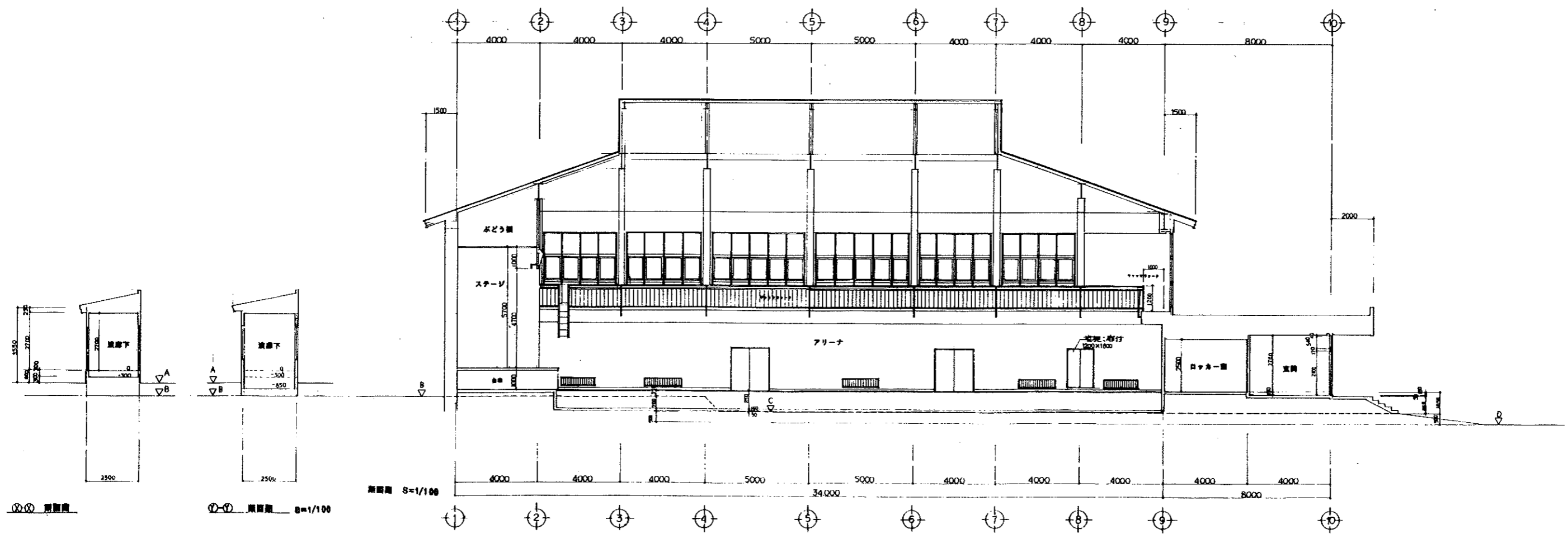
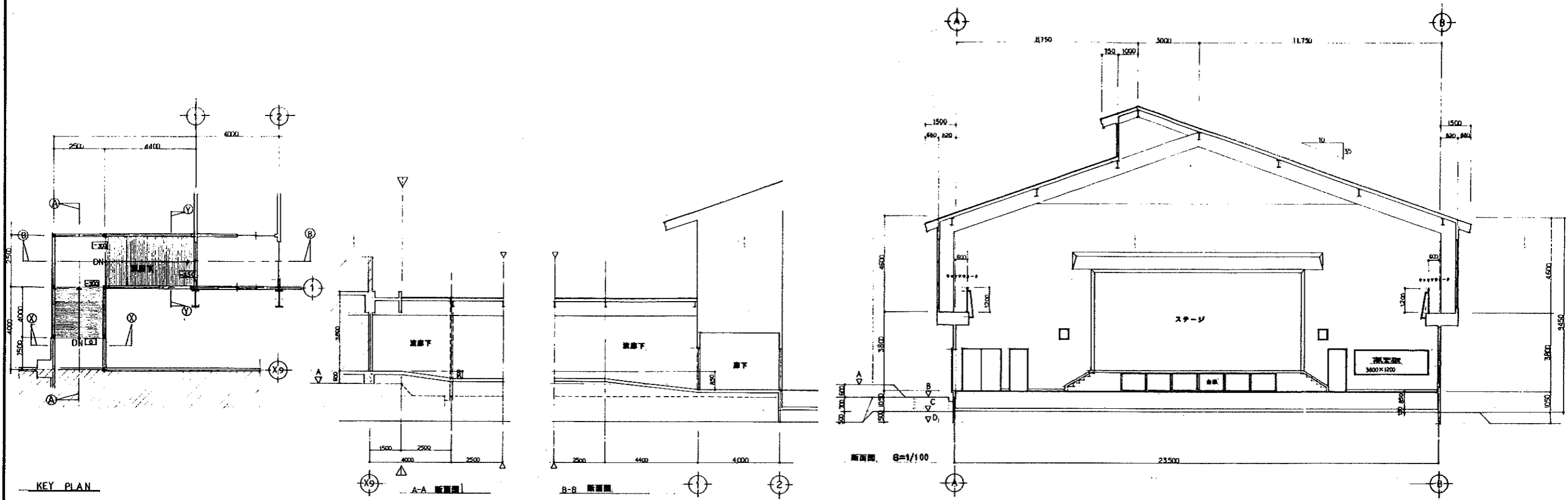
No. A 008

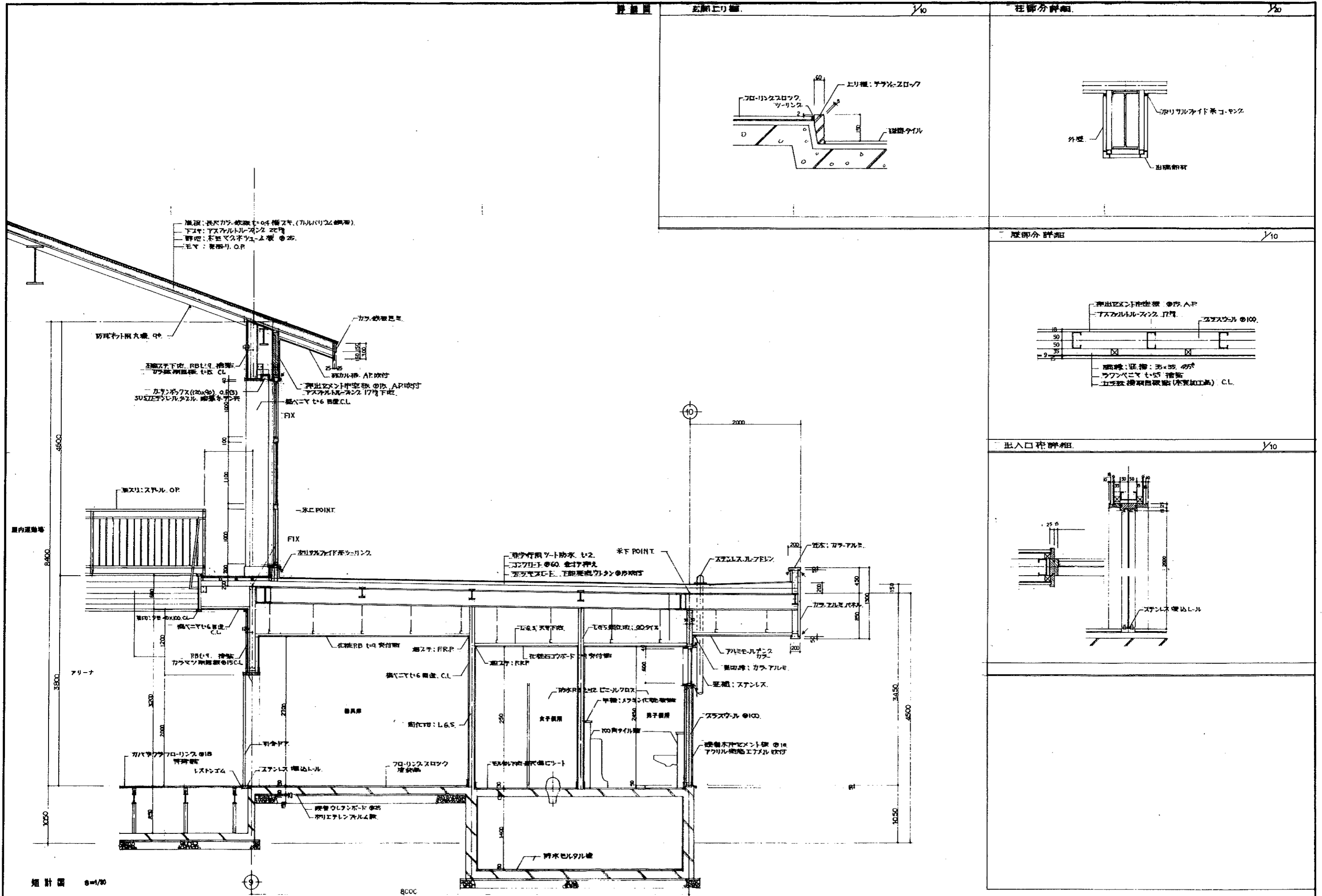
北側立面圖 縮尺 1/100



東側立面圖 縮尺 1/100







屋根: 長尺ガラス繊維強化プラスチック (ガルバリウム鋼板)
 下地: アスファルト樹脂 2cm
 断熱: 発泡スチロール板 5cm
 土間: 珪藻土 OP

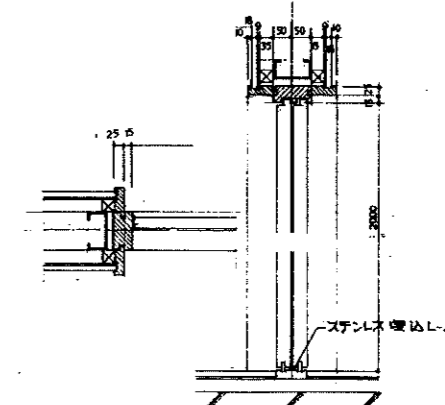
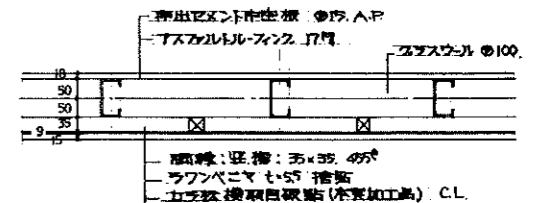
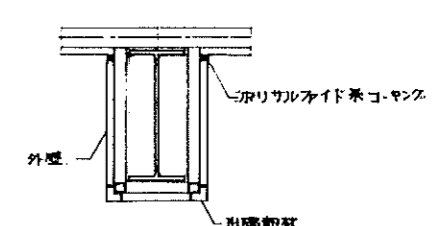
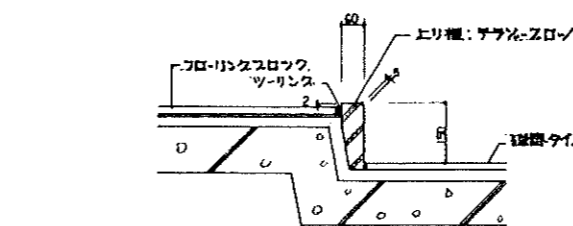
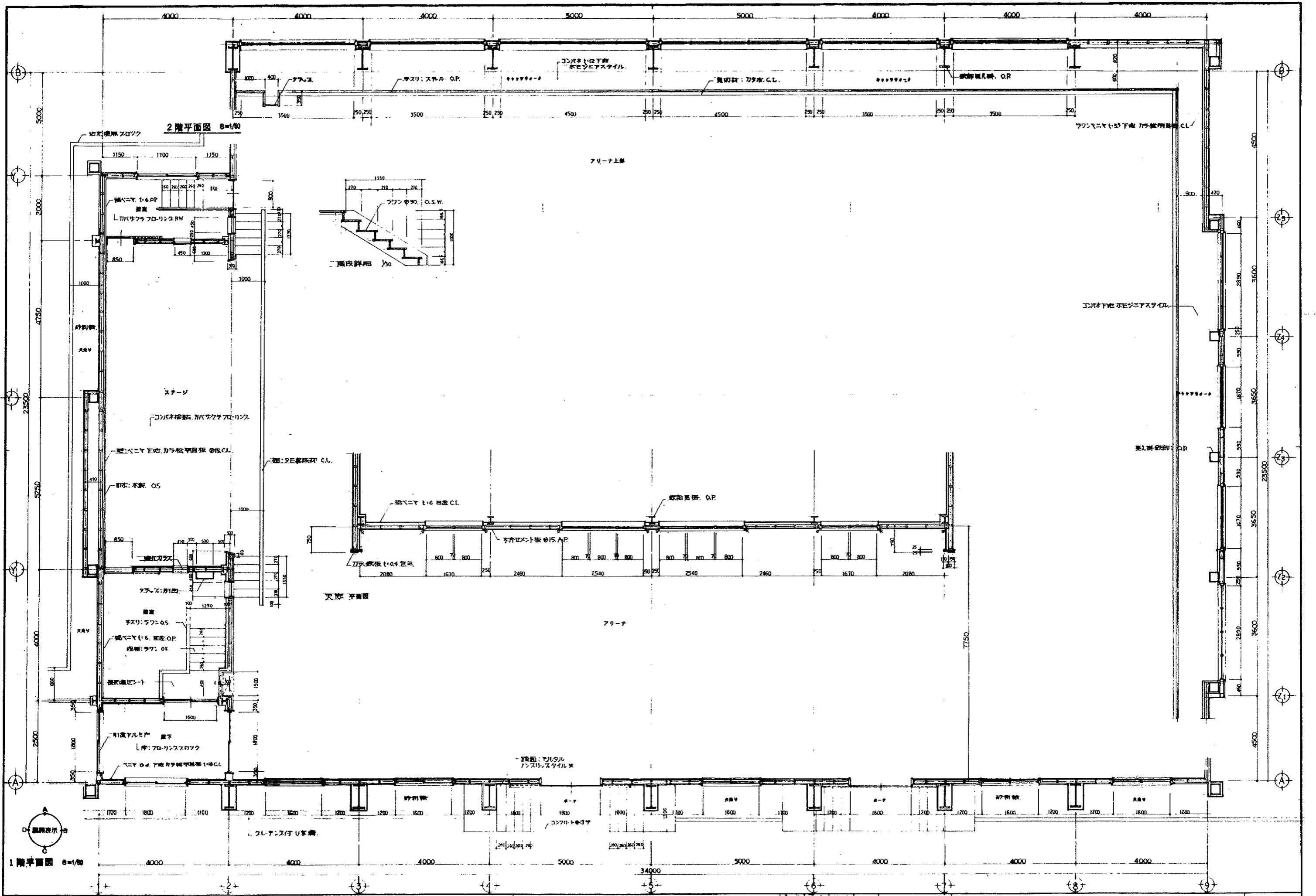


図 1/20

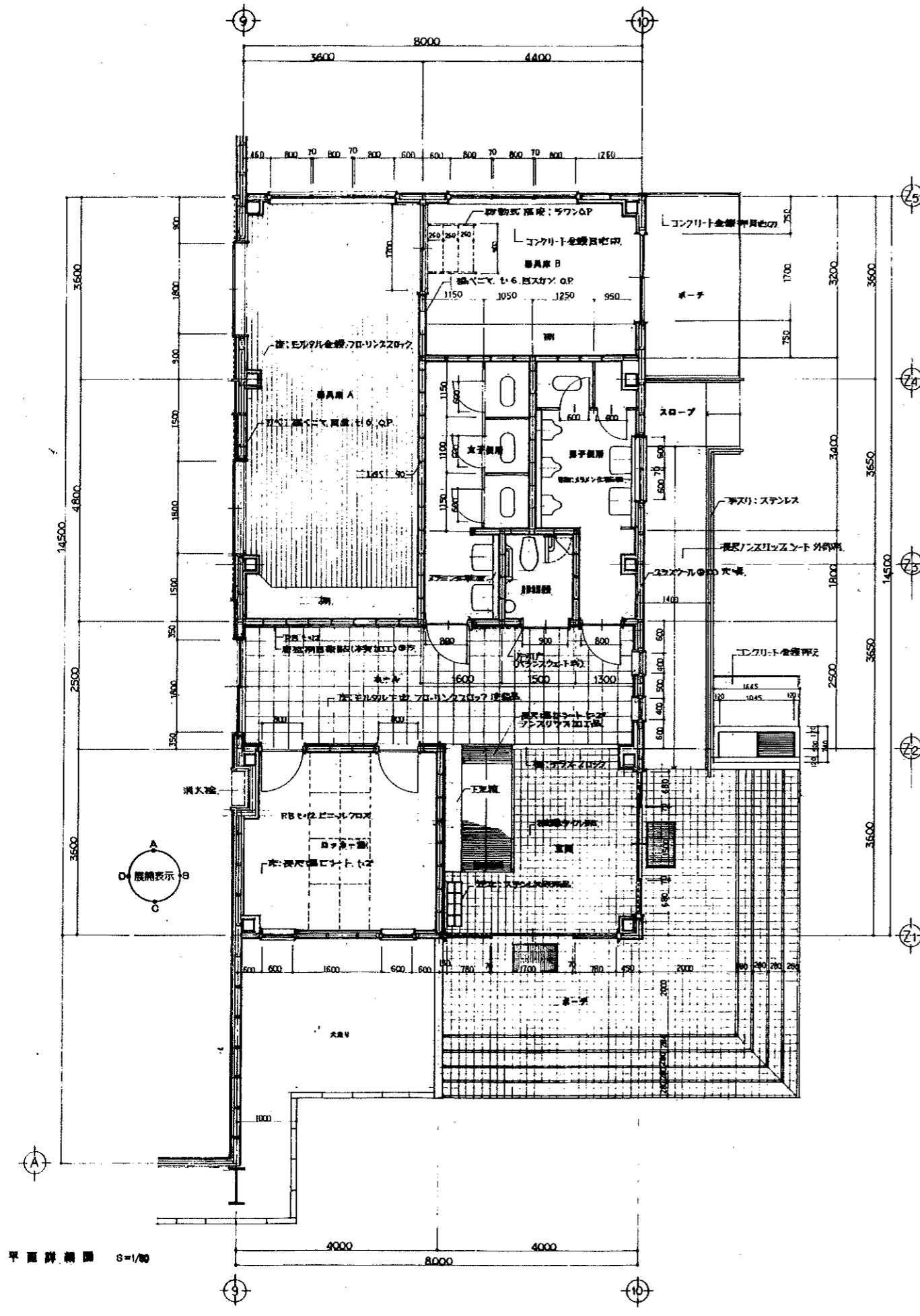


三和建築設計事務所

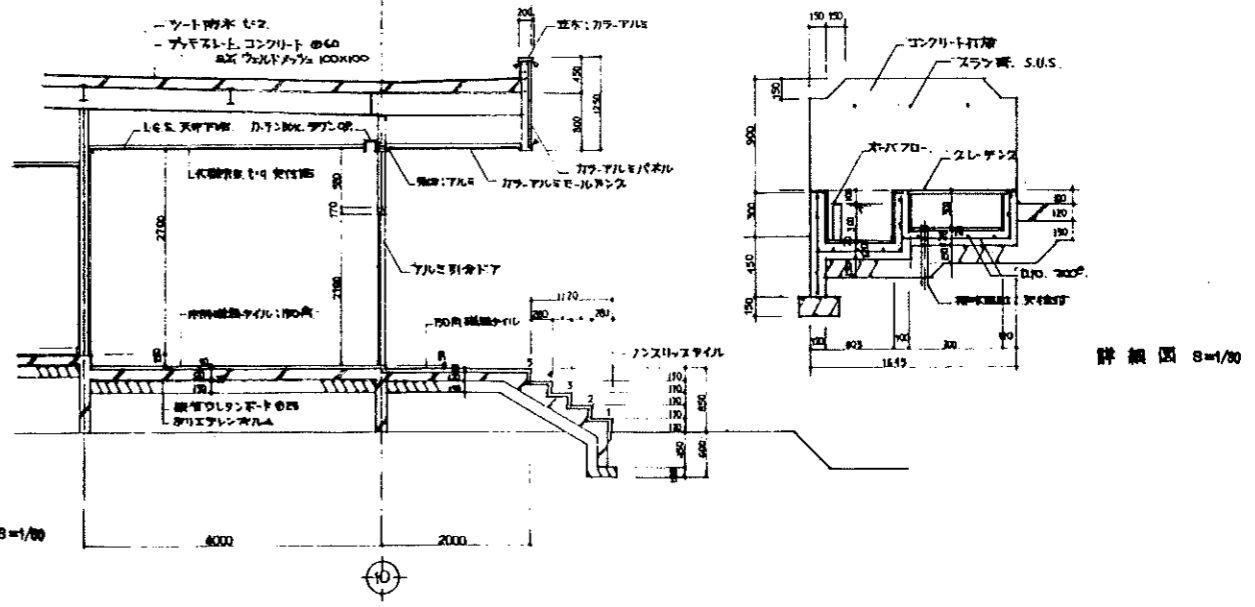
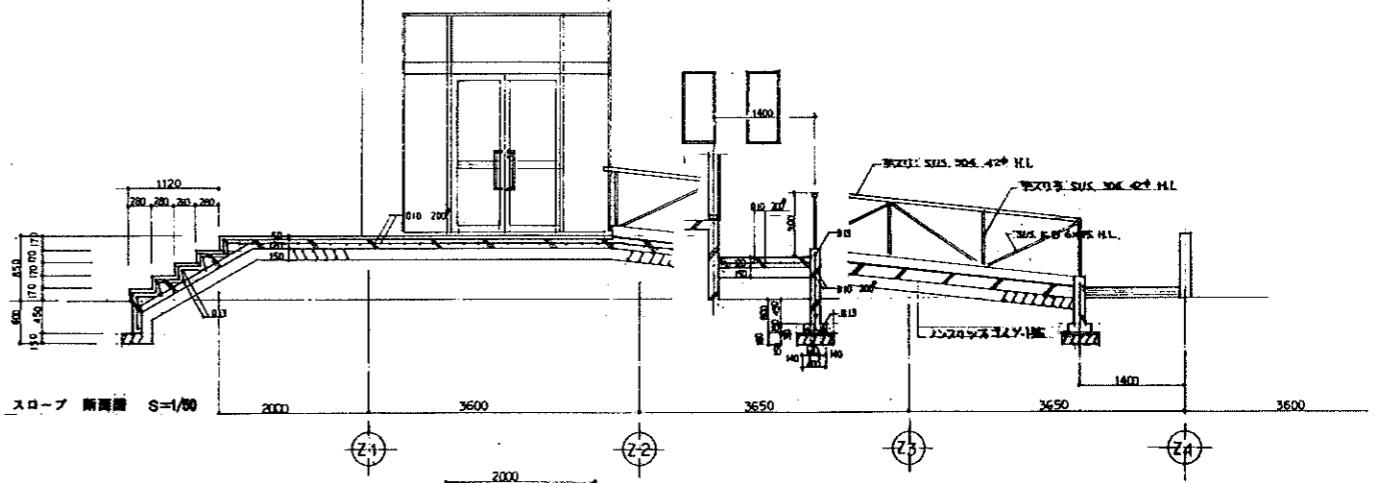
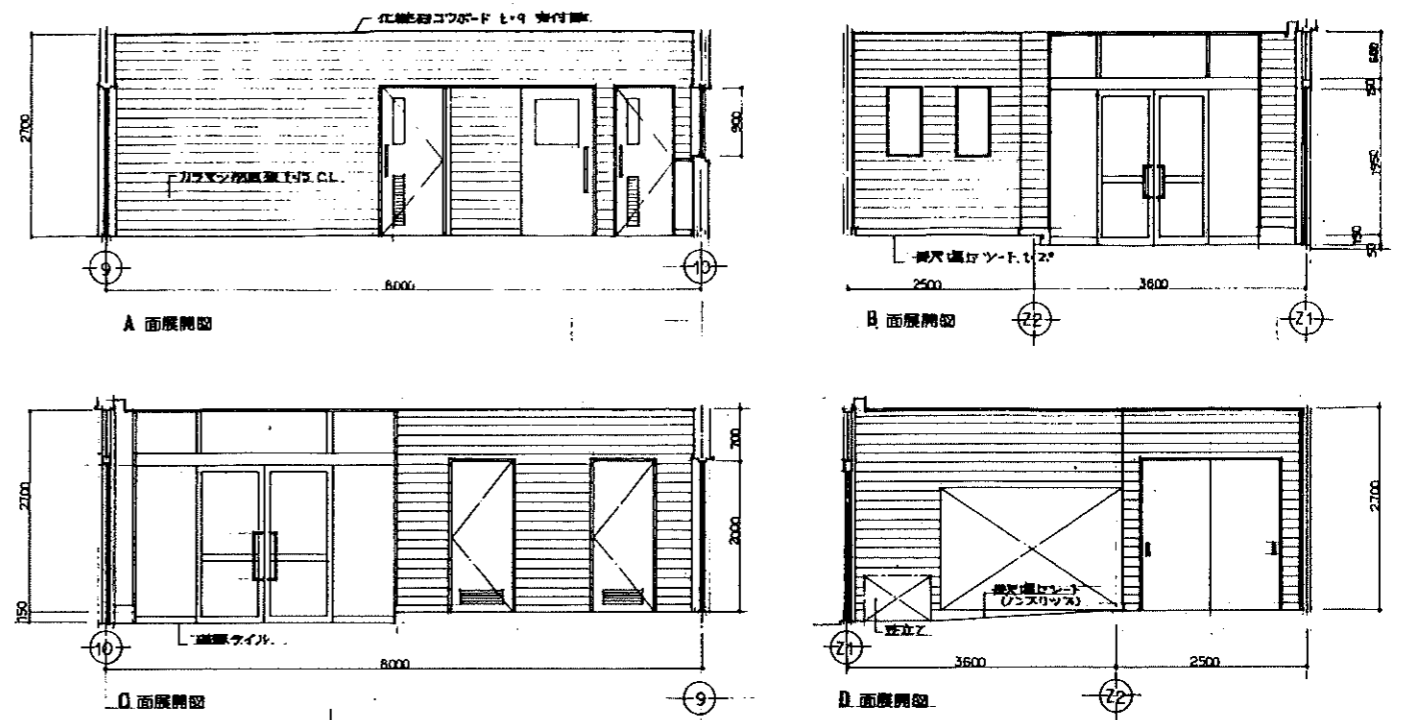
図面番号	015
縮尺	8=1/80
設計者	三和建築設計事務所
設計年月日	

工事名称 岡野村立 岡野小学校屋内運動場改築工事

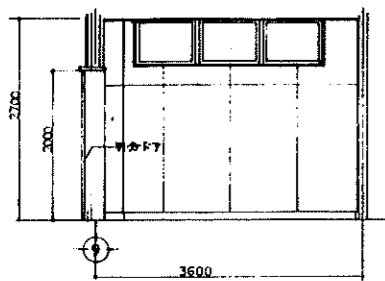
図面名称 平面図



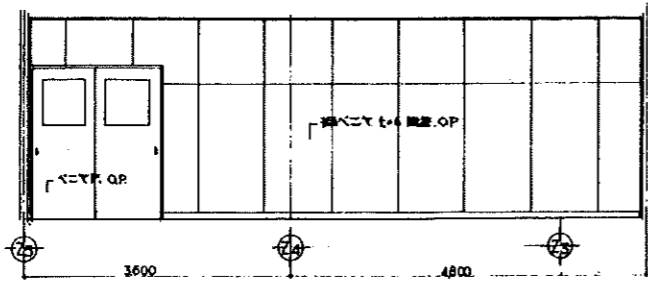
ホール 展開図 S=1/80



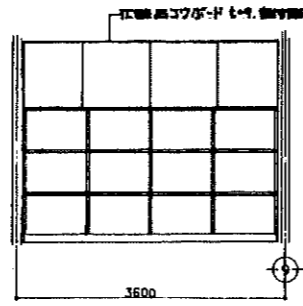
男用A 展開図



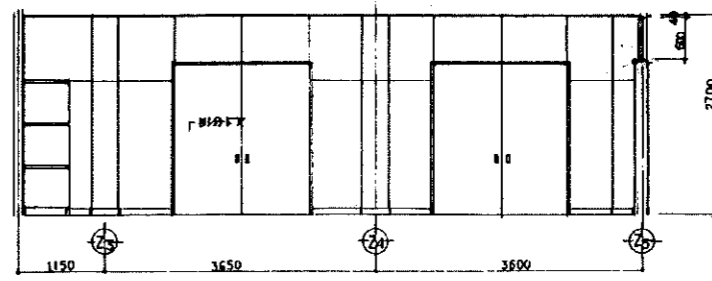
A 面展開図



B 面展開図

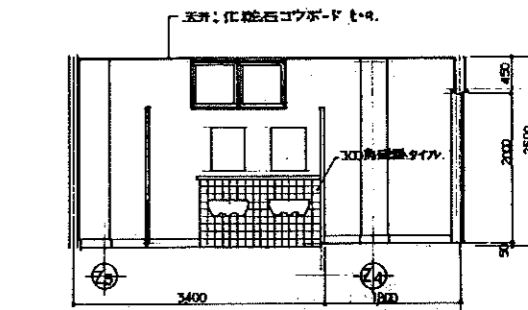
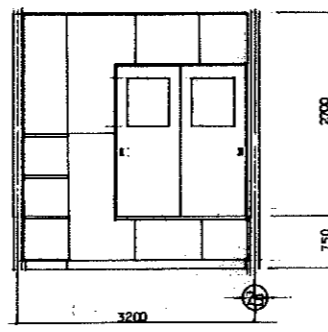
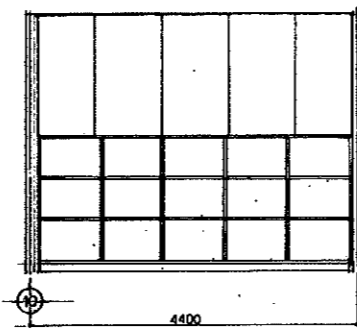
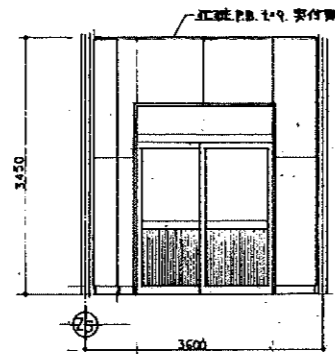
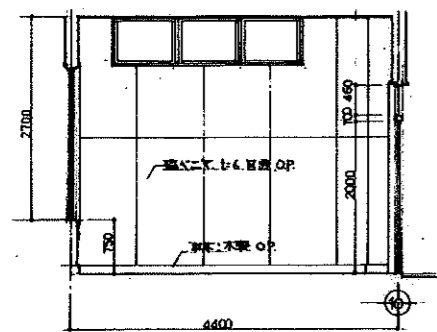


C 面展開図



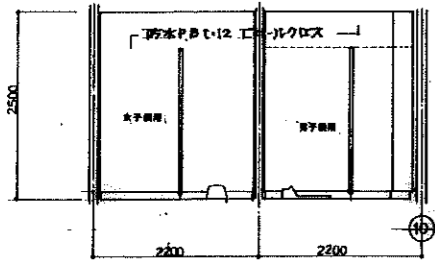
D 面展開図

男用B 展開図

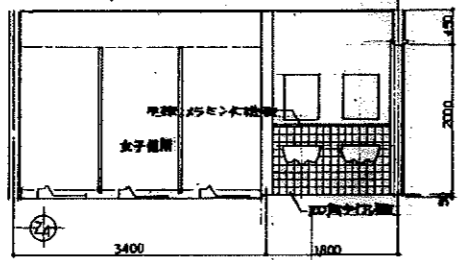


男用B 面展開図

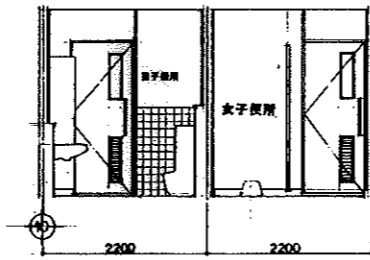
男子更衣 女子更衣 展開図



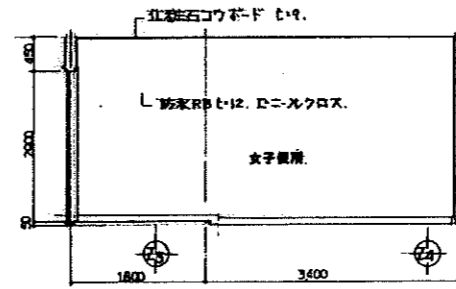
A 面展開図



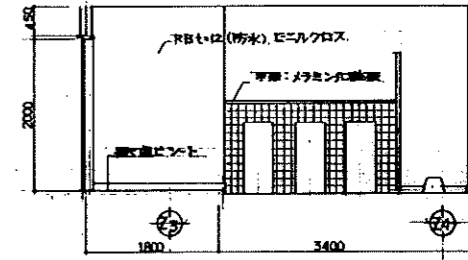
B 面展開図



C 面展開図

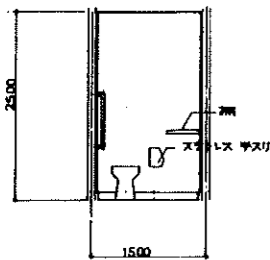


D 面展開図

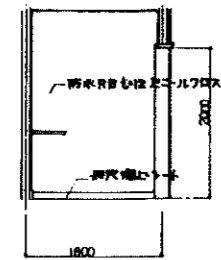


女子更衣 D 面展開図

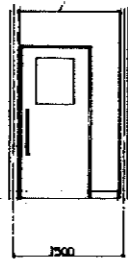
男用 展開図



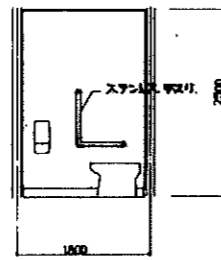
A 面展開図



B 面展開図

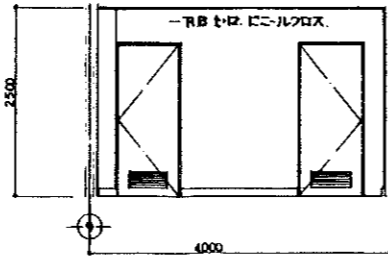


C 面展開図

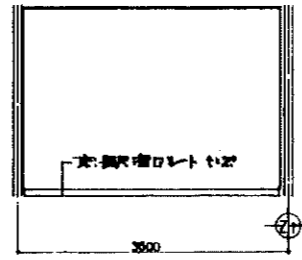


D 面展開図

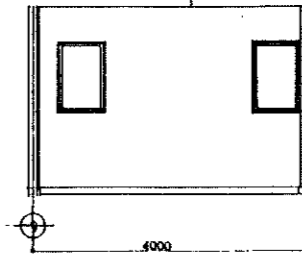
女用更衣 展開図



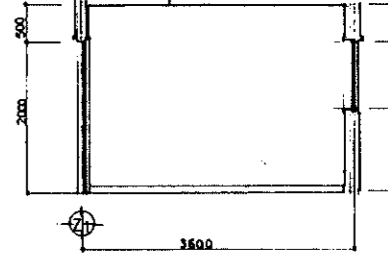
A 面展開図



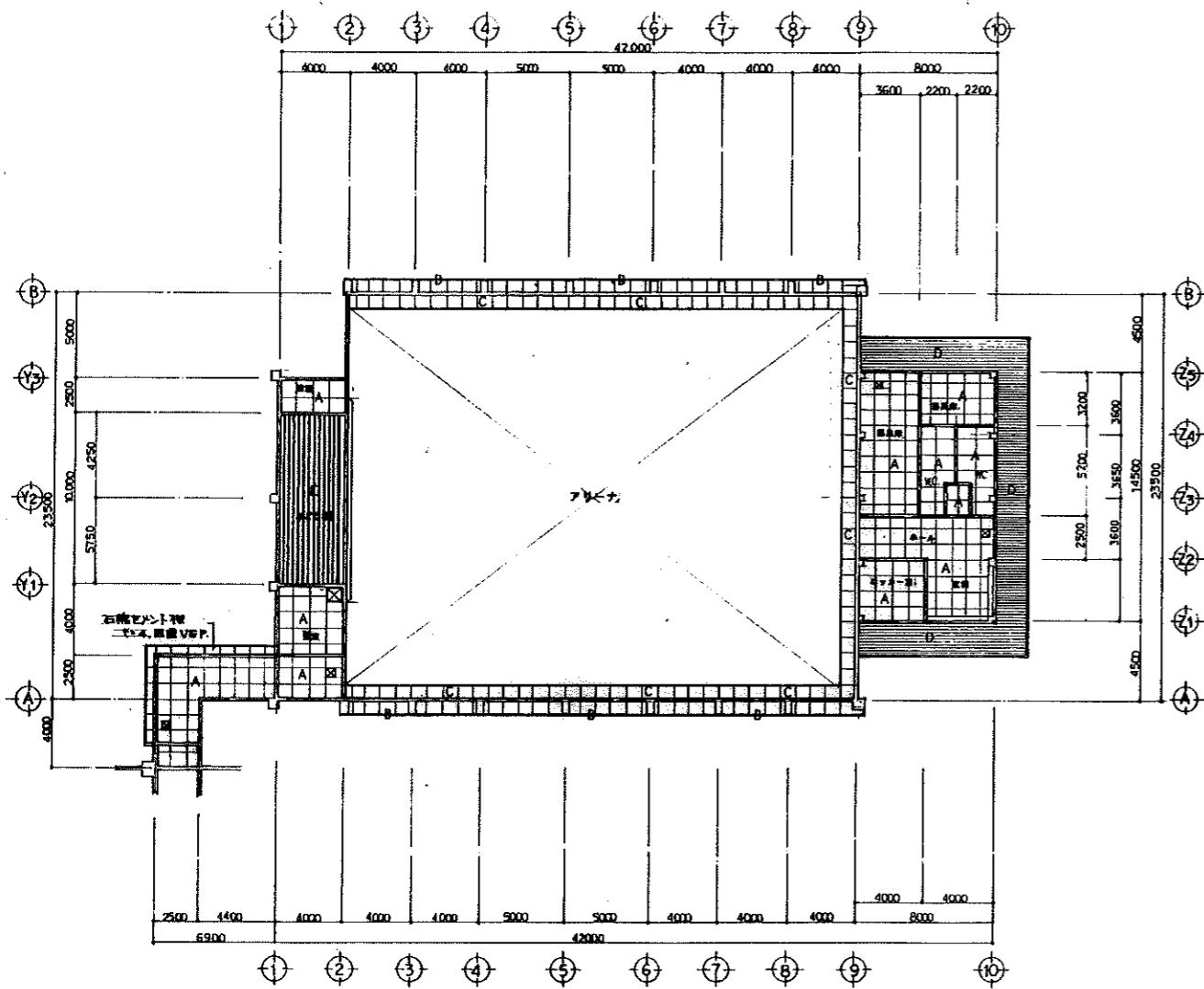
B 面展開図



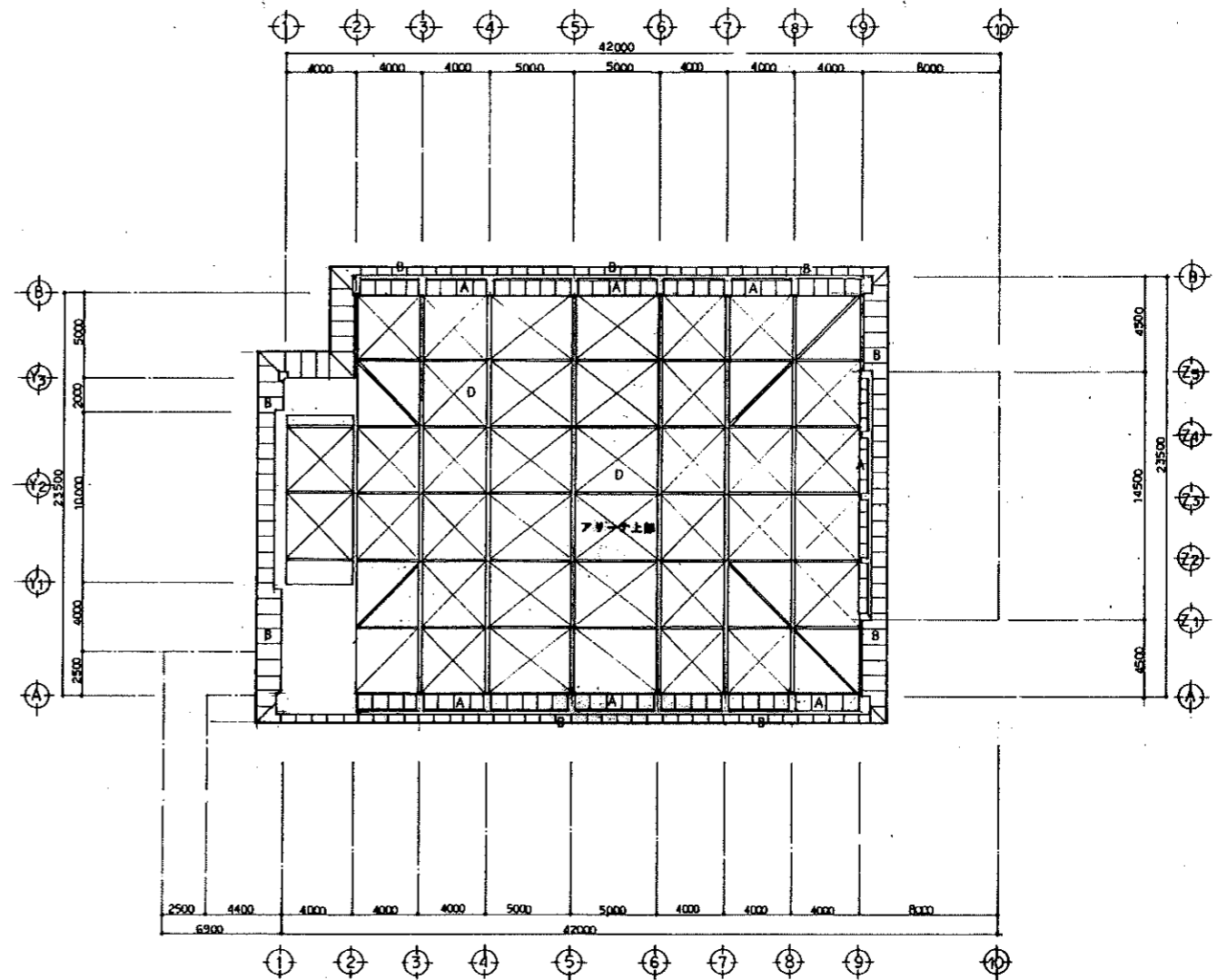
C 面展開図



D 面展開図

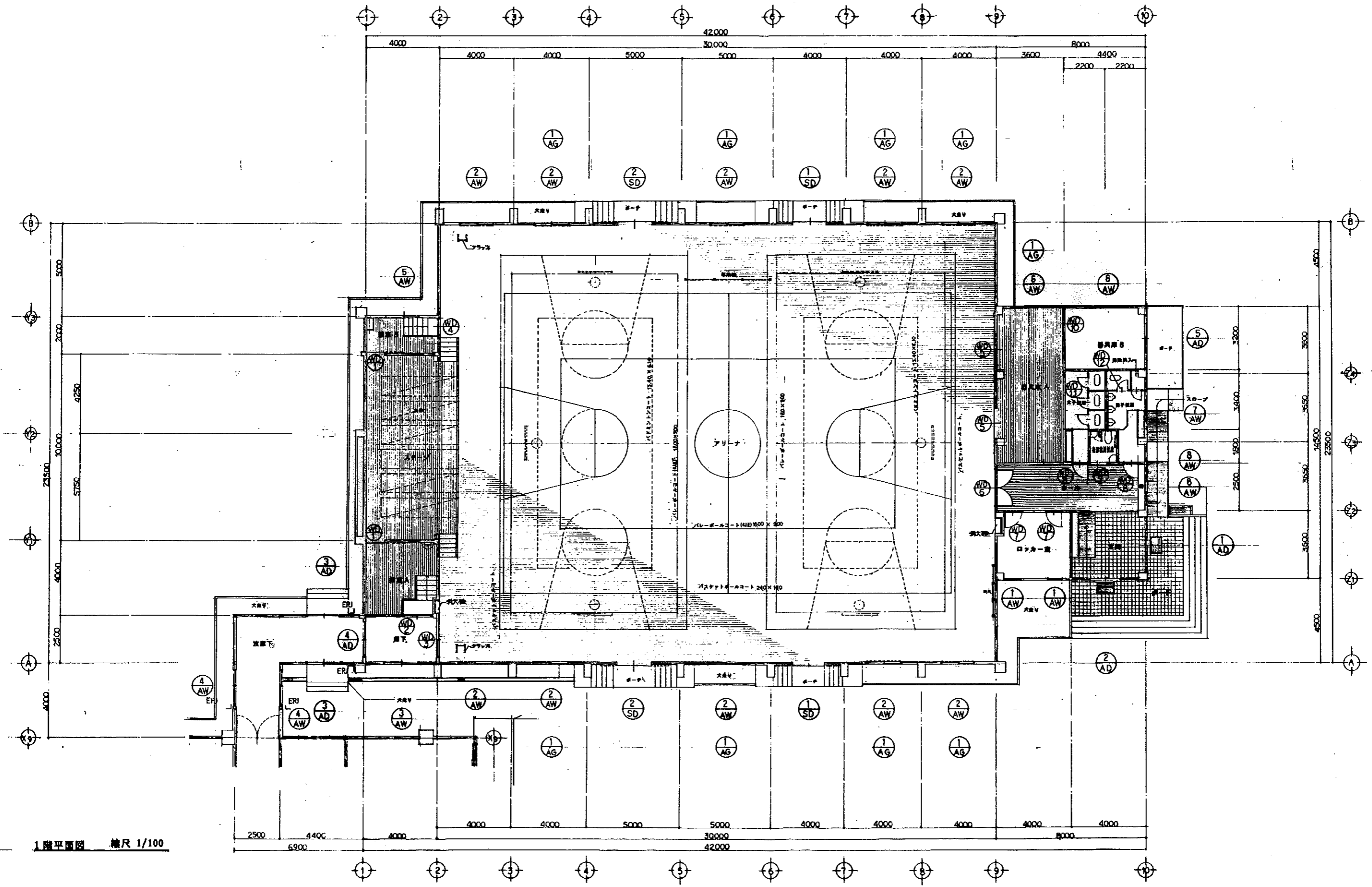


1階天井伏図 S=1/200

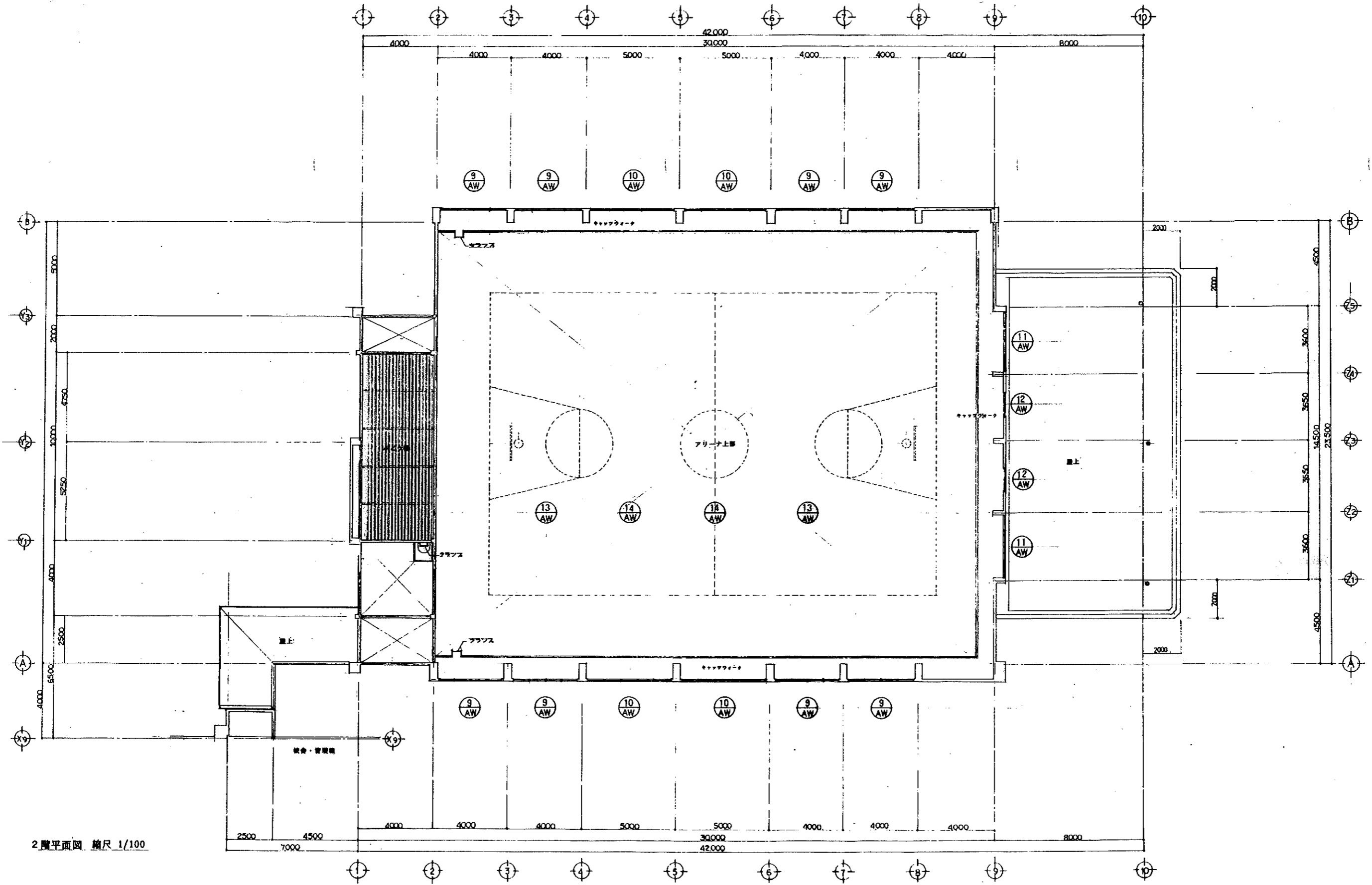


2階天井伏図 S=1/200

A	化粧石膏ボード t.9 突行部
B	振破りアルミウム板 t.5 目隠部 A-P
C	横ベニヤ t.6 目隠部 C-L
D	木目アルミウム板 20 鉄筋 O.P(2)
E	ぶどう網張り
F	天然木化粧板
D	アルミセーラン
■	天井照り口 (アルミ) 600×600 電付
□	450×450

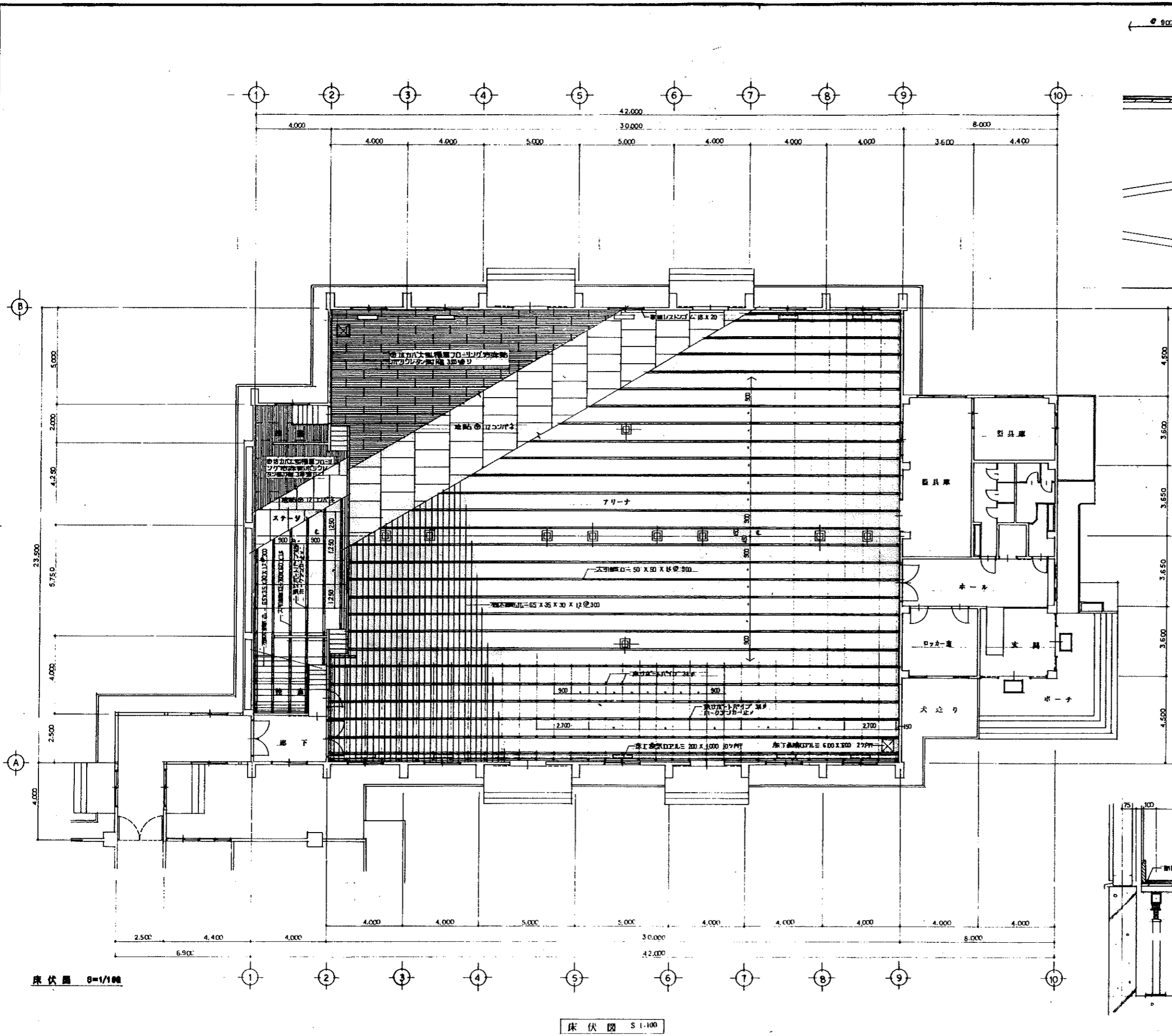


1階平面図 縮尺 1/100



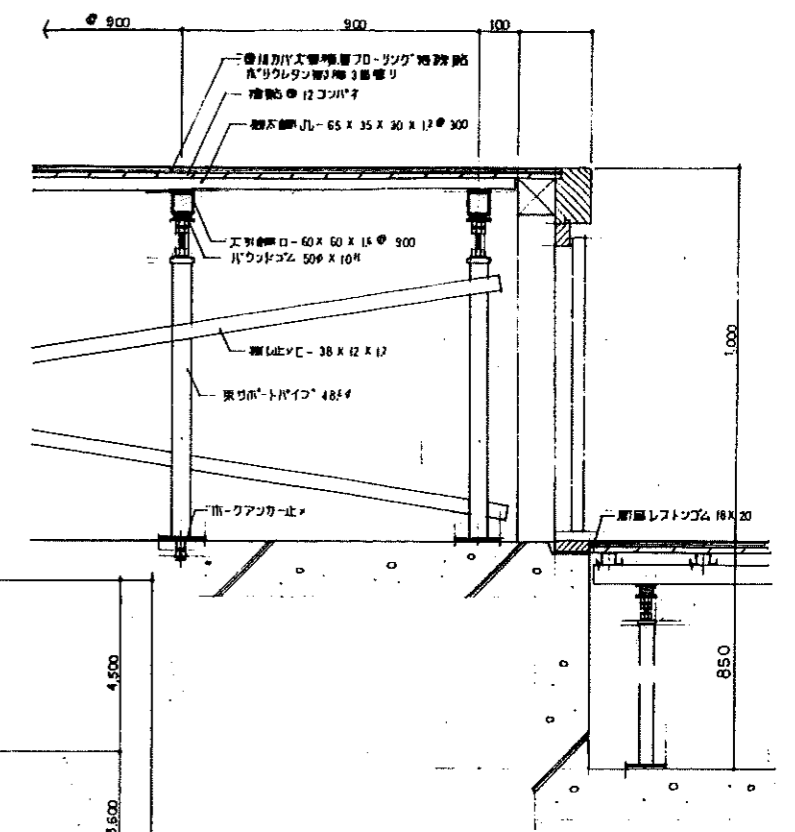
2階平面図 縮尺 1/100

図面番号	AW-1	AW-2	AW-3	(AW-4)	AW-5	AW-6	AW-7	AW-8	AW-9
取付箇所	1F ロッカー室	1F フリーナ	1F 廊下	(1F 廊下 2)	1F 控室	1F 廊下 A・B	1F 廊下 他所	1F ホール	1F 廊下 他所
数量	2	10	1	(2)	1	2	1	2	1
図面									
材質	アルミ	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左
形式	片開+錠 (平外付)	引違い錠 (平外付)	全 左	全 左	全 左	外開+錠 (平外付)	全 左	片開+錠 (平外付)	可動ガラス
仕上	ツルバー	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左
附属金物	附属金物 1 式	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左
ガラス	3mm ト-Xイ	アルミパネル 1.3m (アルミパネル同種品)	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ	3mm ト-Xイ
脚金	アングル	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左
図面番号	AW-9	AW-10	AW-11	AW-12	AW-13	AW-14	AD-1		
取付箇所	2F フリーナ 上部	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	1F 左廊		
数量	8	4	2	2	2	2	1		
図面									
材質	アルミ	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左		
形式	片開+錠+錠付ハコ=錠付引違い (平外付)	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	錠付ハコ=錠付引違い (平外付)		
仕上	ツルバー	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左		
附属金物	附属金物 1 式	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	附属金物 1 式・錠前・押棒		
ガラス	3mm ト-Xイ	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	3mm ト-Xイ 厚 4mm スクエアテンパ		
脚金	アングル	全 左	全 左	全 左	全 左	全 左	外開+錠 3 方・アングル・ステンレスガイドレール		
図面番号	AD-2	AD-3	AD-4	SD-1	SD-2	AD-5			
取付箇所	1F 玄関	1F 廊下 下	1F 廊下	1F フリーナ	全 左	器具庫 B			
数量	1	2	1	2	2	1			
図面									
材質	アルミ	全 左	全 左	ステンレス	全 左	アルミ			
形式	錠付ハコ=錠付引違い (手動)	引違い戸 (平外付)	錠付ハコ引違い戸	引違い戸引分け	全 左	引違い 片外付			
仕上	ツルバー	全 左	全 左	全 左	全 左	ツルバー			
附属金物	附属金物 1 式・錠前・押棒	附属金物 1 式	全 左	附属金物 1 式・引分・錠前	全 左	附属金物 1 式			
ガラス	3mm ト-Xイ 厚 4mm スクエアテンパ	3mm ト-Xイ E. アルミパネル 3mm	全 左	7mm ト-Xイ 厚 4mm スクエアテンパ 附属金物 1 式・引分・錠前	全 左	5% FL アルミパネル 3mm			
脚金	外開+錠 3 方・アングル・ステンレスガイドレール	下枠(レール) ステンレス・アングル	下枠(レール) ステンレス・内外アングル	4-4 方枠 180 (ステンレス)	全 左	下枠: ステンレス 4 方アングル			
図面番号									
取付箇所									
数量									
図面									
材質									
形式									
仕上									
附属金物									
ガラス									
脚金									

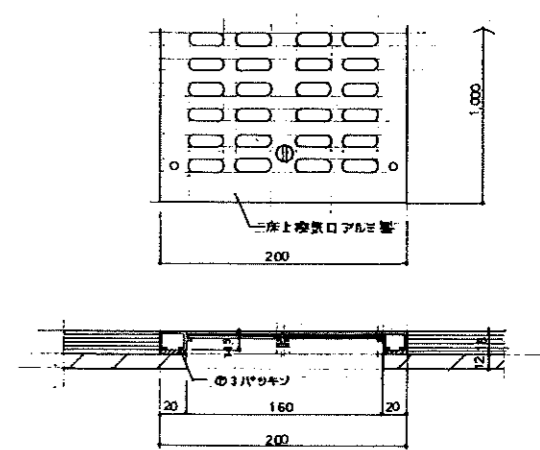


床伏図 8-1/100

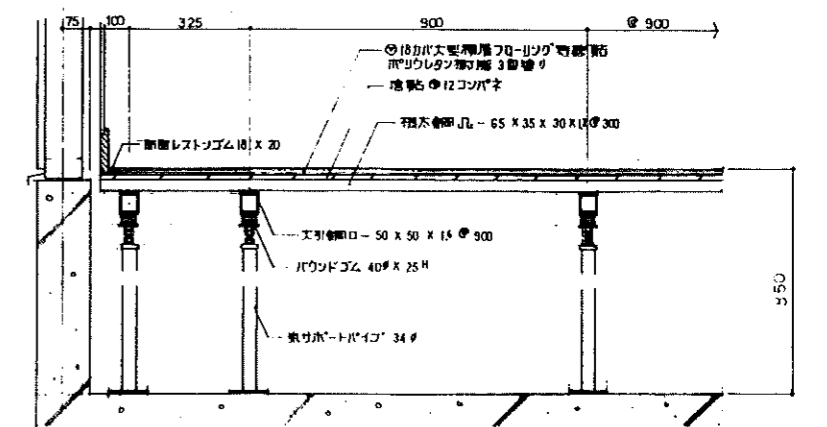
床伏図 S 1-100



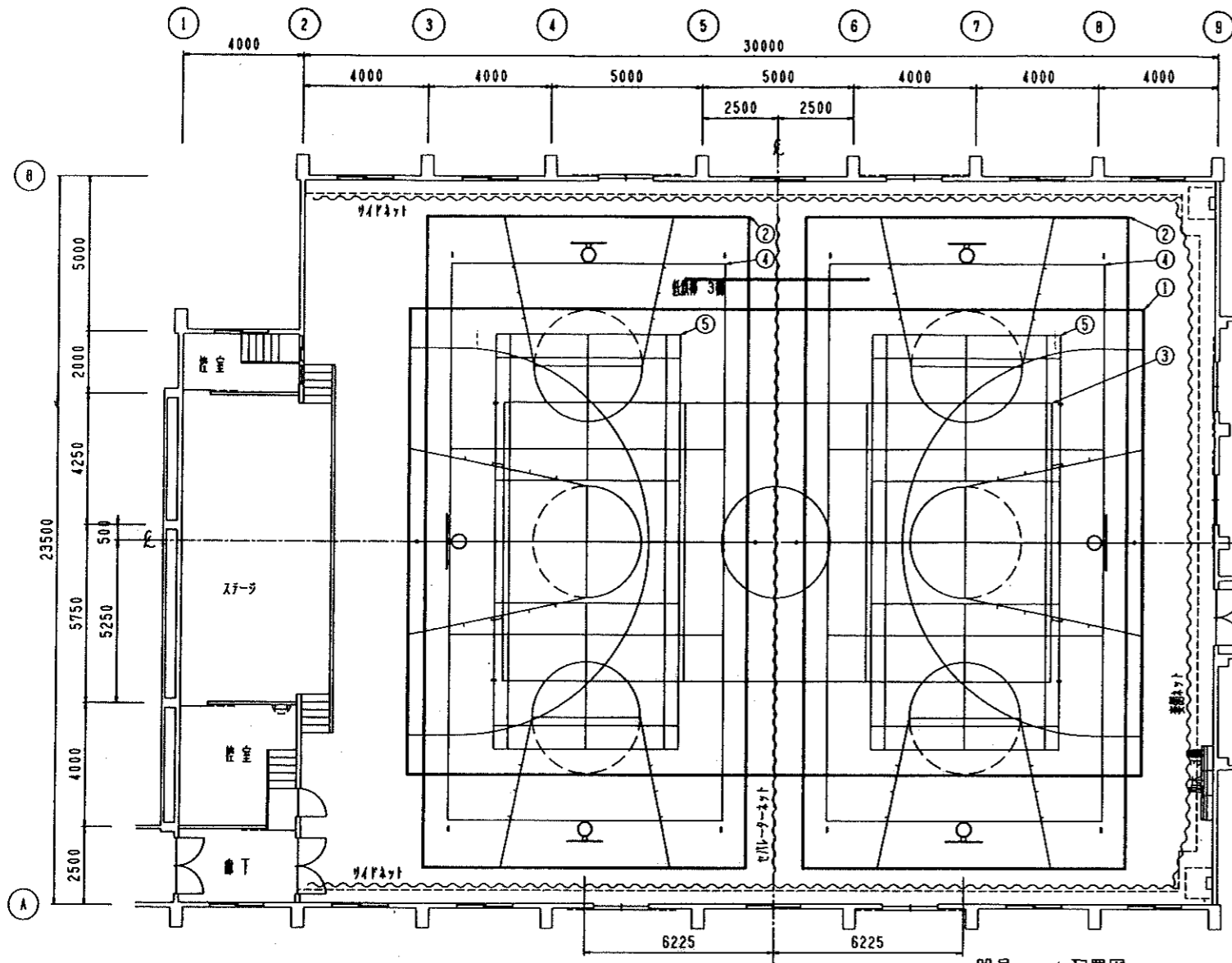
スチール製床組断面詳細図 8-1-110



床上鉄口詳細図 8-1-13

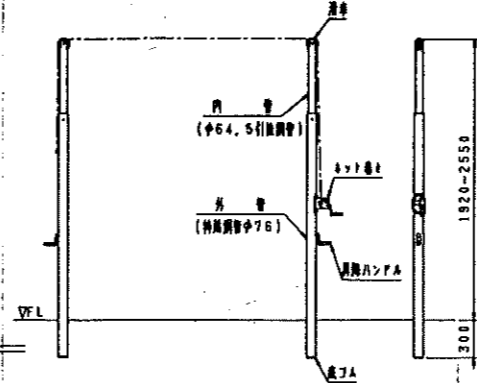


アリーナ製床組断面詳細図 8-1-118

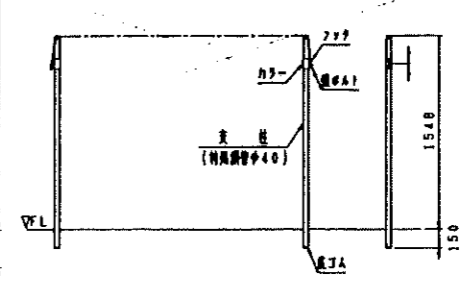


器具コート配置図 S=1/100

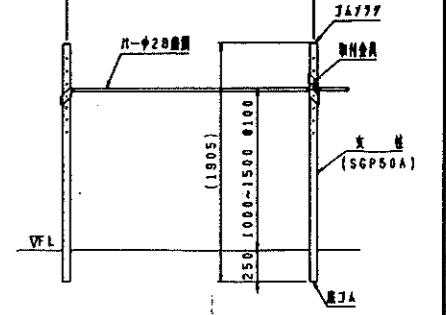
DE1015 ハレーボール用支柱
バベルギヤード式



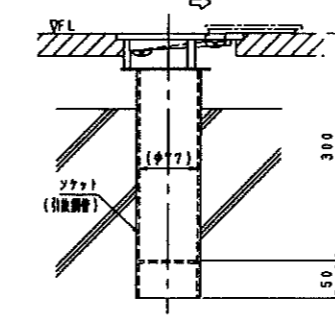
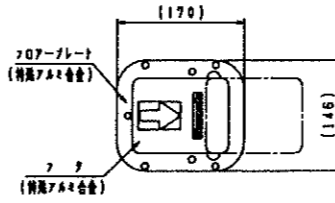
DG0110 パーミントン用支柱差込式
日本パーミントン協会推奨品



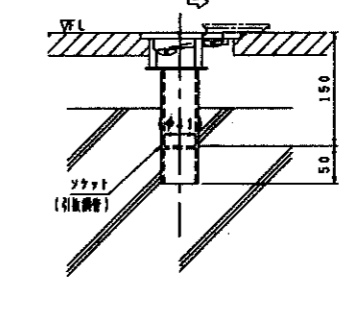
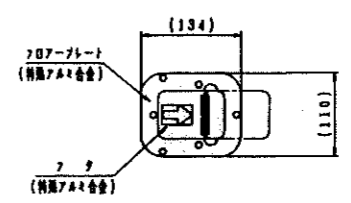
AA2000 体育館用低鉄棒 3欄型



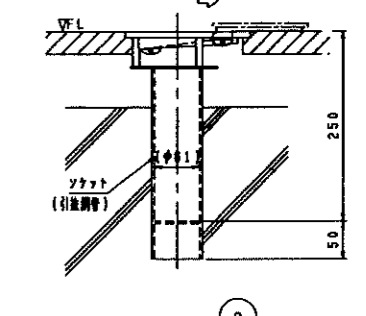
KD0110 床金具AS型φ76用
(ハレーボール用)



KD0500 床金具AS型φ40用
(パーミントン用)

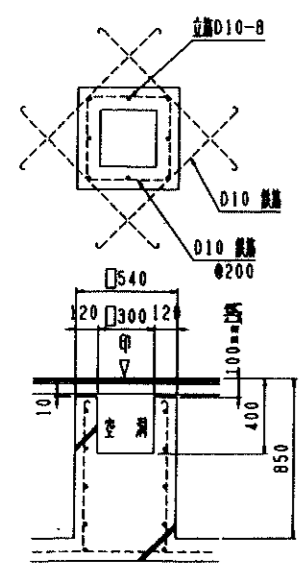


KD0200 床金具AS型φ60用
(低鉄棒用)

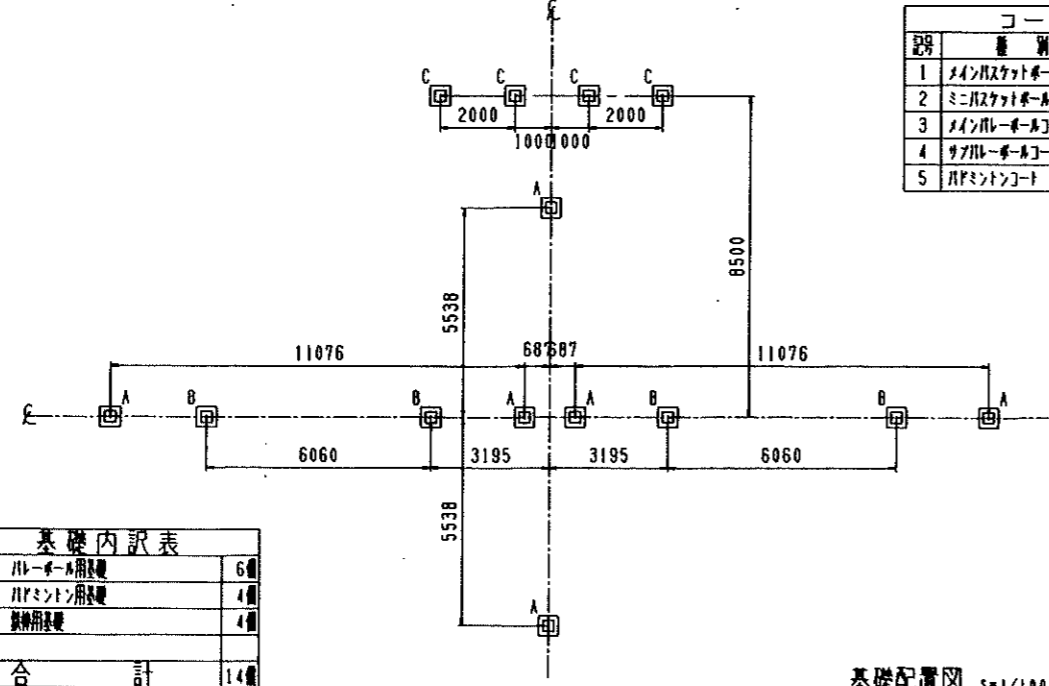


コートライン内訳表			
記号	種別	寸法	面積 種別
1	メインバスケットコート	24000X15000	1面 実線
2	ミニバスケットコート	21000X10500	2面 実線(センターサークル、メイン線)
3	メインバレーコート	18000X 9000	1面 実線
4	サブバレーコート	18000X 9000	2面 実線
5	パーミントンコート	13400X 6100	2面 実線

基礎詳細 1/20

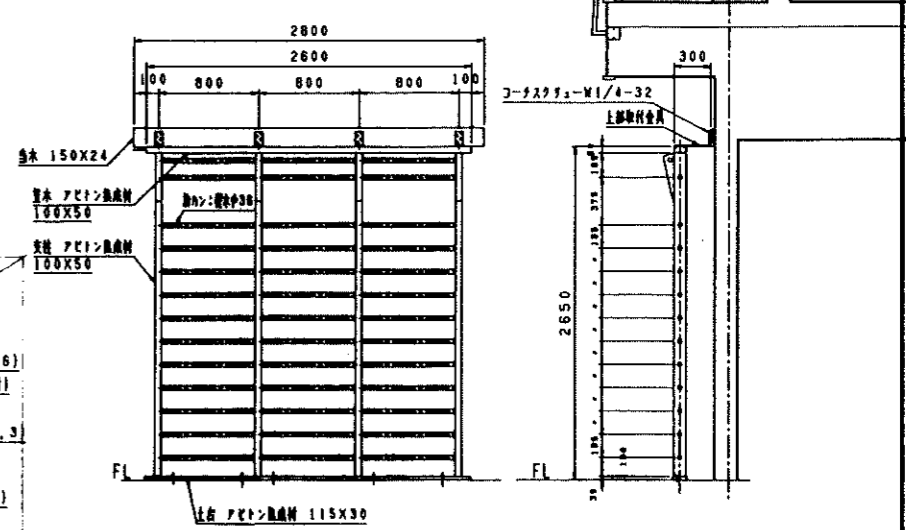


基礎内訳表		
A	バレーボール用基礎	6個
B	パーミントン用基礎	4個
C	低鉄棒用基礎	4個
合 計		14個

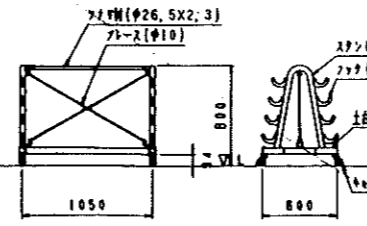


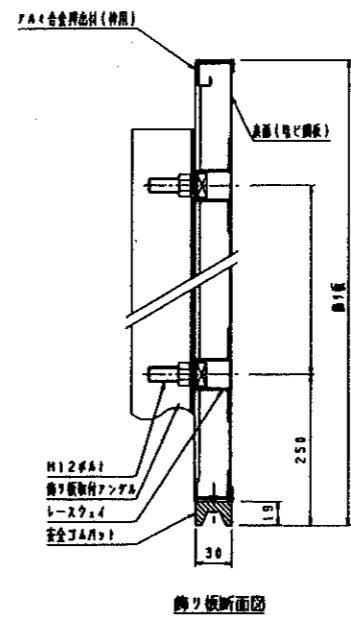
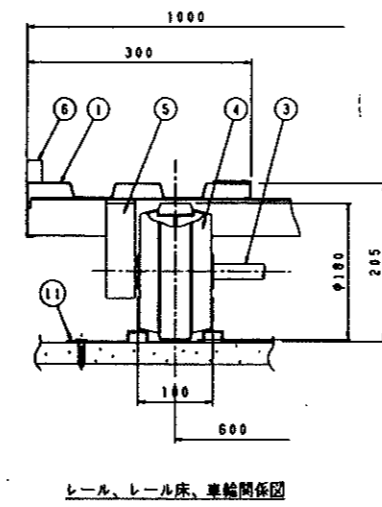
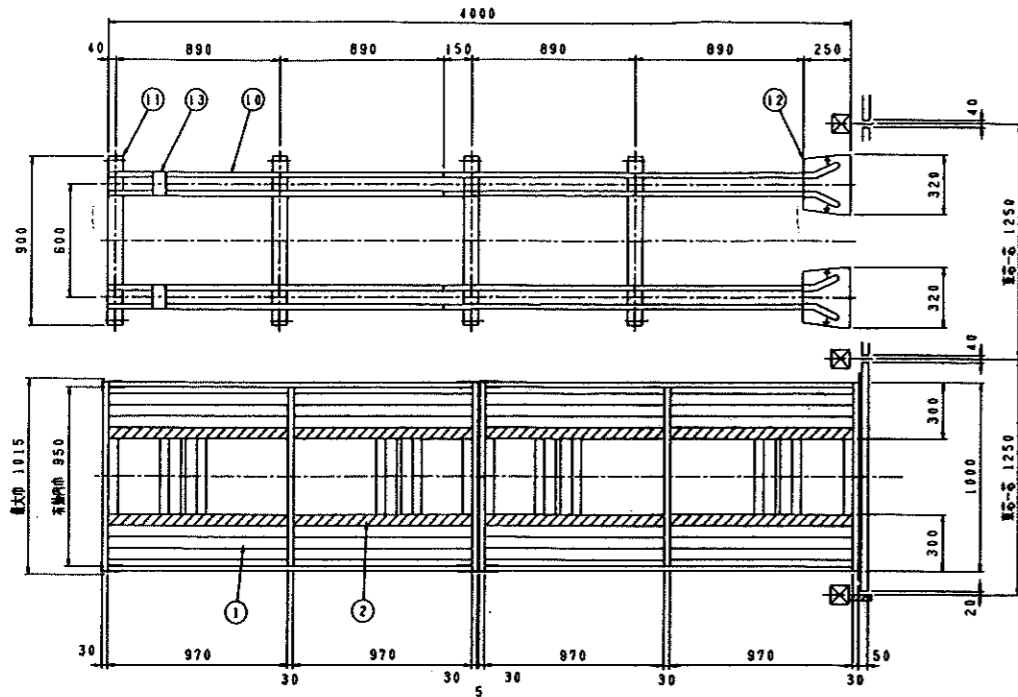
基礎配置図 S=1/100

HB0111 肋木 3欄型
S=1/30

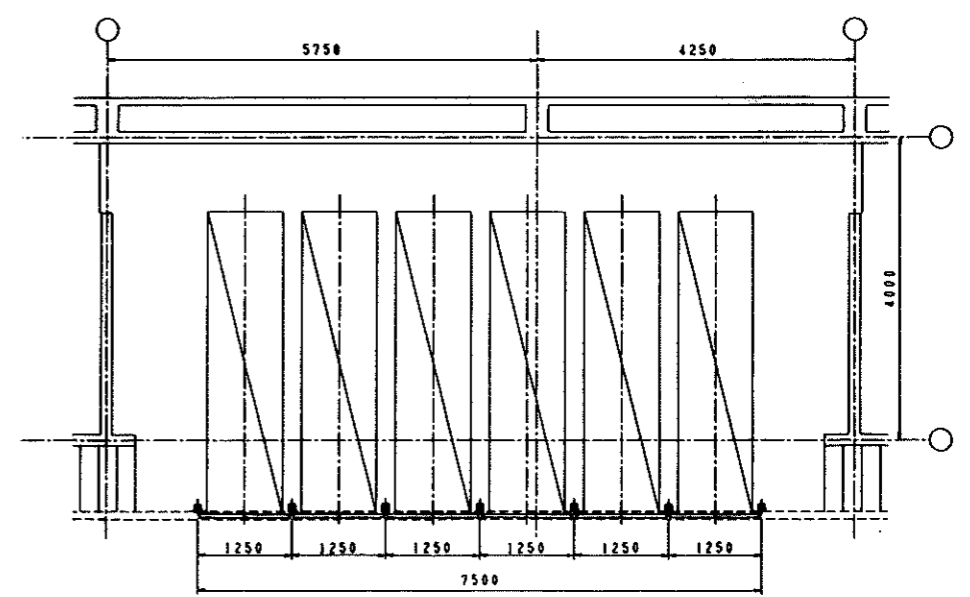
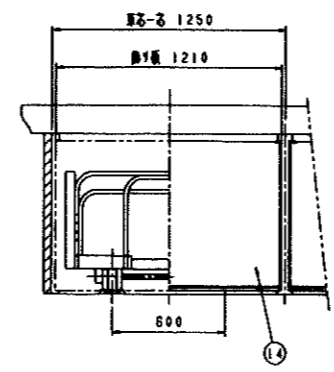
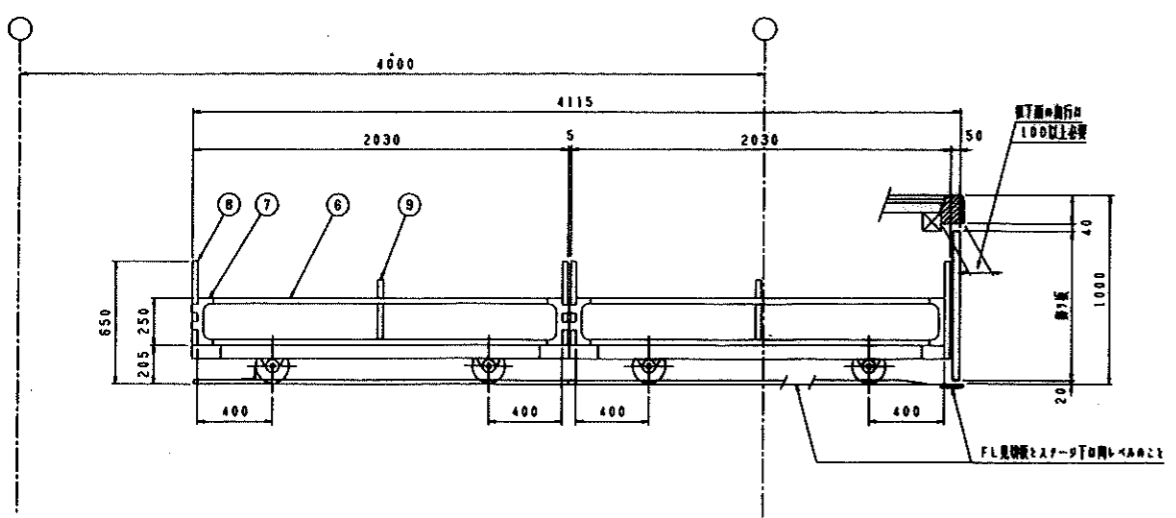


DK0110 ホールバー整理台
標準仕様 8本 1/30





主 機 成 部 品			
NO	品 名	材 料・加 工	表 面 処 理
1	床 板	亜鉛メッキ鋼板φ0.8を曲げ加工	亜鉛メッキ
2	椅子滑り止め	ポリエチレン樹脂発泡材	
3	車 輪	機械構造用炭素鋼管φ20×12.5	焼付塗装
4	車 輪	冷延鋼板12.0をプレス加工した後、その外周に合成ゴムを焼付けした一体型車輪(軸受部はベアリング嵌合)	
5	軸 受	熱延鋼板14.5を曲げ加工	焼付塗装
6	サイド枠	亜鉛メッキ鋼板をフェーミング加工 30×20×10.8	亜鉛メッキ
7	ジョイントコネクタ	熱延鋼板12.0を曲げ加工	焼付塗装
8	ハンドル	亜鉛メッキ鋼板をフェーミング加工 30×20×10.8	亜鉛メッキ
9	椅子倒れ止め	亜鉛メッキ鋼板をフェーミング加工 30×20×10.8	亜鉛メッキ
10	レール	亜鉛メッキ鋼板11.6をフェーミング加工	亜鉛メッキ
11	枕 板	亜鉛メッキ鋼板11.6をプレス加工	亜鉛メッキ
12	車輪ガイド	亜鉛メッキ鋼板11.6をプレス加工	焼付塗装
13	ストッパー	一般構造用圧延鋼板16.0を曲げ加工	焼付塗装
14	脚り板	冷延鋼板1.2を曲げ加工し(合成ゴム製安全パット付)	



台車収納時平面配置図 (S=1/50)

- 備 考
- 製作数 6列 6輪 (フジトラックFT-1-4000L)
 - レールの製作及び取付工事はこの図面に含まれます
 - 脚り板の製作及び取付調整はこの図面に含まれます
 - レール下地(モルタル)はこの図面より除外とします

1 適用範囲

この記号標準は、鉄筋コンクリート構造部分の記号標準であり、記号及び特記
記載されていない事項については適用する。

参考文献

建設省建築技術情報センター「建築工事共通仕様書」平成6年版 建設省建築技術情報センター
建設省建築技術情報センター「建築工事共通仕様書」平成6年版 建設省建築技術情報センター
建設省建築技術情報センター「鉄筋コンクリート構造記号標準」平成4年版 建設省建築技術情報センター
建設省建築技術情報センター「鉄筋コンクリート構造記号標準」平成4年版 建設省建築技術情報センター
建設省建築技術情報センター「鉄筋コンクリート構造記号標準」平成4年版 建設省建築技術情報センター
建設省建築技術情報センター「鉄筋コンクリート構造記号標準」平成4年版 建設省建築技術情報センター

2 一般共通事項

2-1 補則

- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常型で正しく加工する。
- 鉄筋の径(5章の本文、図、表においてdで示す)は、異形鉄筋では呼び径に用いた数値とする。
- 鉄筋の端手は、直端端手、ガス圧縮端手又は特殊な鉄筋端手(端部処理後行金75度角の端部に適合するもの)とし、適用は、特記による。特記がなければ、直端端手とし、ガス圧縮端手とし、その他は直端端手とする。
なお、SD30Aは、ガス圧縮端手としてはならない。また、D20以上の場合は、直端端手としてはならない。
- 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。
- パイプコイルの鉄筋は、直端端手に用いて使用する。
- 鉄筋の切断は、シャッカー又は他の工具によって行う。ただし、やむを得ない場合は、鋸歯の裏面を受けて、ガス切断とすることができる。
- 鉄筋には、点付加筋、アースライクを行ってはならない。ただし、監理員の承認を受けて、鉄筋を予備して埋める場合は、点付加筋とすることができる。
- 鉄筋の接合は、アースライクとし、7.5T(建設施行)とし、また、建設仕様書は、7.5S(建設仕様書)に準じ、工事に関する技術仕様書による。
- 鉄筋の束縛部は、次の場合にフックをつける。
(1) 柱の束縛部は、柱の出筋及び下筋の両端にある場合(図5.2.1(a)参照)で示す事項。
(2) 梁の主筋の直端端手が、梁の出筋及び下筋の両端にある場合(図5.2.1(b)参照)で示す事項。ただし、端部を除く。

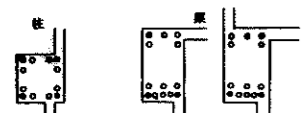


図5.2.1

- 端部の鉄筋(梁の一部と断面を含む)。
- 柱の端部の鉄筋。
- 端部、および束縛部。
- 鉄筋の折曲げは、図5.2.1及び図5.2.2による。

2-2 鉄筋の折曲げ

表5.2.1 鉄筋の折曲げ(末端部)

折曲げ 角度	折曲げ 間隔	D20A, SD20B D25A, SD25B			使用箇所
		D10 以下	D10 以上	D10 以上	
90°	D 3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の端部 端部の鉄筋	
135°	D 3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D15以下の鉄筋	
90° 及び 135°	D 3d以上	4d以上	5d以上	7字形の鉄筋 の束縛部	
135° 及び 90°	D 3d以上	4d以上	5d以上	端部	

- Dは、曲げ内径を示す。
- dは、呼び径に用いた数値を示す。

表5.2.2 鉄筋の折曲げ(中間部)

折曲げ 角度	折曲げ 間隔	SD20A, SD20B D25A, SD25B			使用箇所
		D10 以下	D10 以上	D10 以上	
90°	D 3d以上	4d以上	-	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋	
90° 以下	D 4d以上	6d以上	8d以上	その他鉄筋	

- Dは、曲げ内径を示す。
- dは、呼び径に用いた数値を示す。

2-3 鉄筋の端手及び位置

- 直端端手及び端部の長さ、次に示す。
なお、異なる鉄筋の異なる長さ、異なる鉄筋による。
(1) 鉄筋の端手及び位置
鉄筋の端手及び位置の長さは、図5.2.3による。
なお、コンクリートの設計基準強度(F_{cd})が20N/mm²(18N/mm²)の場合は、L₁及びL₂の長さを、図5.2.3に示す長さの1.5倍とする。

図5.2.3 鉄筋の端手及び位置

端部の 種類	フックあり		フックなし	
	L ₁	L ₂	L ₁	L ₂
直端端手	10d	10d	10d	10d
ガス圧縮端手	10d	10d	10d	10d
特殊な鉄筋端手	10d	10d	10d	10d

- (注) 1. L₁: 直端端手及び下筋2及び上筋以外の定長長さ。
2. L₂: 鋼筋の束縛部のない箇所の定長長さ。
3. L₃: 小径及び下筋の下端部の定長長さ。ただし、基礎部分、これを受ける小径及び下筋を除く。
4. フックのある場合のL₁, L₂及びL₃は、図5.2.1(c)に示すようにフック部分も含む。

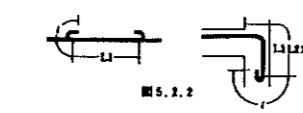
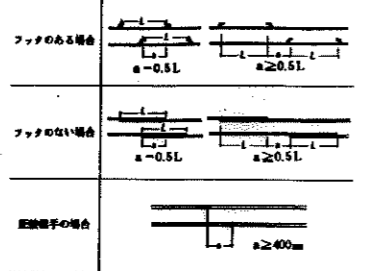


図5.2.2

2-4 鋼りかぎの位置

- (a) 鋼りかぎの位置は、図5.2.4による。ただし、断面及び位置は、特記による。
- (b) 先頭加工等では、梁の主筋の鋼りかぎを同一所に設ける場合は、特記による。

図5.2.4 鋼りかぎの位置



2-5 溶接金網の端手及び位置

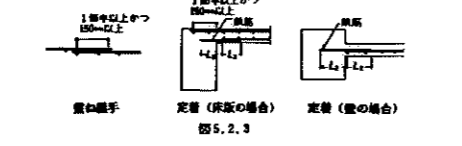


図5.2.3

2-6 スパイラル筋の端手及び位置

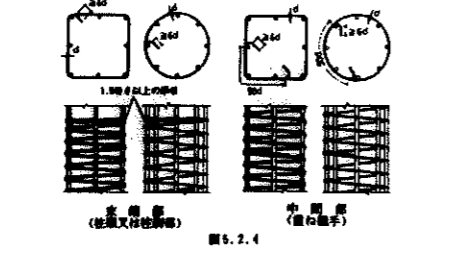


図5.2.4

- (1) 鉄筋の束縛は、鉄筋の束縛部及び端部部分の束縛部を0.8m以上の間隔で束縛し、適切な位置にスペーサー、うき、消音物等を使用する。
なお、スペーサーは、束縛部及び束縛部等に挿入されるものとし、束縛部のスペーサーは、束縛部と同一位置とする。また、コンクリートの打設し仕上げとなる箇所には、防振部を行ったスペーサーを使用する。
(2) 鋼りかぎしたコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付加部で束縛部を、できるだけ長い距離で修正する。
(3) 防振部、スイッチ等の設置により、本章に規定する距離ができない場合は、監理員と協議する。

2-7 鉄筋(溶接金網を含む)の最小小径

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小小径は、特記による。特記がなければ、図5.2.5による。ただし、柱及び梁の主筋にD20以上を使用する場合は、主筋の小径を、梁の1.5倍以上として最小小径を定める。
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いる小径は、最小小径に10mmを加えた数値を標準とする。

3.1.5 鉄筋の最小小径 (mm)

部 分	呼び径	
	20	25
柱、梁	10	10
基礎	10	10
その他	10	10

- (注) 1. 4号の小径は、管コンクリートに適用し、管コンクリートの場合は特記による。
2. 柱及び梁は、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、取付け部は、鉄筋の耐久上必要な仕上げのものとする。
3. 断面、はり、基礎及び梁、基礎に束縛する部分の小径は、管コンクリートの厚さを含まない。
4. くい基礎の場合の小径は、くい径からとする。
5. 地盤を受けるおそれのある部分、耐久上不利な箇所には、図5.2.5は適用しない。

- (c) 鉄筋相互の束縛は、次のうち最大のものとする。ただし、特殊な鉄筋束縛の場合を除く。
(1) 鋼りかぎの最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 鉄筋の径(呼び径に用いた数値d)の1.5倍。

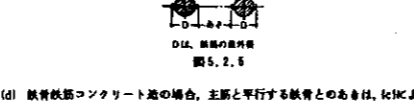


図5.2.5

- (d) 鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋との場合は、10Kによる。

2-8 スペーサーの鋼りかぎの標準

部 分	上 部	下 部	注
上 部	1.2m/4	1.2m/4	断面、断面とも 高さ方向2m 間1.2m以内
下 部	1.2m/4	1.2m/4	断面、断面とも 高さ方向2m 間1.2m以内

注「監理仕様」による

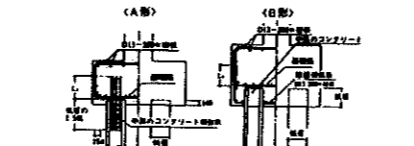
3 基礎

3-1 直接基礎



3-2 杭基礎の場合

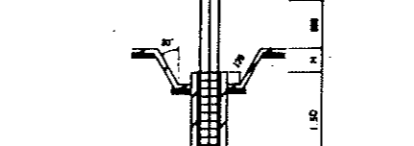
既設コンクリート杭の基礎補強の方法は、図5.3.2のA形又はB形とし、適用は、特記による。特記がなければA形とする。
なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ配合のコンクリートを使用する。
既設コンクリート杭以外の場合は、特記による。



- (注) 1. 中詰めコンクリートは、次のとおりとする。
○ 中詰めコンクリートは、呼び径D10以上とする。
○ 中詰めコンクリートは、呼び径D10以上とする。
○ 中詰めコンクリートは、呼び径D10以上とする。
2. 中詰めコンクリートは、フックをつける。

図5.3.2

H<Dの範囲で杭が下がった場合



3-3 布基礎の場合

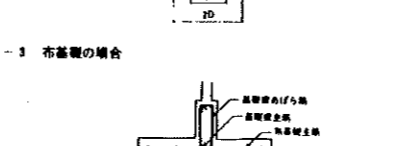


図5.3.3

3-4 基礎接合部の補強

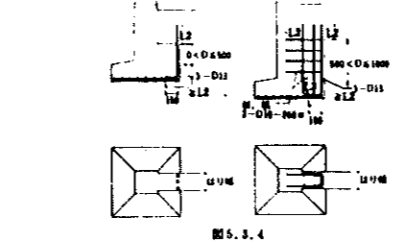
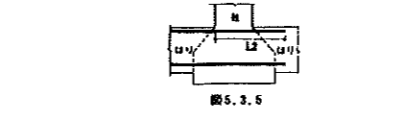


図5.3.4

4 蓋 ば り

4-1 基礎ばり基礎の端手及び位置

- (a) 一般事項
(1) 上端部の定長は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
(2) はり端は、断面として往そまで引き渡すものとし、引き渡すことができない場合は、柱内に定長とする。ただし、やむを得ずはり内に定長する場合は、図5.3.5による。
(3) はり端を柱内に定長する場合は、柱の中心軸を越えてから定長とする。



(b) 基礎ばりに床面がつかない独立基礎の場合

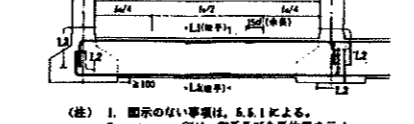


図5.3.6

(c) 基礎ばりに床面がつかない独立基礎の場合

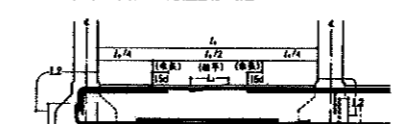


図5.3.7

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合

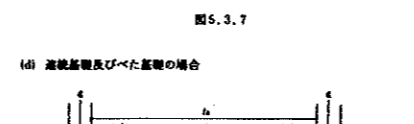


図5.3.8

4-2 あばら筋、帯筋及び束縛部

- (a) あばら筋
(1) あばら筋の束縛部は、特記による。
(2) あばら筋束縛部の形及びフックの位置は、図5.3.9による。ただし、間隔が1.5m以上の場合は、図5.3.9によることとする。

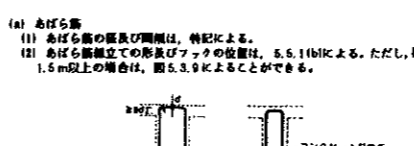


図5.3.9

(b) 帯筋及び束縛部

- (1) 帯筋及び束縛部は、図5.3.10(a)及び(b)による。ただし、間隔が1.5m以上の場合は、特記による。
- (2) あばら筋の束縛部は、図5.3.10(c)による。
- (3) あばら筋の束縛部は、図5.3.10(c)による。
- (4) 打角補強部は、図5.3.10(c)による。

5 柱

5-1 柱の端手及び位置

- (a) 一般事項
(1) 直端端手及び柱中心位置は、はり上から100mm以上かつ柱径の内の1/2以下とする。
(2) 直端端手は、L₁とし、定長及び束縛は、図5.3.11による。ただし、基礎部は、L₂とする。
(3) 柱の束縛は、柱内に定長とする。ただし、やむを得ずはり内に定長する場合は、図5.3.11による。

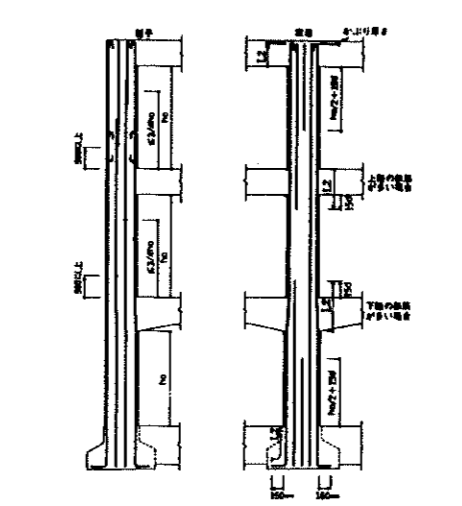


図5.3.11

- (注) 1. 5.2.1(d)に示した鉄筋には、フックをつける。
2. 鋼りかぎの位置は、図5.2.4による。
3. 端部、束縛は、すべてに適用できる。

5-2 帯筋

- (a) 帯筋は、特記による。
- (b) 帯筋束縛部の形は、図5.4.2とし、鋼りかぎは、特記による。特記がなければ下記による。
(1) 帯筋束縛部は、W-1形とする。
(2) 帯筋束縛部は、W-2形とする。
(3) 帯筋束縛部は、W-3形とする。
(4) 帯筋束縛部は、W-4形とする。

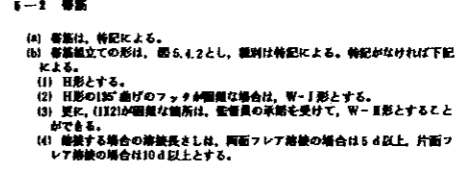


図5.4.2

(c) フック及び端部の位置は、交互とする。

- (1) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。
- (2) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。

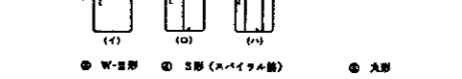


図5.4.3

(d) 帯筋束縛部の位置は、交互とする。

- (1) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。
- (2) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。

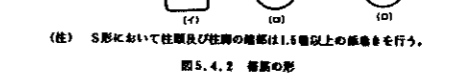


図5.4.3

(e) 帯筋束縛部の位置は、交互とする。

- (1) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。
- (2) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。

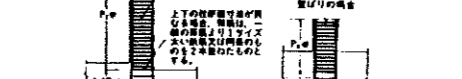


図5.4.3

(f) 帯筋束縛部の位置は、交互とする。

- (1) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。
- (2) 帯筋束縛部は、図5.4.3による。

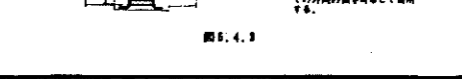


図5.4.3

6 大 ば り

6-1 大断面の端手及び位置

- (a) 一般事項
(1) 直端端手及び柱中心位置は、次に示す。
上端部 — 中央1/2以内
下端部 — 中央1/2以内
(2) 直端端手は、L₁とし、定長及び束縛は、図5.3.11による。
(3) 直端端手は、柱内に定長とする。ただし、やむを得ずはり内に定長する場合は、図5.3.11による。

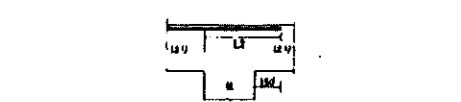


図5.3.11

- (注) 1. 5.2.1(d)に示した鉄筋には、フックをつける。
2. 鋼りかぎの位置は、図5.2.4による。
3. 端部、束縛は、すべてに適用できる。

(b) ハンダのない場合

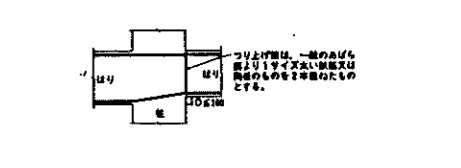


図5.3.11

(c) ハンダのない場合

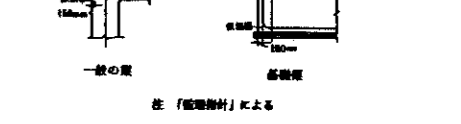


図5.3.11

(d) ハンダのない場合



図5.3.11

(e) ハンダのない場合

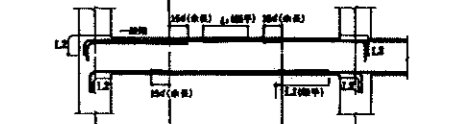


図5.3.11

(f) ハンダのない場合



図5.3.11

(g) ハンダのない場合

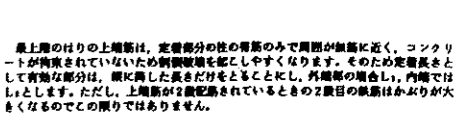


図5.3.11

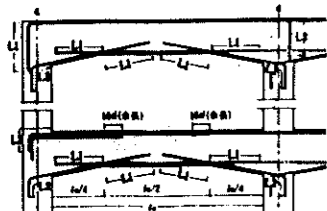
(h) ハンダのない場合



図5.3.11

年度	施設番号	工事名称	機 関	検 査 機 構	設 計 者	検 査 者	製 図 者	設計年月	図 面 内 容	備 考
		1. 調布村立 調布小学校校舎内運動場改築工事			信和建築設計事務所			平成 年 月	配筋標準図No1	図 号 C 1

1c) ハンチのある場合



1. 5.2.1に規定した鉄筋は、フックをつける。
2. 印は、ハンチの位置を示す。
3. はり内定長の端部下地盤が指定するときは、.....のように引渡すことができる。
4. 鉄筋は、柱内定長を示す。

図 5.5.4

1. ハンチが付いている場合、柱内定長を原則とする。ただし、鋼量が1/6以下の場合は折り曲げて差し戻しとしてもよい。



1) 最上層・一般層の連続梁 (ハンチのある場合)
注「鉄筋コンクリート造配筋指針別冊」による

6-2 あばら筋、縦筋及び補筋

1. あばら筋は、特記による。
2. 補筋は、断面に垂直な方向に配筋し、鋼量は、断面の幅が 150mm 程度とする。
3. 断面に垂直な方向に配筋するあばら筋の長さ、は、断面の幅が 150mm 程度とする。
4. 補筋は、断面の幅が 150mm 程度とする。

1. 断面は、図 5.5.5 に示す。ただし、しりばりの場合は図 5.5.5 に示すしりばりの場合とすることができる。



図 5.5.5

1. フックの位置は、(1)の図は交互とし、(2)の図は、L 形では断面のつく側、T 形では交互とする。
2. なお、(2)の図は断面のつく側を折角とする。

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。



図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。

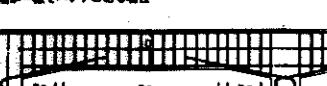


図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。



図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。

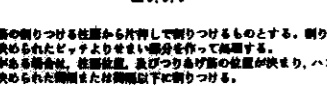


図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。

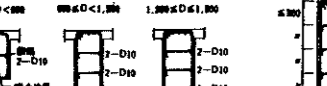


図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。

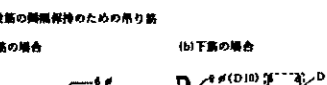


図 5.5.6

1. 断面は、図 5.5.6 に示す。

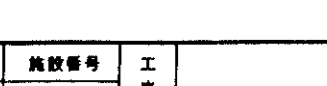
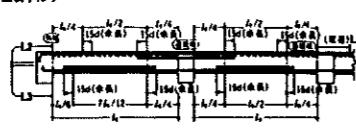


図 5.5.6

7 小ぶり及び片持ちばり

7-1 小ぶり鉄筋の配筋及び定長

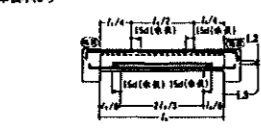
(a) 連続小ぶり



1. 印は、配筋位置を示す。
2. 図示のない事項は、5.3.2 及び 5.5.1 による。

図 5.5.9

(b) 単独小ぶり

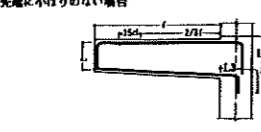


1. 印は、配筋位置を示す。
2. 図示のない事項は、5.3.2 及び 5.5.1 による。

図 5.5.10

7-2 片持ちばり鉄筋の定長

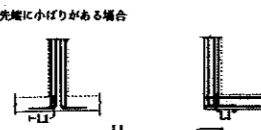
(a) 先端に小ぶりがない場合



1. 図示のない事項は、5.5.1 による。
2. 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さ L は、はりよりより厚さを除いた長さとする。
4. はり筋を引渡さない場合は、取合い部材に定長とする。ただし、柱に取合う場合は、全長に引渡せる場合でも、上地盤は、2 本以上を柱に定長とする。

図 5.5.11

(b) 先端に小ぶりがある場合

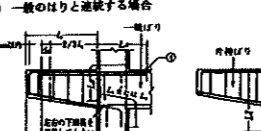


1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

(c) 打増し補強は、5.5.1(c) による。

(d) 一般のはりとは連続する場合



1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.5.12

(b) 鋼の基準配筋は、5.6.1 表により、鋼筋は特記による。

5.6.1 表

種別	鋼筋及び鉄筋	断面
W10	D10-300 シングル	100
W12	D10-300 シングル	120
W15	D10-300 シングル	150
W18	D10-300 シングル	180
W20	D10-300 シングル	200

1. 鋼筋の配筋率は、断面の鋼筋率に規定しない。

(c) 片持ち梁断面形状を受ける鋼の基準配筋は、5.6.2 表により、鋼筋は特記による。

5.6.2 表

種別	鋼筋及び鉄筋	断面	配筋率 (5.2.16 表)
KW1	鋼筋 D10-300 シングル	100	KA.1
	鉄筋 D10-300 シングル		
KW2	鋼筋 D10-300 シングル	120	KA.2
	鉄筋 D10-300 シングル		

1. 鋼筋は、断面の外側に配筋する。

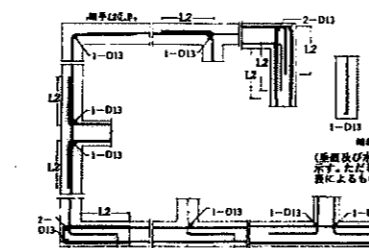
(d) パラベット並びに外部に面する、縦筋及び補筋の配筋

5.6.3 表

施工場所	コンクリート厚さ (mm)	方向	配筋	先端補強筋
パラベット	特記による	縦	D10-150 @ シングル	D10-100 @
外部に面する縦筋及び補筋	150	縦	D10-100 @ シングル	2-D10 4-D10
		横	D10-200 @ シングル	2-D10 4-D10

1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

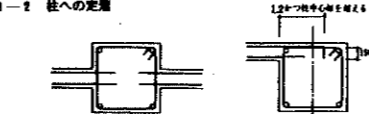
(e) 交差部及び端部の配筋



1. () 内は、5.6.1 (a) に示す小ぶり鉄筋を示す。
2. U 型筋を使用する場合の係数及び間隔は、要約と図 5.6.2 による。

図 5.6.2

8-2 柱への定長



1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.6.2

(a) 一般事項

8-1 一般事項

(1) 鉄筋の配筋率は、断面の鋼筋率に規定しない。

(2) 主筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(3) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(4) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(5) 一般事項は、図 5.6.1 による。

(6) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(7) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(8) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(9) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(10) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(11) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(12) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(13) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(14) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(15) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(16) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

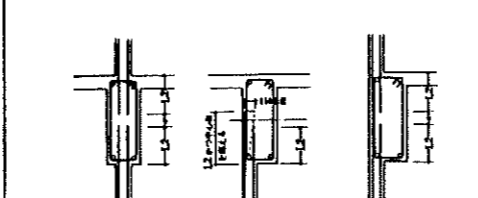
(17) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(18) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(19) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(20) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

8-2 はりへの定長



1. 図示のない事項は、(a) に示す。
2. 上地盤は、小ぶり内に斜めに定長とする。

図 5.6.2

(a) 鉄筋の加工及び組立

一般事項

(1) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、鋼筋は定長とする。

(2) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(3) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(4) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(5) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(6) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(7) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(8) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(9) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(10) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(11) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(12) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(13) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(14) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(15) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(16) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(17) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(18) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(19) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(20) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(21) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(22) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(23) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(24) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(25) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(26) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(27) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(28) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(29) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(30) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(31) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(32) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(33) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(34) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(35) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(36) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(37) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(38) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(39) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(40) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(41) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(42) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(43) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(44) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(45) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(46) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(47) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(48) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(49) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(50) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(51) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(52) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(53) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(54) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(55) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(56) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(57) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(58) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(59) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(60) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(61) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(62) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(63) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(64) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(65) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(66) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(67) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

(68) 補筋は、断面の鋼筋率に規定しない。

第1章 総則

1.1 目的

この設計標準は、橋梁工事の鉄骨に関する基本的事項及び接合部の標準的な詳細について定め、鉄骨工事の質の均一化をはかることを目的とする。

1.2 適用範囲

この設計標準は、原則として鉄骨鉄筋コンクリート橋及び中小橋の鉄骨部の設計に適用する。

1.3 参考文献

- 建設大臣官庁官庁標準「橋梁工事共通仕様書」平成5年版 社団法人公共建設協会
- 建設大臣官庁官庁標準「橋梁工事施工標準設計」平成5年版 社団法人公共建設協会
- 建設大臣官庁官庁標準「鉄骨設計標準」平成2年版 社団法人公共建設協会

第2章 溶接接合

2.1 溶接工法

適用する溶接工法は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接及びサブマージアーク自動溶接及びアークスタッド溶接とする。

2.2 溶接継手

溶接継手の種類は、突合せ溶接、隅内溶接、部分溶込み溶接、フレア溶接とし、突合せ溶接の継手形状の種類は、突合せ継手、T形継手、かど継手とする。

2.3 溶接継手の表示記号及び記載方法

(1) 表示記号

表2.1 溶接工法、溶接継手及び溶接面の分類記号

分類	記号
溶接工法	H (アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接)
	A (サブマージアーク自動溶接)
	SW (アークスタッド溶接)
溶接継手	B (突合せ継手)
	T (T形継手)
	L (かど継手)
	F (隅内溶接)
	P (部分溶込み溶接)
	FL (フレア溶接)
溶接面	1 (片面溶接)
	2 (両面溶接)

(注) 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表面と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

区分	記号
現場溶接	▲
全周溶接	○
全周現場溶接	○▲
所定長さの長さ及び間隔	L-P

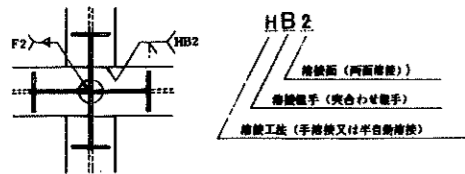


図2.1 溶接継手の記載方法の例

2.4 溶接継手の種類別開先形状

(1) 突合せ継手

図2.2 突合せ継手 (B) (単位: mm)

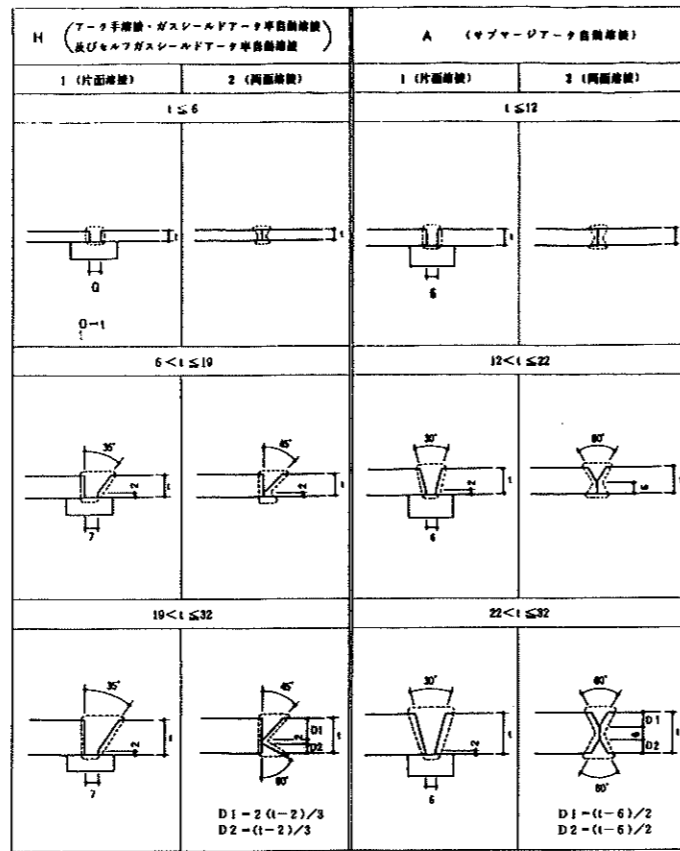


図2.3 T形継手 (T) (単位: mm)

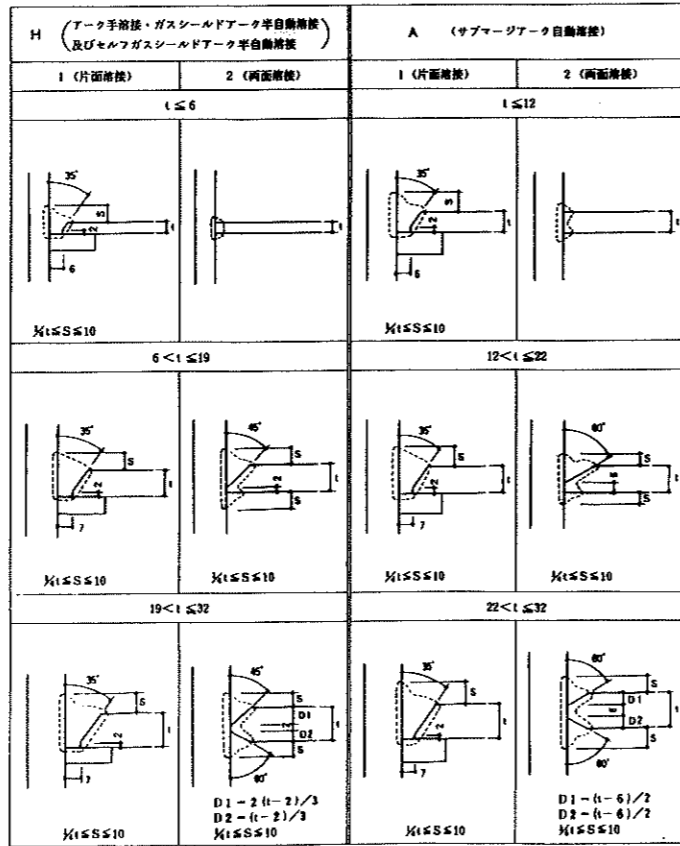
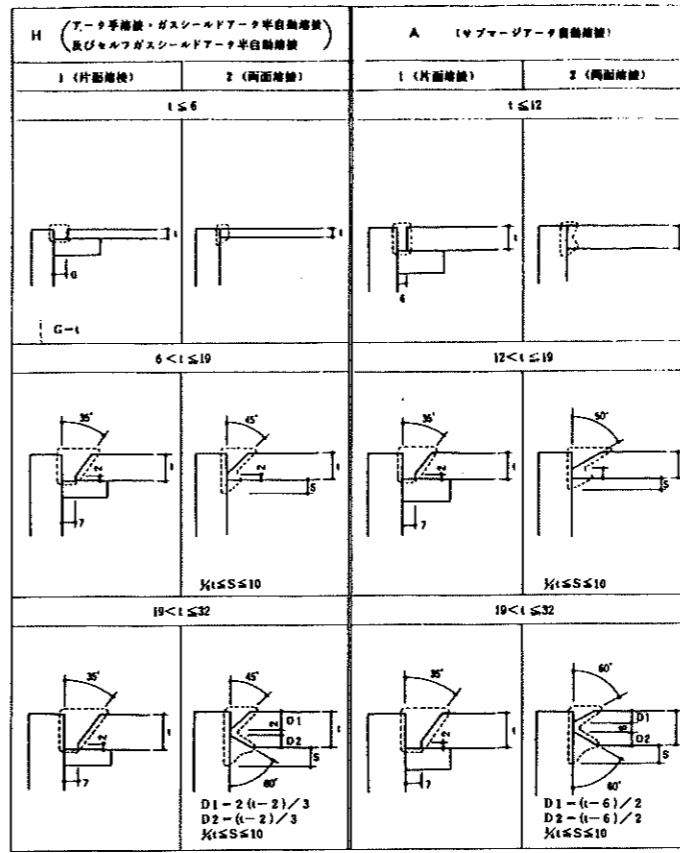


図2.4 かど継手 (L) (単位: mm)



(2) 隅内溶接

隅内溶接 (F) (単位: mm)

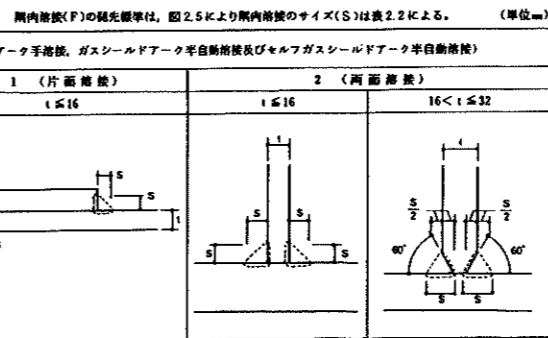


図2.5 隅内溶接の開先標準

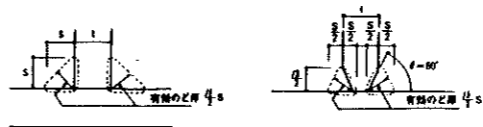
表2.2 隅内溶接のサイズ (単位: mm)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32																																																																	
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

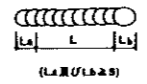
(注) 1. 隅内溶接のサイズ(S)は、有効のど厚の和が板厚(t)と等しくなるように次式により求めたものである。

$t \leq 16$ mmの場合 $S = t/\sqrt{2}$

$16 < t \leq 32$ mmの場合 $S = t/\sqrt{3}$

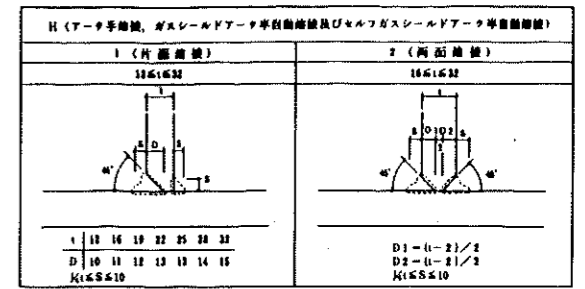


2. 設計図書(図面及び仕様書をいう。)に示す所定隅内溶接の長さLは、次図の有効長さ(L)とし、隅内のサイズ(S)の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点(La)及び終点(Lb)を除いた部分の長さとする。



(3) 部分溶込み溶接

図2.6 部分溶込み溶接 (P) (単位: mm)

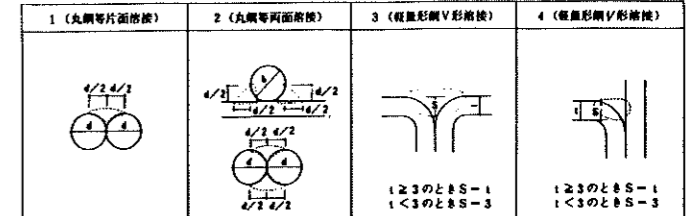


(注) 1. 溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。

2. 片面溶接
原則として、鋼先をとらない側にも溶接隅内溶接を行う。(Sは溶接隅内溶接のサイズ)

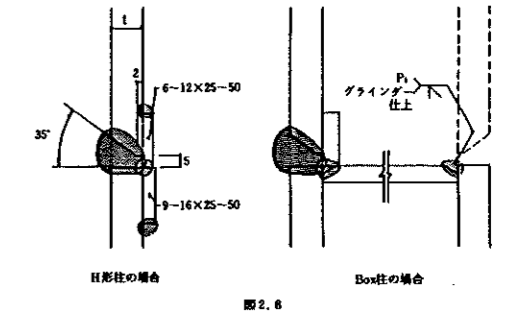
(4) フレア溶接

図2.7 フレア溶接 (FL) (単位: mm)



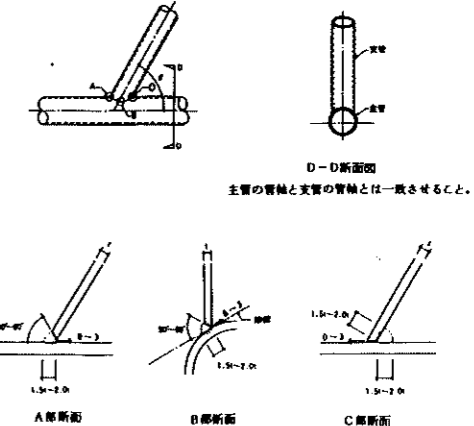
(注) 溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。

2.6 柱梁溶接



2.6 鋼管分岐継手

適用管径 3.2 ≤ t ≤ 12
 突角 30° ≤ θ ≤ 150°
 主管外径は実管外径より大径のものを使用する。



ただし、自動機械により開先加工を行う場合には、これ以外の形状をとることがある。

図2.9 鋼管分岐継手詳細

年度	施設番号	工事名称	検収	検図担当	設計事務所	設計者	検図	製図	設計年月	工事種別	図面内容	縮尺	図面番号	枚ノ内
		田野村立 田野小学校屋内運動場改築工事			三和建築設計事務所				平成 年 月		鉄骨標準図 No 1		C 4	4

2.1 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同種・同厚のものを用い、長さは、図2.10及び表2.3のとおりとする。ただし、あらかじめ溶接付加材によって溶接部に欠陥が生じることが確認された材質及び形状のものを用いる場合は、この限りでない。

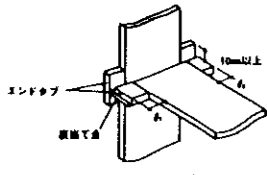


図2.10 エンドタブ

(注) 1. 裏はつり

実合わせ溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行う。裏はつりは健全な溶着部分が見られるまで行つた後、裏溶接を行う。ただし、自動溶接において完全溶着が確認されたことが溶着試験等によって確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

2. 裏当て金

(1) 実合わせ溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、図2.11による新設側内溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。

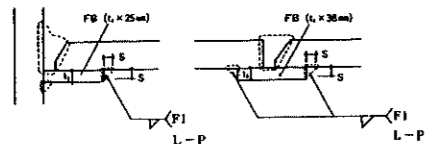


図2.11 裏当て金の厚さ及び溶接

(2) 裏当て金の厚さ、新設側内溶接のサイズ及び長さは表2.4、表2.5及び表2.6によるほか、裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上のものとする。

表2.4 裏当て金の厚さ (単位: mm)

溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

表2.5 溶接のサイズ (単位: mm)

裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

表2.6 新設側内溶接の長さ (単位: mm)

L	溶接の長さ (L)	
	手溶接、半自動溶接	自動溶接
3.2以下	30程度	40程度
3.2を超え25未満	40程度	50程度
25以上	50程度	70程度

2.2 余盛り

実合わせ継手、かど継手、隅内溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行う。その高さの上限は、表2.7による。

表2.7 余盛りの限度 (単位: mm)

溶接工法	溶接工法	余盛りの限度
実合わせ継手	手溶接	3
かど継手	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅内溶接	手溶接	3
	半自動溶接	3

2.3 スクラップ

スクラップ半径 (Sc) は30mmを標準とする。ただし、組立目形鋼の場合は、スクラップ内ウェブフィレットの同じ溶接部を避けるためスクラップ半径を35mmとし、隅溶接の下フランジ部スクラップを用いることができる。

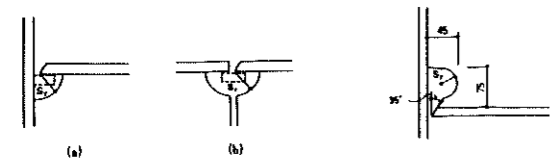


図2.12 スクラップ形状

図2.13 隅溶接の下フランジ部スクラップ

2.10 溶接部の設置

実合わせ継手において、実合わせ部の板厚に差があり、設置の手前及び手前溶接で4mmを超え、自動溶接で3mmを超える場合は、厚い方の板に1/5以下の勾配をとり、実合わせ部の表面をそろえる。ただし、半自動溶接で1形鋼の場合は、3mmを限度とする。

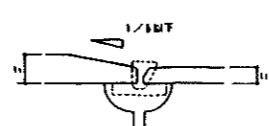


図2.14 溶接部の設置

2.11 溶接部補強プレート

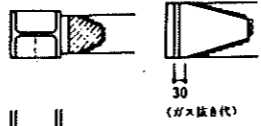


図2.15

第3章 ボルト接合

3.1 ボルトの種類

高力ボルトはJIS B 1186「摩擦接合用高力六角ボルト、六角ナット、平鍍金のセット」の規格品でセットの種類は2種 (F10T) 及び摩擦係数法に基づき認定されたトルネア形高力ボルト2種 (S10T)、溶融亜鉛めっき高力ボルト (1種 F8T相当) とする。

普通ボルト及びナットはJIS B 0205「メタルボルト」とし、下記による規格品とし、仕上げ程度は中とする。JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

鍍金はJIS B 1256 (平鍍金) の磨き丸の規格品とする。

3.2 ボルトの長さ、孔径

表3.1 締付け長さに加える長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ (mm)	
	JISの高力ボルト	トルネア形高力ボルト
M12	25	-
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

表3.2 ボルトの呼び径に加える大きさ

ボルトの呼び径	ボルトの呼び径に加える大きさ (mm)
M12, M16	2.0 (0.5)
M20~M24	2.0 (0.5)

(注) () 内は、普通ボルトの場合とする。ただし、もや、鋼線鋼の取付け用ボルトの場合は、1.0mmとすることができる。

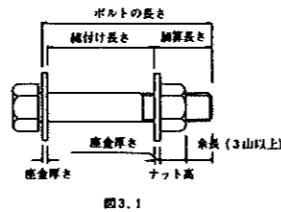


図3.1

3.3 溶接距離及びボルト間隔

溶接距離及びボルト間隔は、表3.3を標準とする。ただし、引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の溶接距離は、ボルト径の2.5倍以上とする。

表3.3 溶接距離及びボルト間隔 (単位: mm)

呼び	溶接距離	
	e	p
M16	-	-
M20	40	60
M22	-	-
M24	45	70

図3.2

3.4 千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は、表3.4を標準とする。

表3.4 千鳥打ちのゲージ及び間隔 (単位: mm)

ゲージ	千鳥打ちの間隔 (pt)	
	ねじの呼び	
g	M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40

図3.3 千鳥打ちのゲージ及び間隔

3.5 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表3.5の値を標準とする。

表3.5 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又は注記	B1	B2	最大軸径	B	C1	C2	最大軸径	H	C3	最大軸径
40	22	10	100	60	16	40	24	10		
45	25	12	125	75	18	40	30	12		
50	30	14	150	90	22	45	35	14		
60	35	16	175	105	24	50	40	16		
66	35	30	200	130	24	55	40	16		
70	40	30	250	150	24	60	45	16		
75	40	30	300	180	24	65	45	16		
80	45	30	350	210	24	70	50	16		
90	50	34	400	240	24	75	55	16		
100	55	34	450	270	24	80	60	16		
125	50	36	500	300	24	90	65	16		
150	55	36	550	330	24	100	70	16		
175	60	36	600	360	24	110	75	16		
200	60	36	650	390	24	120	80	16		

1 H形鋼のB-200は、千鳥打ちとした時のゲージ標準であり、

2 本種の鋼材および最大軸径の値は、製造上支障がない場合で、最小溶接距離の規定にかかわらず異なることである。

第4章 鉄骨標準詳細

4.1 柱・はり仕口部 (H形柱)

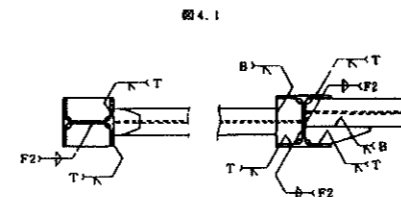


図4.1

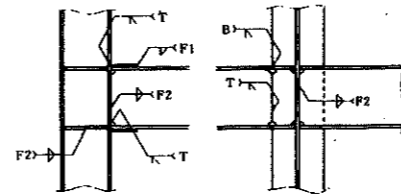
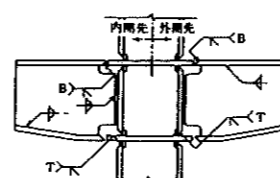


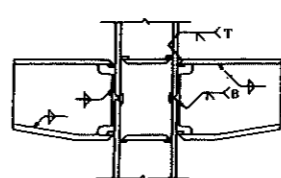
図4.2

4.2 柱・はり仕口部 (BOX柱)

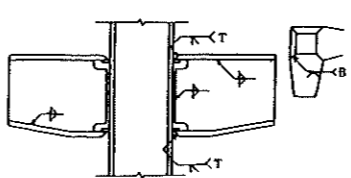
(1) 通しダイアフラム



(2) 内ダイアフラム



(3) 外ダイアフラム



4.3 柱脚仕口部

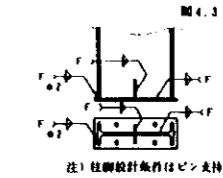


図4.3

注) 柱脚設計条件はピン支持とする。

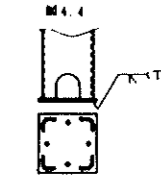


図4.4

4.4 小はり仕口部 (ピン接合)

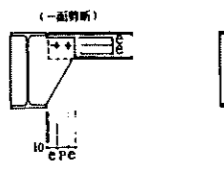
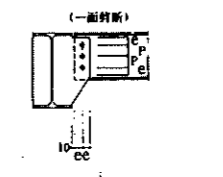


図4.5

ピン接合の大はり仕口についても上図を準用する。

接合部の母材の板厚の差が1mmを超える場合は、フッラー板を用いて補う。

4.5 小はり仕口部 (剛接合)

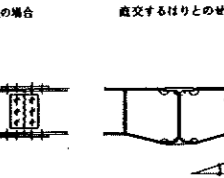
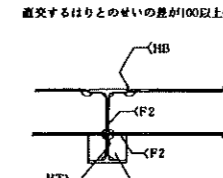
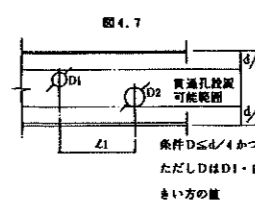


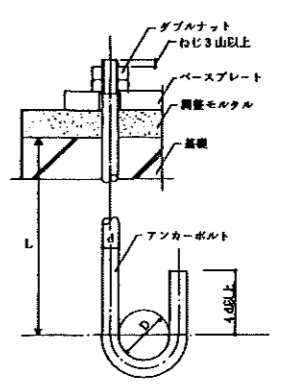
図4.6

4.6 はり貫通の補強



補強方法
長さがはり幅B-2/3Bで、スリーブ径よりひと回り大きい既設の鋼管の最も厚いものをすずり内挿法(鋼管-0.7Tw)で補強
条件 $D \leq 4/4$ かつ $L \geq 3D$
ただしDはD1・D2のうち大きい方の値
Tw: 鋼管の厚さ、鋼管の厚さの異なるもの

4.7 アンカーボルト



ベースプレートのボルト穴はボルト径に5mmを加える。
アンカーボルトはコンクリートに埋め込まれる場合はダブルナット締めとする。
アンカーボルトの台座は必ず基礎コンクリートの養生期間を共にコンクリート工事「せき板の最小養生期間」以上とする。
柱底埋込モルタルはモルタルに塗るコンクリート面のレイナスを除去し十分に目塗りを行なってモルタルとコンクリートが一体となるように施工する。
埋込モルタルは厚さ30mmを標準とし割合(容積比)はセメント:砂:1とし鉄骨養生まで最低2日(5°C以上にて養生)以上とする。なおモルタル強度は基礎コンクリートと同等級以上とする。
埋込後と詰めモルタルの養生は最低3日(5°C以上にて養生)以上の経過日数後アンカーボルト本締めとする。
D-φ16以下の場合3d以上、φ18以上の場合4d以上とする。
L-アンカーボルトの肉抜き長さ

図4.8 アンカーボルト

4.8 折版の取付け

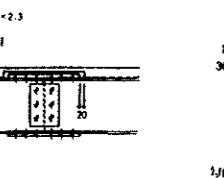
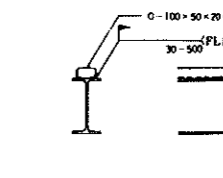
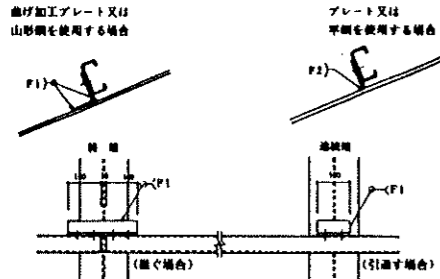


図4.9

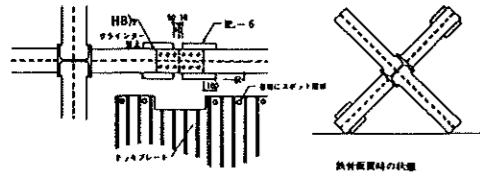
図4.9 折版の取付け

4.9 号 鋼 鉄



プレート又は平鋼を使用する場合も同様とする。
図4.10 号 鋼 鉄

4.10 デッキプレートの取付け



デッキプレート受板は、仮置時の破損を避けるため仕割で50mm、鋼脚10mmそれぞれ取端とのあきをとる。
図4.11 デッキプレートの取付け

4.11 鉄筋貫通孔の径

はり筋の定着又は引通しのため鉄骨にける貫通孔は、表4.1を標準とする。ただし、設計における鉄筋の貫通孔(フープ筋を除く)は、使われる主筋の貫通孔の内、最大の孔径に統一する。

表4.1 鉄筋貫通孔径

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径 (mm)	24	28	31	35	38	43	46	

第6章 大梁継手標準 (鋼筋力継手)

継手部耐力表(第1種標準耐力継手)-1 SS400級

鋼材規格	断面寸法	フランジ		ウェブ		耐力		耐力		耐力	
		フランジ幅	フランジ厚	ウェブ厚	ウェブ深さ	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)
M16	160x160	110	10	10	160	110	10	10	110	10	110
M20	200x200	140	12	12	200	140	12	12	140	12	140
M24	240x240	170	14	14	240	170	14	14	170	14	170
M30	300x300	210	18	18	300	210	18	18	210	18	210
M36	360x360	250	22	22	360	250	22	22	250	22	250
M42	420x420	300	26	26	420	300	26	26	300	26	300
M48	480x480	350	30	30	480	350	30	30	350	30	350
M56	560x560	410	36	36	560	410	36	36	410	36	410
M64	640x640	470	42	42	640	470	42	42	470	42	470
M72	720x720	530	48	48	720	530	48	48	530	48	530
M80	800x800	590	54	54	800	590	54	54	590	54	590
M88	880x880	650	60	60	880	650	60	60	650	60	650
M96	960x960	710	66	66	960	710	66	66	710	66	710
M104	1040x1040	770	72	72	1040	770	72	72	770	72	770
M112	1120x1120	830	78	78	1120	830	78	78	830	78	830
M120	1200x1200	890	84	84	1200	890	84	84	890	84	890

継手部耐力表(第2種標準耐力継手)-2 SS400級

鋼材規格	断面寸法	フランジ		ウェブ		耐力		耐力		耐力	
		フランジ幅	フランジ厚	ウェブ厚	ウェブ深さ	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)	曲げモーメント (kNm)	せん断力 (kN)
M16	160x160	110	10	10	160	110	10	10	110	10	110
M20	200x200	140	12	12	200	140	12	12	140	12	140
M24	240x240	170	14	14	240	170	14	14	170	14	170
M30	300x300	210	18	18	300	210	18	18	210	18	210
M36	360x360	250	22	22	360	250	22	22	250	22	250
M42	420x420	300	26	26	420	300	26	26	300	26	300
M48	480x480	350	30	30	480	350	30	30	350	30	350
M56	560x560	410	36	36	560	410	36	36	410	36	410
M64	640x640	470	42	42	640	470	42	42	470	42	470
M72	720x720	530	48	48	720	530	48	48	530	48	530
M80	800x800	590	54	54	800	590	54	54	590	54	590
M88	880x880	650	60	60	880	650	60	60	650	60	650
M96	960x960	710	66	66	960	710	66	66	710	66	710
M104	1040x1040	770	72	72	1040	770	72	72	770	72	770
M112	1120x1120	830	78	78	1120	830	78	78	830	78	830
M120	1200x1200	890	84	84	1200	890	84	84	890	84	890

*: 鋼材の取はしめる部(端部引張部)によりきまつた値。1) ウェブの内側へりあきを70とする(右図参照)。

4) はり・はり継手部

ここでは、フランジ・ウェブ共に高力ボルト使用の場合について示す。

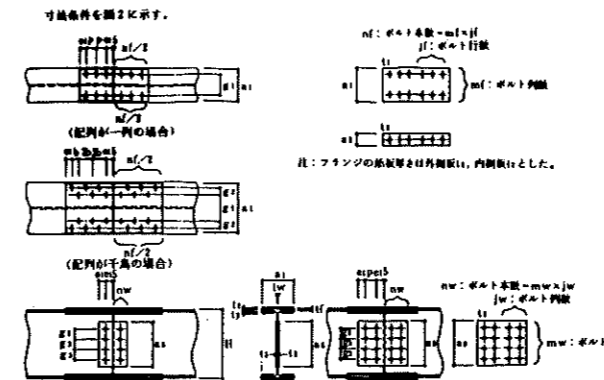


図2
a1: ウェブボルト有効距離で下表による。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図3
a: ボルトピッチを示す。
e1: ボルトはしあきで下表による。

図4
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図5
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図6
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図7
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図8
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図9
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図10
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図11
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

図12
a: ボルト行数を示す。
a2: ウェブボルト曲げ耐力係数で下表による。
a3: ウェブボルトのたて方向のピッチ

第7章 入れ継ぎの基準

(日本建築学会「鉄骨構造設計基準」より)

名 称	図	管 径 容 量	開 閉 容 量
(1) 縦物の側れ		$e \leq H/400 + 7$ かつ $e \leq 30$	$e \leq H/2500 + 10$ かつ $e \leq 60$
(2) 縦物のわん曲		$e \leq L/400$ かつ $e \leq 20$	$e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25$
(3) 通り心とアンカーボルトの位置のずれ		A: $-3 \text{ mm} \leq e \leq +3 \text{ mm}$ B: $-5 \text{ mm} \leq e \leq +5 \text{ mm}$	$-5 \text{ mm} \leq e \leq +5 \text{ mm}$ $-8 \text{ mm} \leq e \leq +8 \text{ mm}$
(4) 柱すえ付け面の高さ		$-3 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +3 \text{ mm}$	$-5 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +5 \text{ mm}$
(5) 工事現場継手間の高さ		$-5 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +5 \text{ mm}$	$-8 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +8 \text{ mm}$
(6) 梁の水平度		$e \leq H/1000 + 3$ かつ $e \leq 10$	$e \leq H/700 + 5$ かつ $e \leq 15$
(7) 柱の側れ		$e \leq H/1000$ かつ $e \leq 10$	$e \leq H/700$ かつ $e \leq 15$

第5章 筋かい

5.1 山形鋼・平鋼

サイズ	HTB, F10T 鋼材SS400級		
	高力ボルト	ガセットプレート	必要 前後長
L-65x65x6	5-M16	9x90	206 118 132
L-75x75x6	5-M16	9x90	241 135 149
L-75x75x9	5-M20	9x125	351 190 204
L-90x90x7	5-M20	9x120	338 183 197
L-90x90x10	5-M20	9x155	460 249 263
L-90x90x13	5-M20	9x195	599 314 328
L-100x100x10	5-M20	9x170	523 276 290
L-100x100x13	5-M20	9x215	671 350 364
注 L-130x130x12	7-M20	12x200	639 338 366
2 L-65x65x6	5-M16	9x165	416 222 236
2 L-75x75x6	5-M16	9x190	482 256 269
2 L-75x75x9	5-M20	12x205	544 290 308
2 L-90x90x7	5-M20	12x205	525 281 299
2 L-90x90x10	5-M20	12x270	730 383 401
2 L-90x90x13	7-M20	12x340	932 484 502
2 L-100x100x10	6-M20	12x305	816 426 444
2 L-100x100x13	6-M20	12x365	1044 540 558
2 L-130x130x12	10-M20	16x365	958 603 627
F・B-75x12	3-M20	9x95	249 139 153
F・B-90x12	3-M20	9x115	298 163 177
F・B-100x12	4-M20	9x130	331 180 194
F・B-100x16	5-M20	12x130	344 190 206
F・B-100x19	6-M20	12x150	408 222 240

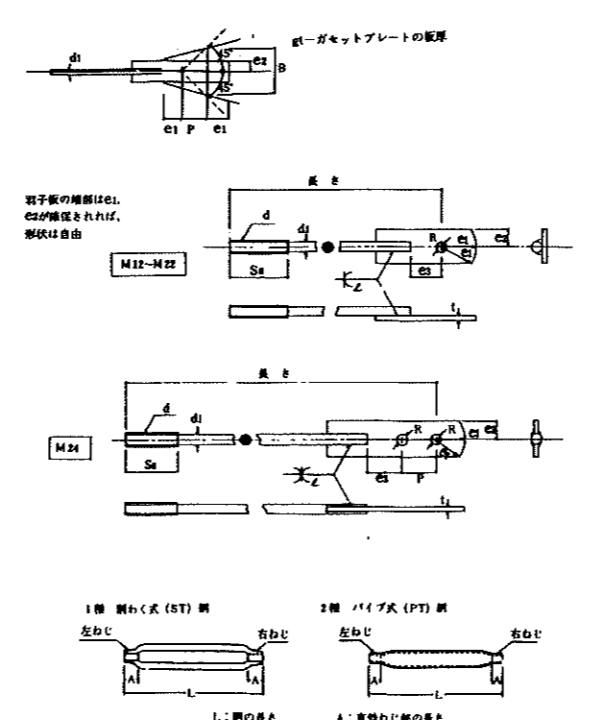
注 L-130x130x12のボルトの配置は千鳥打ちとする

5.2 ターンバックル筋かい

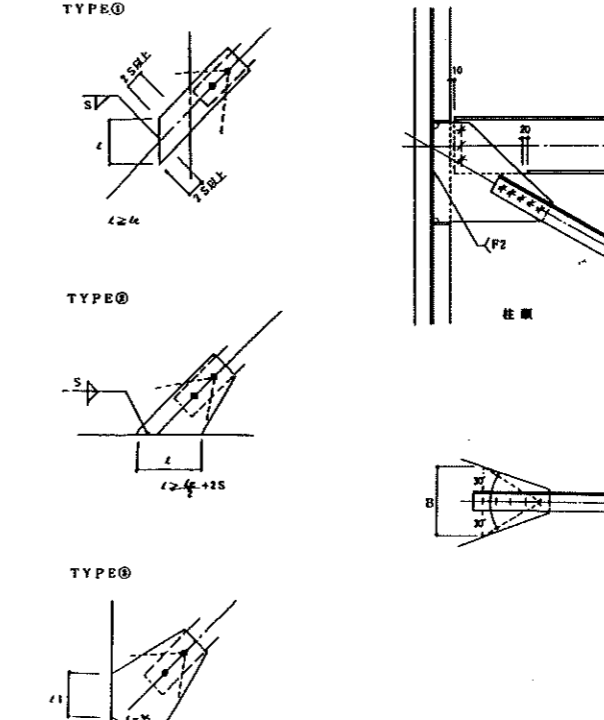
サイズ	JISターンバックル筋かいHTB, F10T, 鋼材SS400級					
	M10	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト	本款一径	1-M12	1-M16	1-M20	1-M22	2-M24
ガセットプレート	厚さ必要幅がB	6x60	6x80	6x75	9x85	9x85
ガセットプレート	厚さ必要幅がB	50	50	60	70	90
ガセットプレート	厚さ必要幅がB	35	35	35	49	63
ガセットプレート	厚さ必要幅がB	45	45	45	63	81
軸径d1	最大	8.99	10.81	14.65	18.33	20.33
軸径d1	最小	8.82	10.64	14.46	18.11	20.11
調整ネジの長さ Sa		75	100	125	165	175
取付ボルトの穴径 R		12.5	16.5	17.0	21.5	21.5
はしあき(最小) e1		30	35	45	50	55
へりあき(最小) e2		22	22	28	34	38
板厚 t		3.2	4.5	6	9	9
へりあき(最小) e2		19	19	25	32.5	37.5
板厚 t		4.5	4.5	6	9	9
ボルト端から取付ボルト穴の中心(最小) e3		40	47	59	66	73
前後長さ(最小) L		35	40	55	75	85
1. 鋼		150	200	250	300	350
2. 鋼		14	17	23	28	34
A		以上	以上	以上	以上	以上
鋼		0.153	0.30	0.64	1.20	1.54
以上		以上	以上	以上	以上	以上

注1 ※普通ボルトを使用 注2 2層パイプ(P/T)材には、前後長さなし 注3 作業方法(2)として 破断強度90%の値

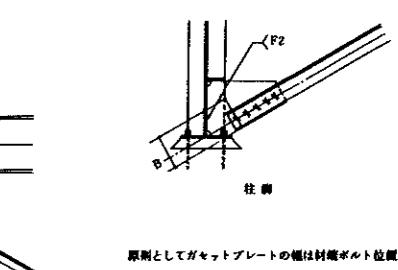
5.3 ガセットプレートの必要前後長



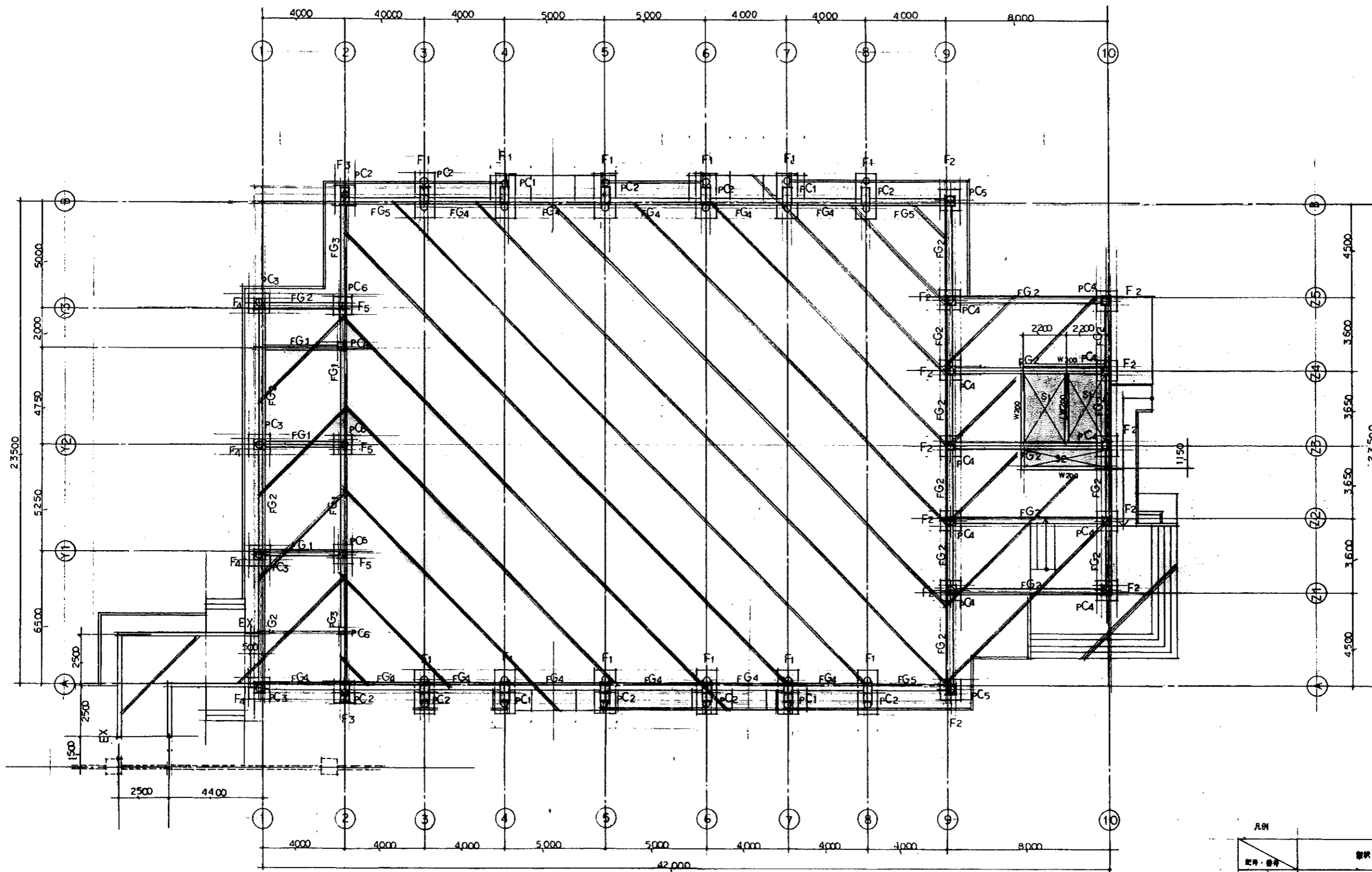
5.4 各部詳細



はりがピン接合の場合

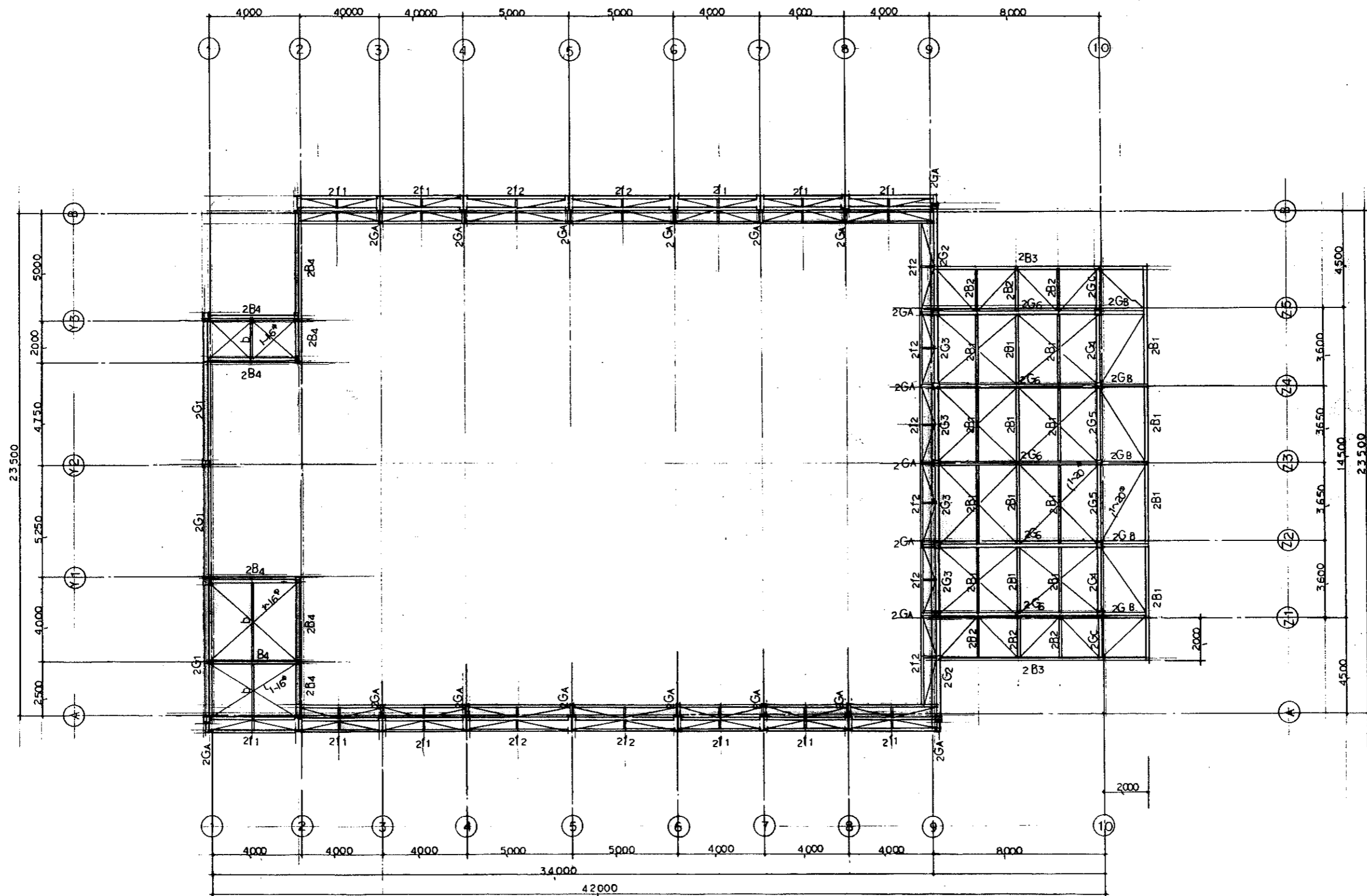


原則としてガセットプレートの端は材端ボルト位置で上記に示すBの長さを超えることとする。ただし、それよりゲージラインが一致となる場合はこの限りではない。

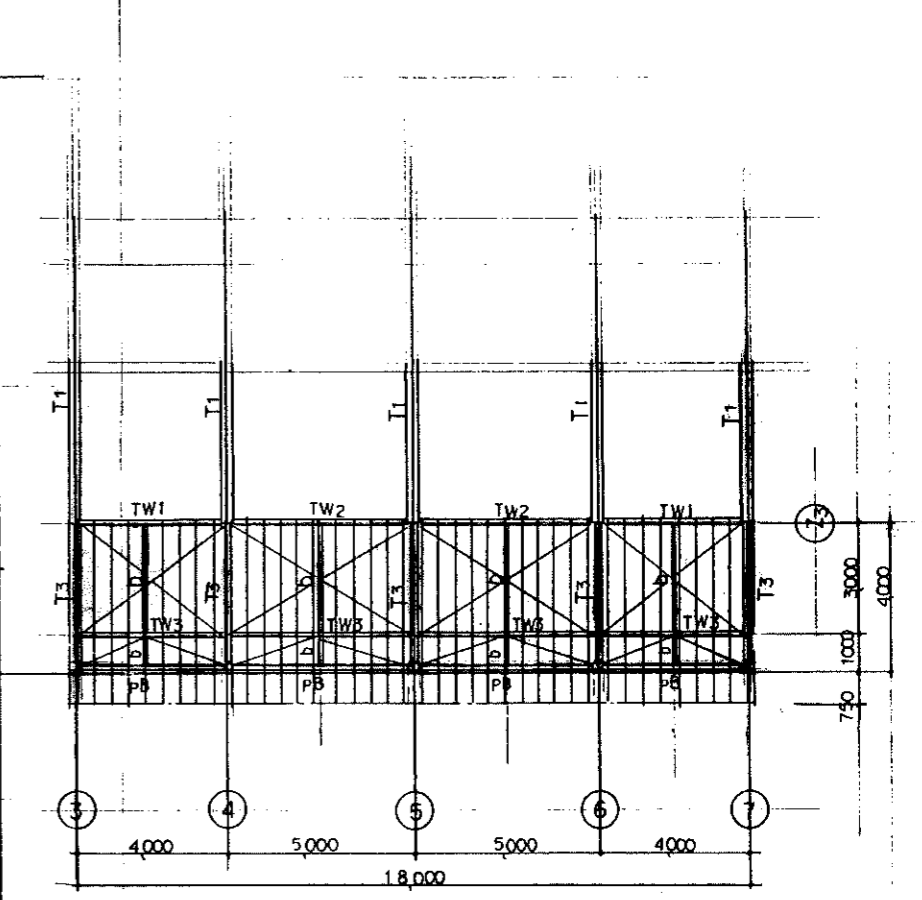
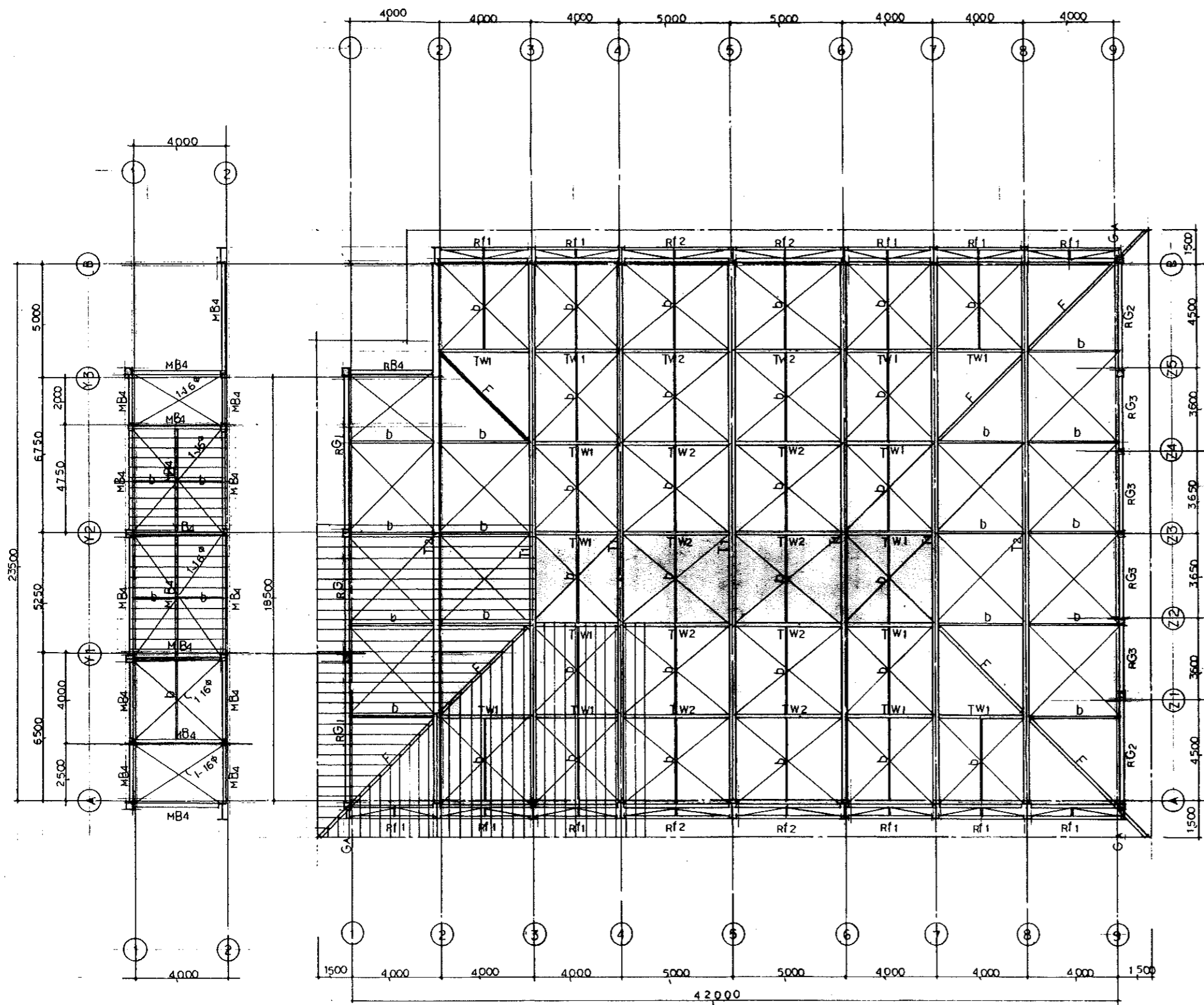


基础伏图 1:100

A/B	
配件·规格	数量·寸法
⊕	PHC-φ300 L=7.0 ^m R _h =30 ^{kg}
○	PHC-φ350 L=7.0 ^m R _h =40 ^{kg}
⊗	PHC-φ400 L=7.0 ^m R _h =55 ^{kg}



4+200 構造図 11階



小屋伏図 11100

ブドウ棚 構造図 11100

小屋伏図 11100

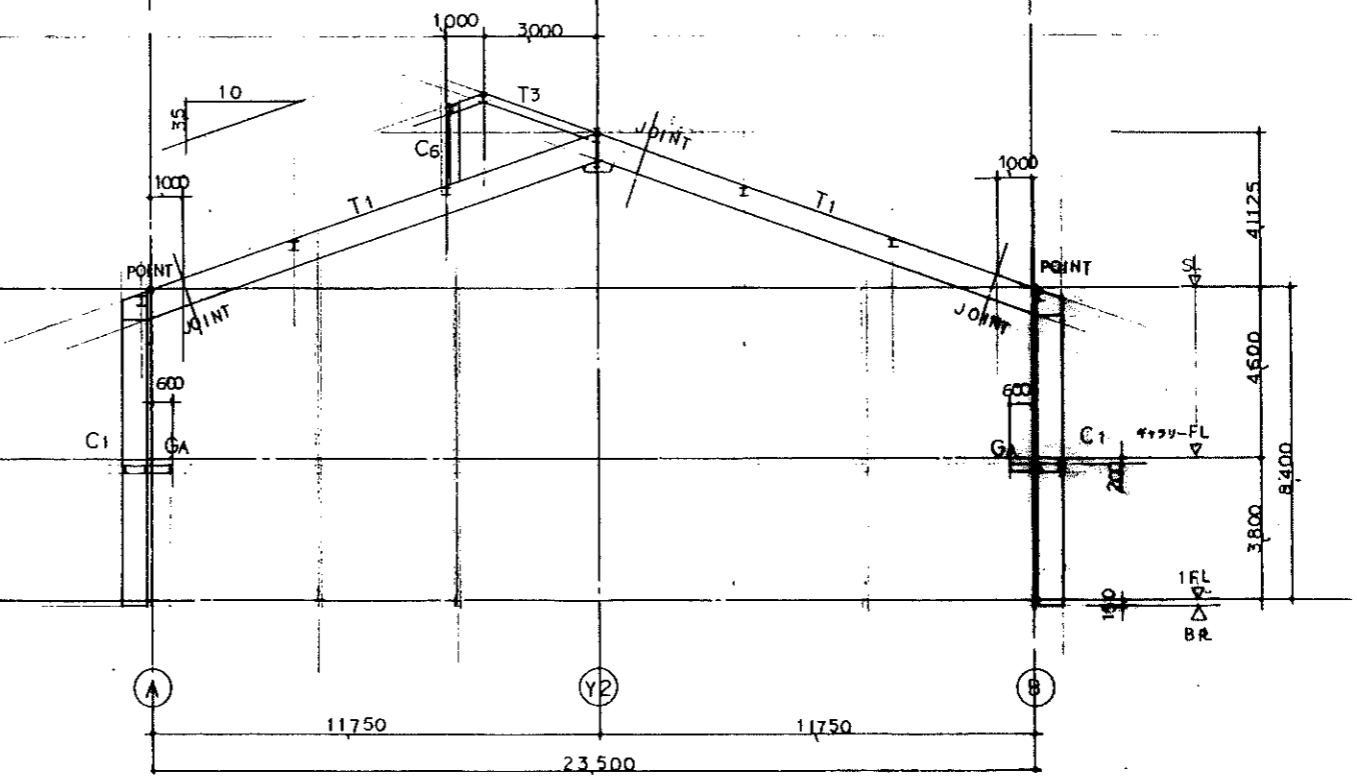
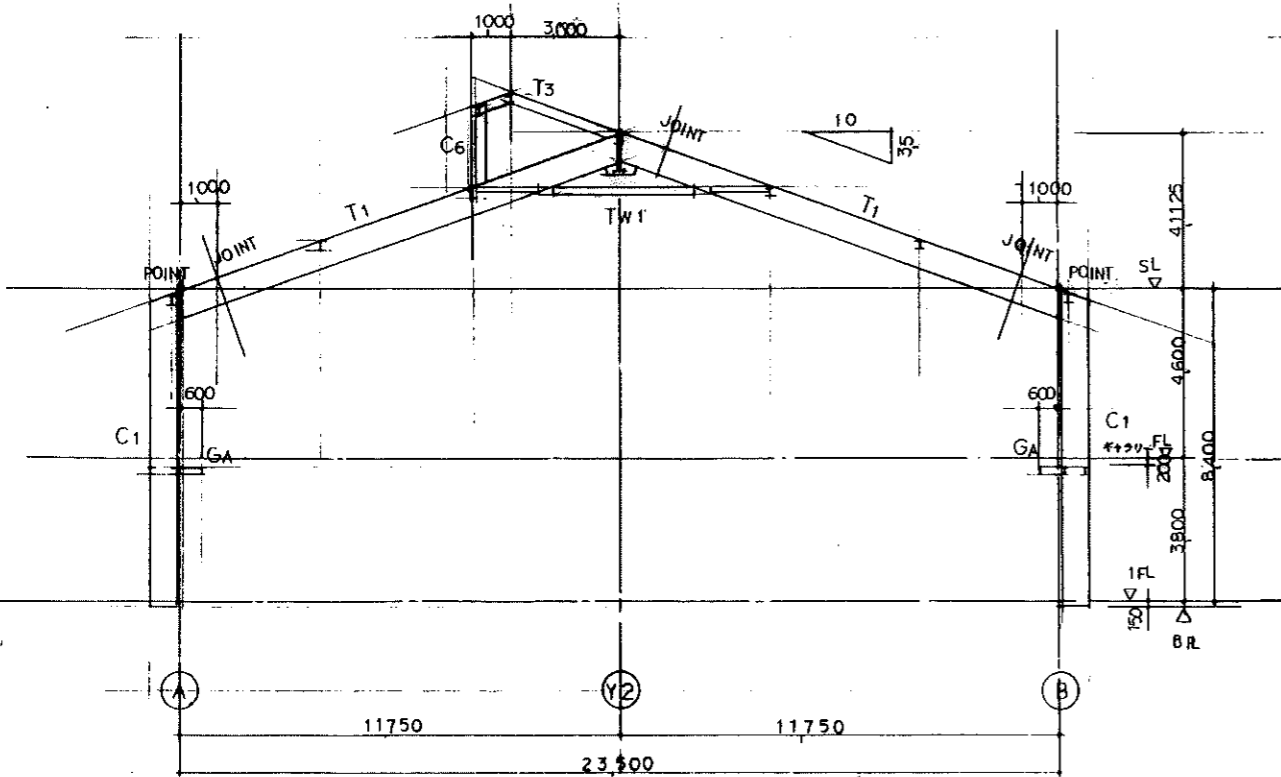
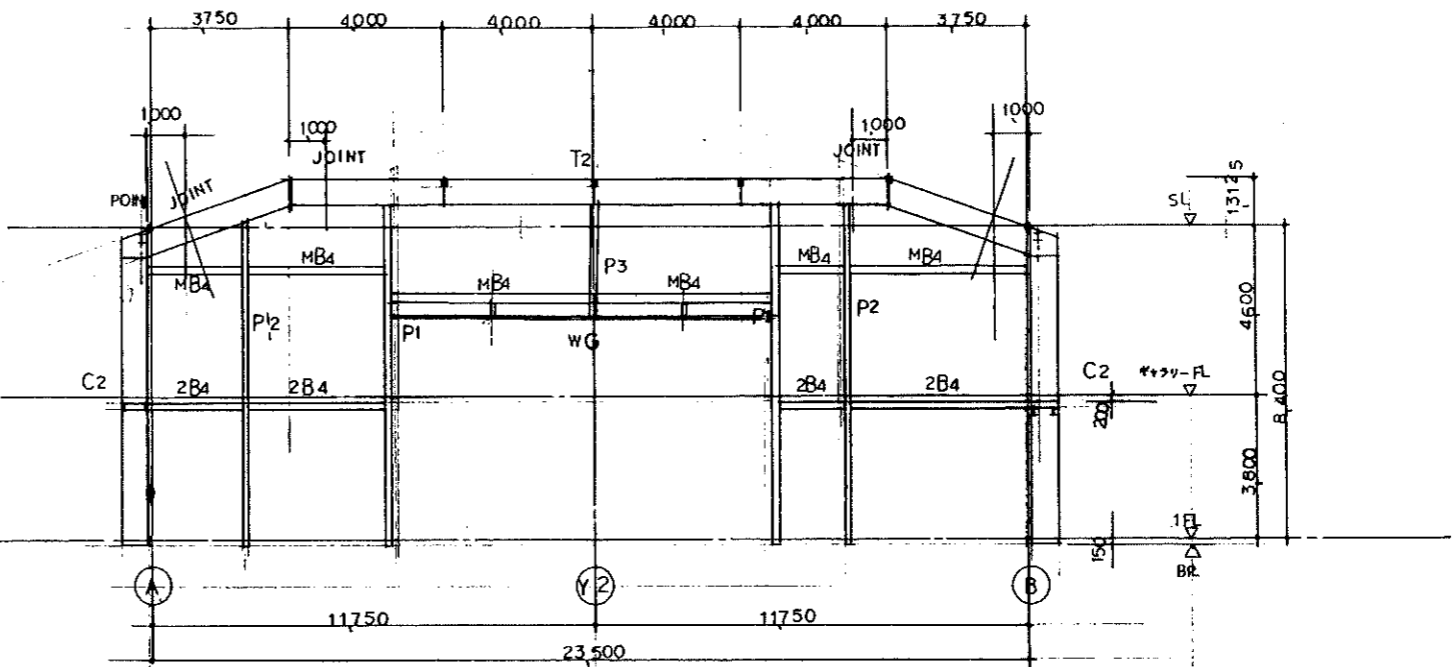
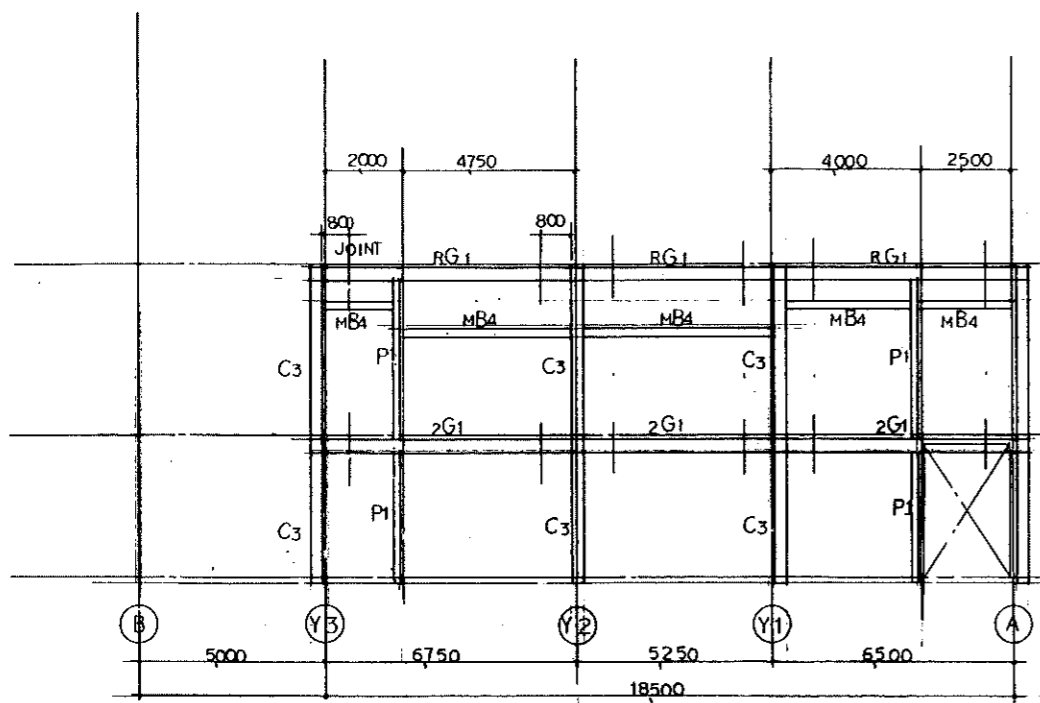
三和建築設計事務所

11100	11100	11100	11100	11100	11100	11100	11100	11100	11100
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

工事名称 那野郷村立 田野郷小学校校舎内運動場改築工事
 図面名称 小屋伏図 構造図

① 通 軸組図 1:100

② 通 軸組図 1:100

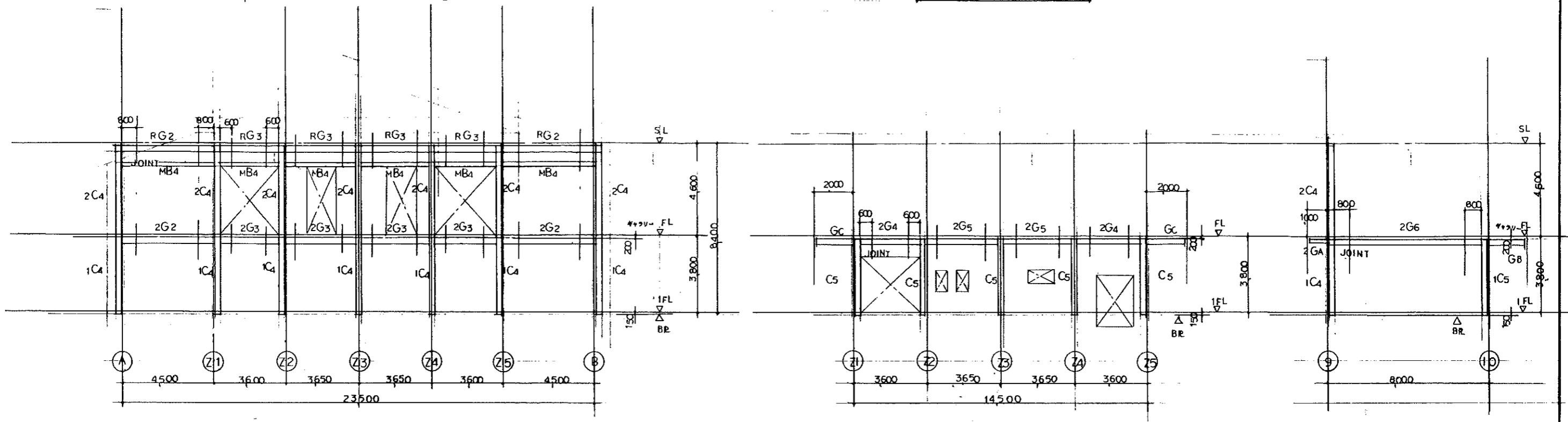


③ ⑦ 通 軸組図 1:100

④ ⑤ ⑥ 通 軸組図 1:100

⑨ 通 軸組圖 1:100

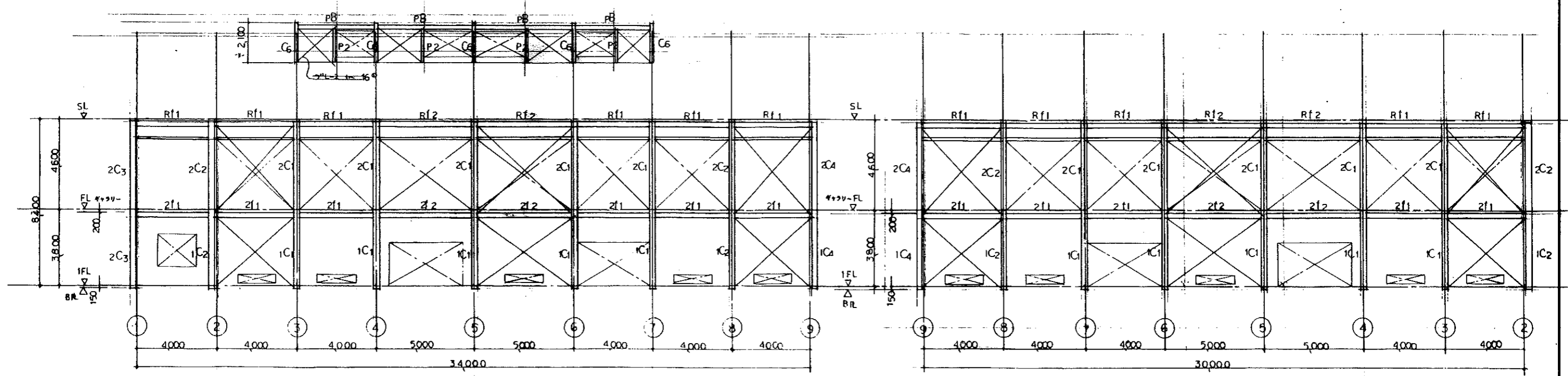
⑩ 通 軸組圖 1:100



⑨ 通 軸組圖 1:100

⑩ 通 軸組圖 1:100

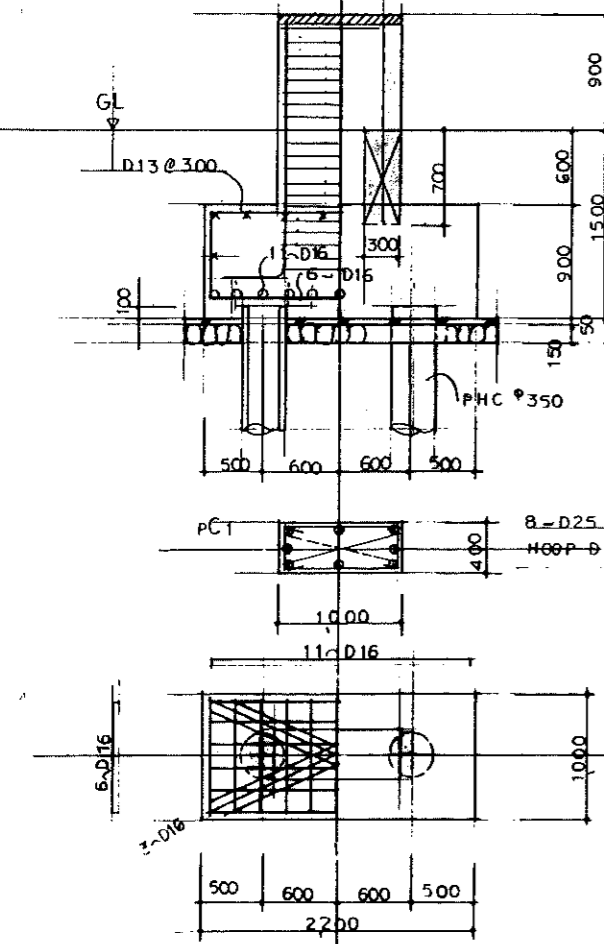
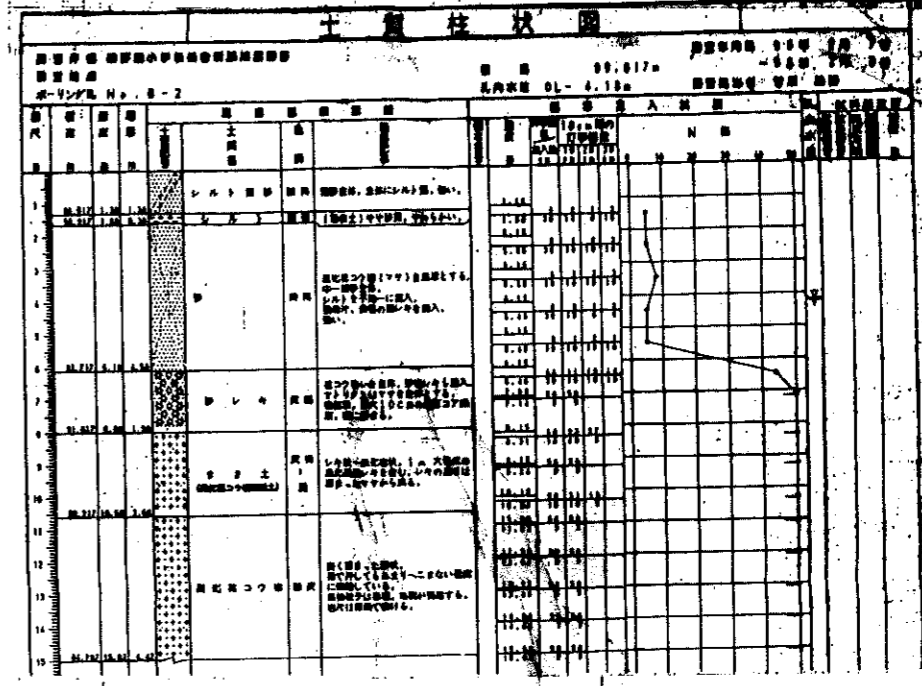
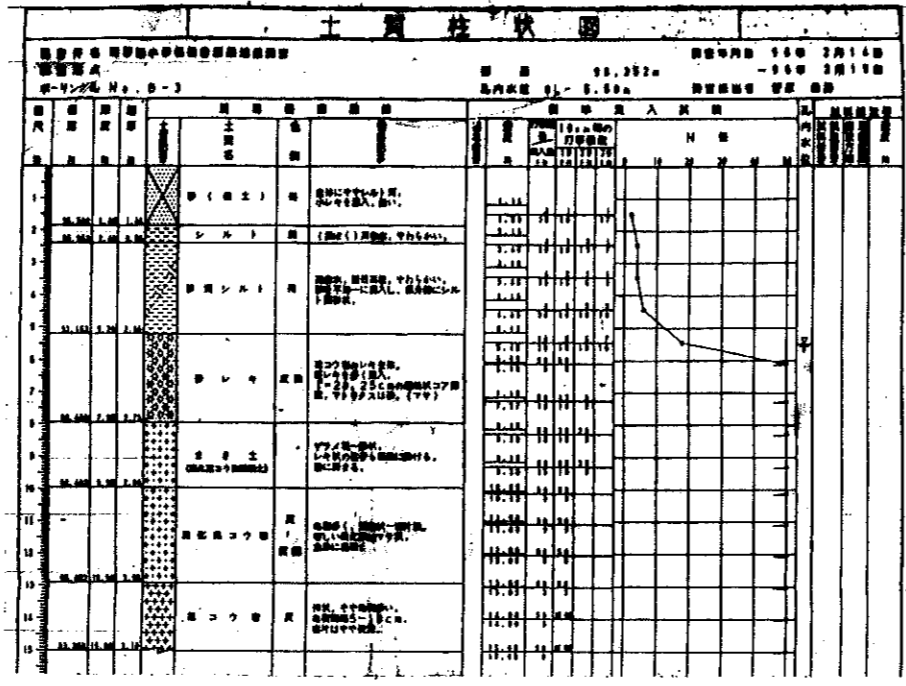
㉑-㉕ 通 軸組圖 1:100



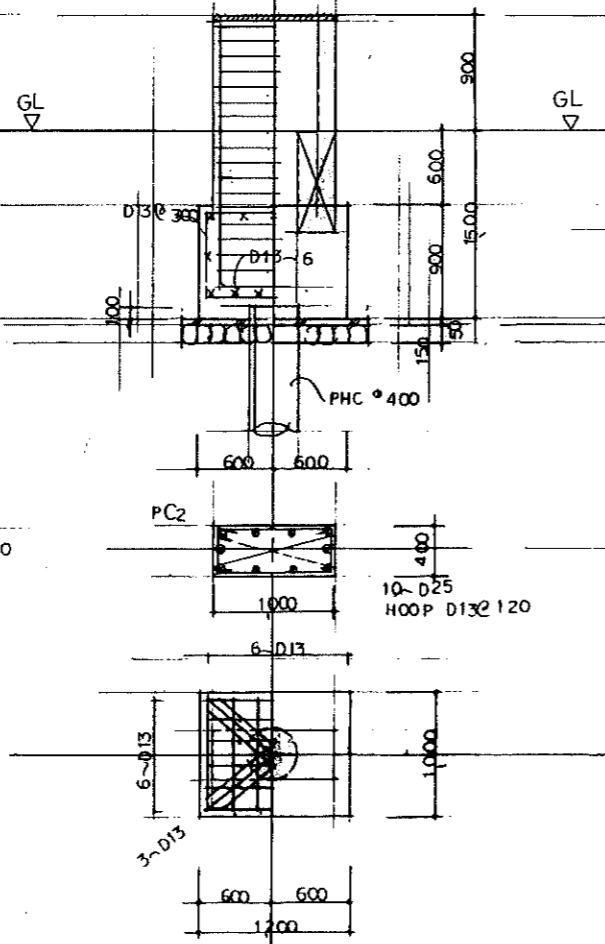
㉑ 通 軸組圖 1:100

㉕ 通 軸組圖 1:100

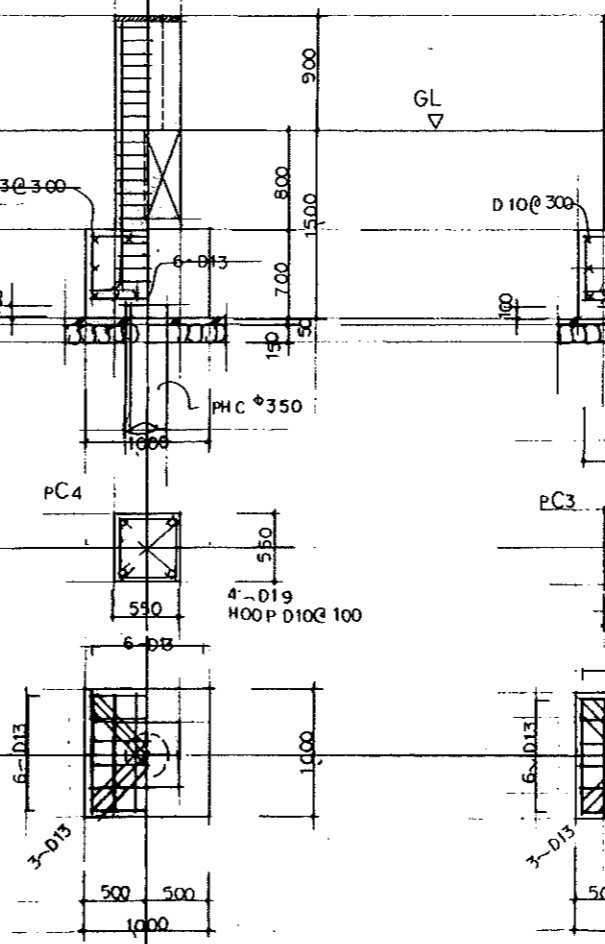
材料	記号・規格	備考
コンクリート	土間コンクリート	$F_c = 180$
	橋コンクリート	$F_c = 180$
	躯体コンクリート	$F_c = 210$
鉄骨	SS 400	圧縮鋼
	SSC 400	引張鋼
	SD 295	架体鉄骨
	SR 295	水平引込
杭 PHC	$\phi 350$	$L = 7.0^M$ $L R_a = 40.0^T$
	$\phi 400$	$L = 7.0^M$ $L R_a = 55.0^T$



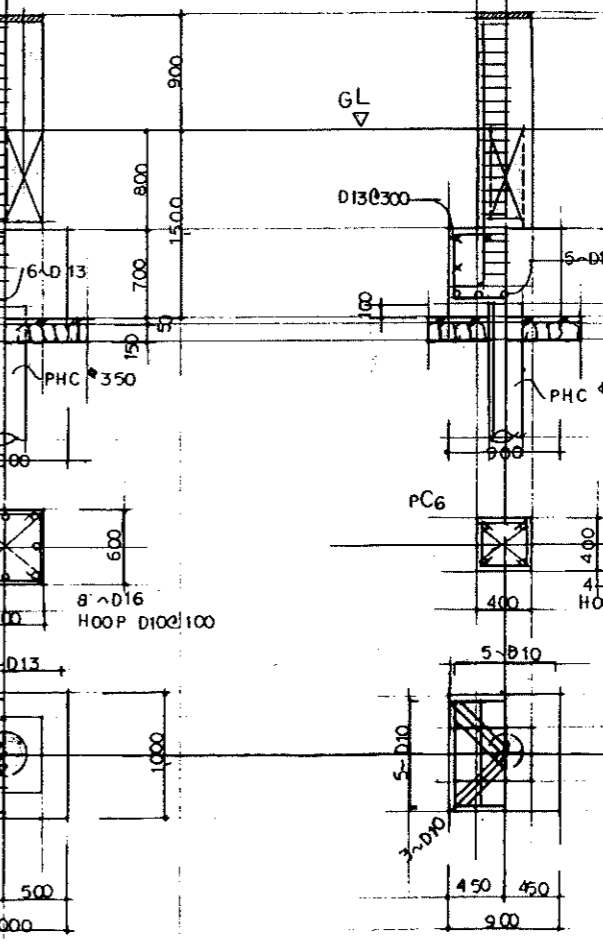
F1 基礎配筋図 1:30



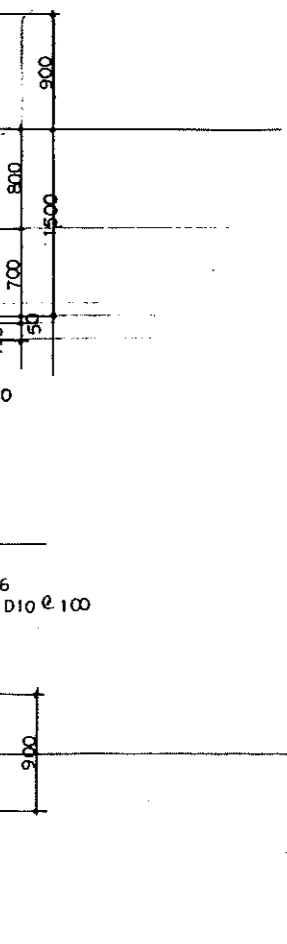
F3 基礎配筋図 1:30



F2 基礎配筋図 1:30

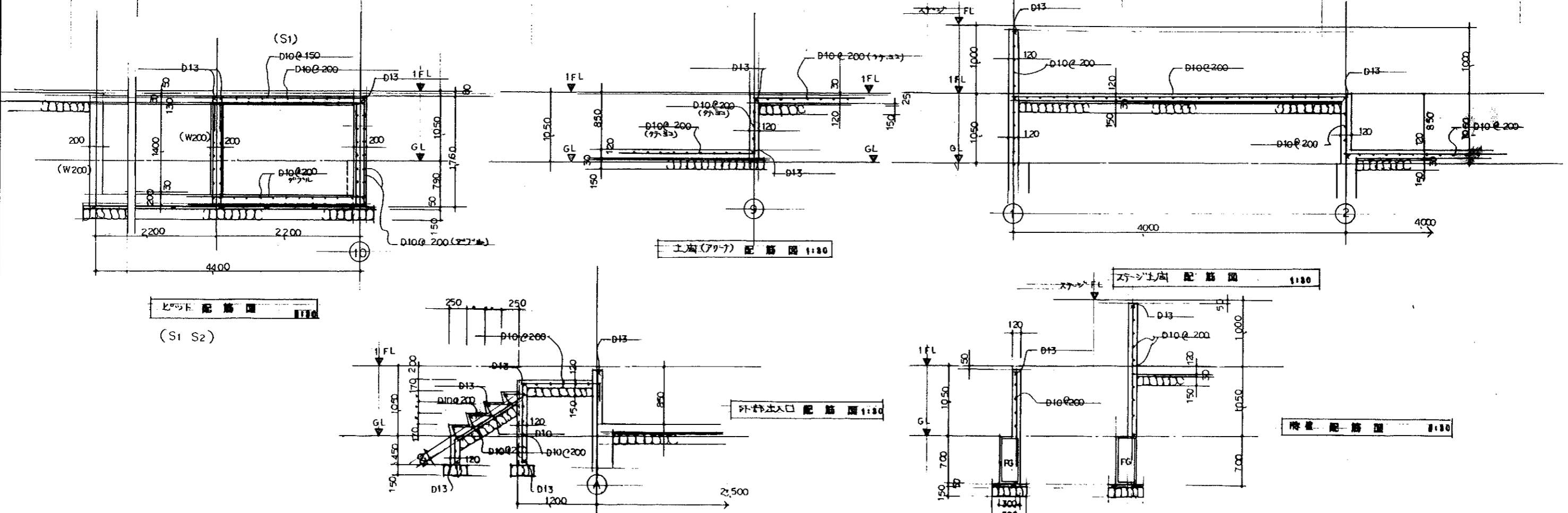


F4 基礎配筋図 1:30



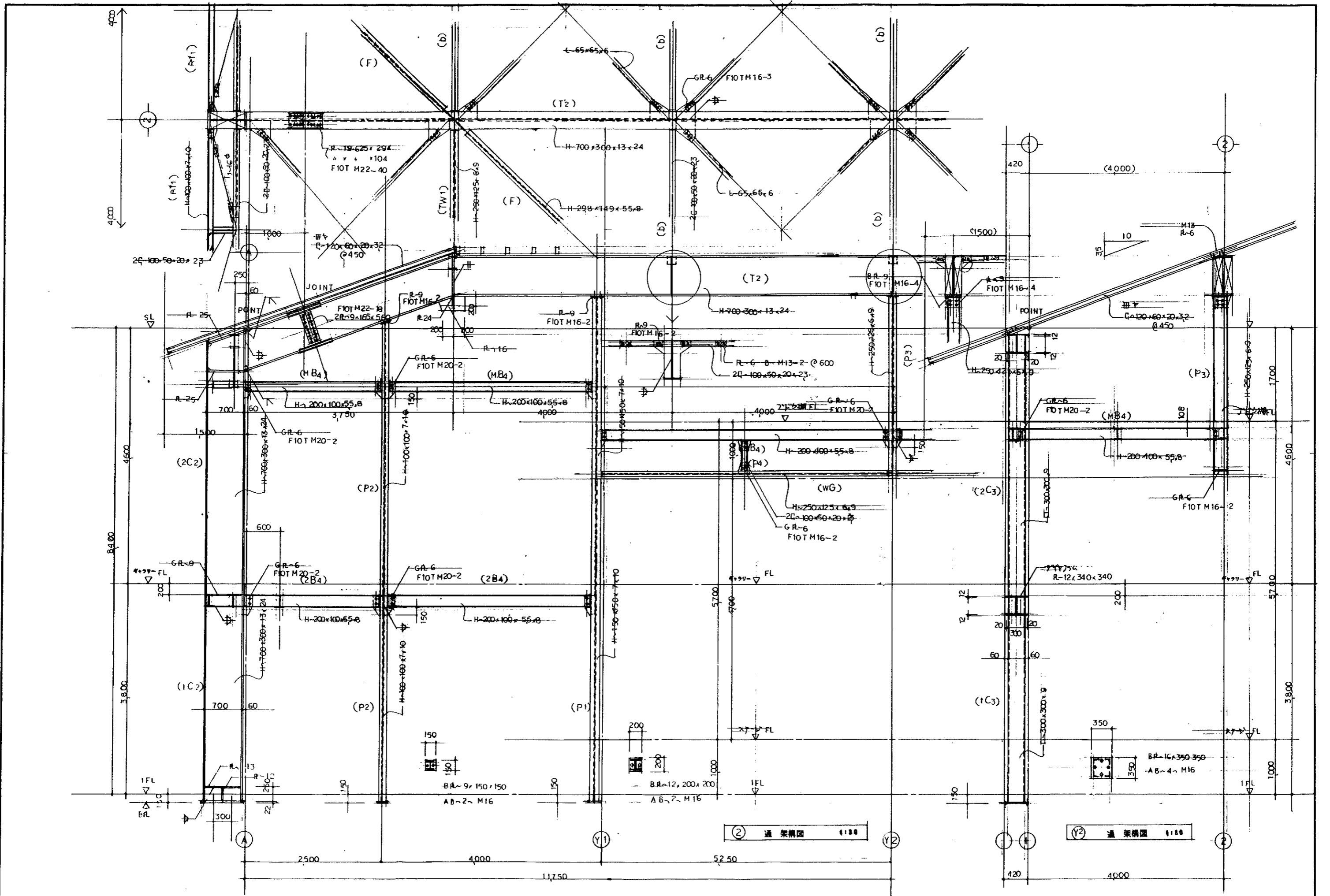
F5 基礎配筋図 1:30

配筋・番号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	PC2	PC5
断面							
断面	300x700	300x700	300x700	300x700	300x700	400x1000	550x550
ST (HOOP)	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	2-D13 @ 100	2-D10 @ 100
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		
布筋	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600		
配筋・番号							
断面							



断面リスト

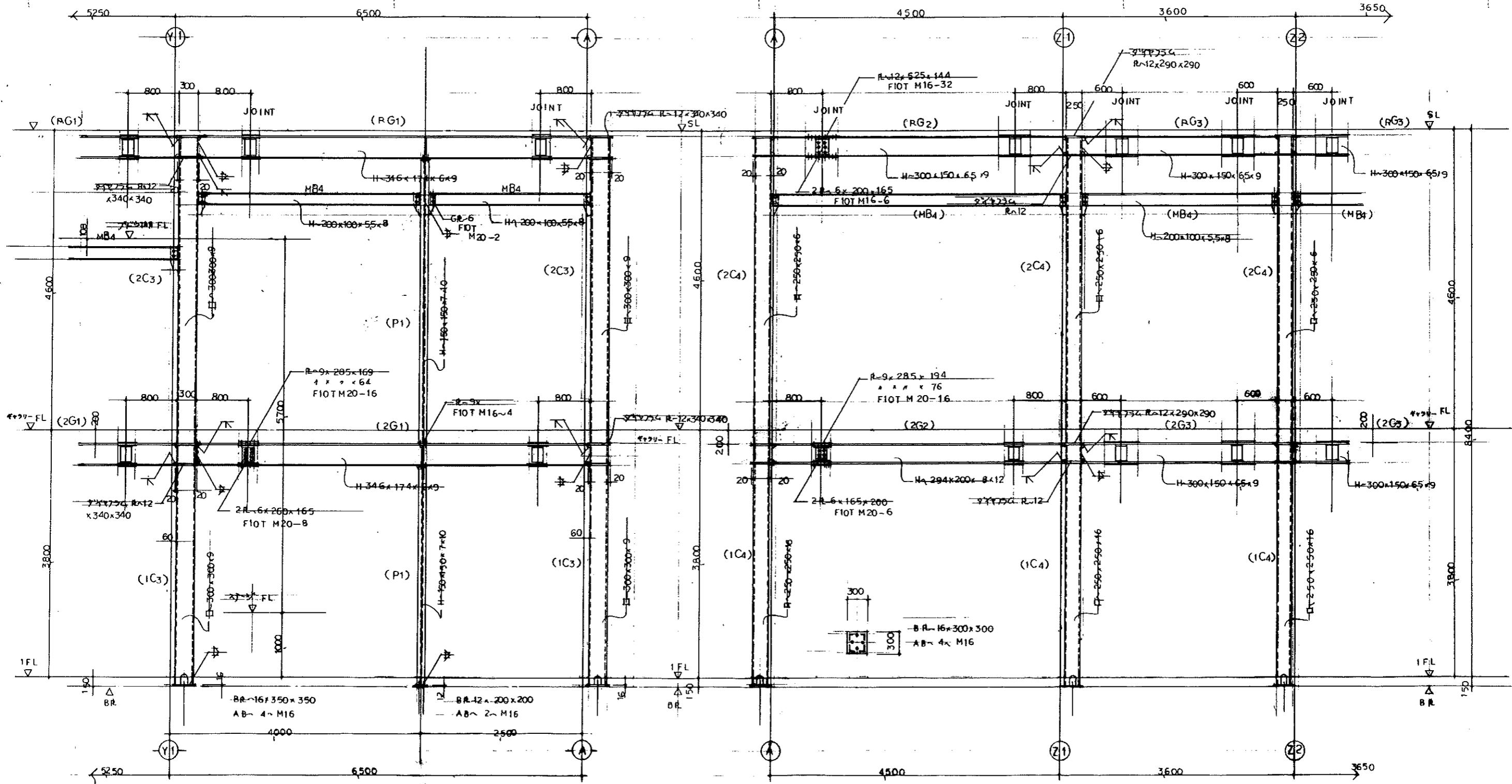
部材	記号・番号	型尺・寸法	備考	部材	記号・番号	型尺・寸法	備考
柱	2.1 C1	H-700x300x13x24	BR-22x350x750 AB-4~M24		2B1	H-200x100x5.5x8	GR-6 FIOT M20-2
	2.1 C2	H-700x300x13x24	BR-22x350x750 AB-4~M24		2B2	H-175x90x5x8	GR-6 FIOT M16-2
	2.1 C3	□-300x300x9	BR-16x350x350 AB-4~M16		2B3	H-300x150x6.5x9	GR-6 FIOT M16-4
	2 C4	□-250x250x6			2B4 RB4	H-200x100x5.5x8	2B1=同シ
	1 C4	□-250x250x16	BR-16x300x300 AB-4~M16		MB4	H-200x100x5.5x8	"
	1 C5	□-250x250x16	BR-16x300x300 AB-4~M16		PB	H-200x100x5.5x8	"
	C6	H-244x175x7x11			TW1	H-250x125x6x9	GR-6 FIOT M20-3
角柱	P1	H-150x150x7x10	BR-12x200x200 AB-2~M16	小梁	TW2	H-298x149x3.5x8	GR-6 FIOT M20-4
	P2	H-100x100x6x8	BR-12x150x150 AB-2~M16		TW3	H-200x100x5.5x8	2B1=同シ
	P3	H-250x125x6x9			F	H-298x149x5.5x8	TW2=同シ
	P4	2E-100x50x20x23			R11	H-250x125x6x9 H-100x100x6x8 V-2E-100x50x20x23 S-1-13*	
大梁	T1	H-700x300x13x24	(FIG) R-19x625x294 FIOT M22-40 (WEB) 2R-9x165x506 FIOT M22-18		R12	H-298x149x5.5x8 H-100x100x6x8 V-2E-100x50x20x23 S-1-13*	
	T2	H-700x300x13x24	T1=同シ		211 212	H-200x100x5.5x8 V-2E-100x50x20x23 S-1-13*	
	T3	H-250x125x6x9	(FIG) R-16x405x119 FIOT M16-24 (WEB) 2R-6x140x165 FIOT M16-4		GA	H-200x100x5.5x8	
	2.R G1	H-346x174x6x9	(FIG) R-9x285x169 M20-16 (WEB) 2R-6x260x165 M16-6		GB	H-300x150x6.5x9	RG2=同シ
	RG2	H-300x150x6.5x9	(FIG) R-12x525x144 M16-32 (WEB) 2R-6x200x165 M16-6		GC	H-294x200x8x12	2G2=同シ
	2G2	H-294x200x8x12	(FIG) R-9x285x194 M20-16 (WEB) 2R-6x165x200 M20-6		d	2E-100x50x20x23	GR-6 FIOT M16-2
	2.R G3	H-300x150x6.5x9	RG2=同シ		WG	H-250x125x6x9	
	2G4	H-294x200x8x12	2G2=同シ	その他	AMD-3	□-100x50x20x32 @600	GR-6 B-M12-2
	2G5	H-300x150x6.5x9	RG2=同シ		母ヤ	□-120x60x20x32 @450	GR-6 B-M12-2
	2G6	H-294x200x8x12	2G2=同シ		床下コンクリート	L-65x65x6	GR-6 FIOT M16-3
			壁コンクリート		2F-L-75x75x9 1F-L-90x90x7	FIOT M20-3 GR-6 FIOT M16-4 GR-6	
				ガラス	1F L-75 t=10		



和興設計事務所

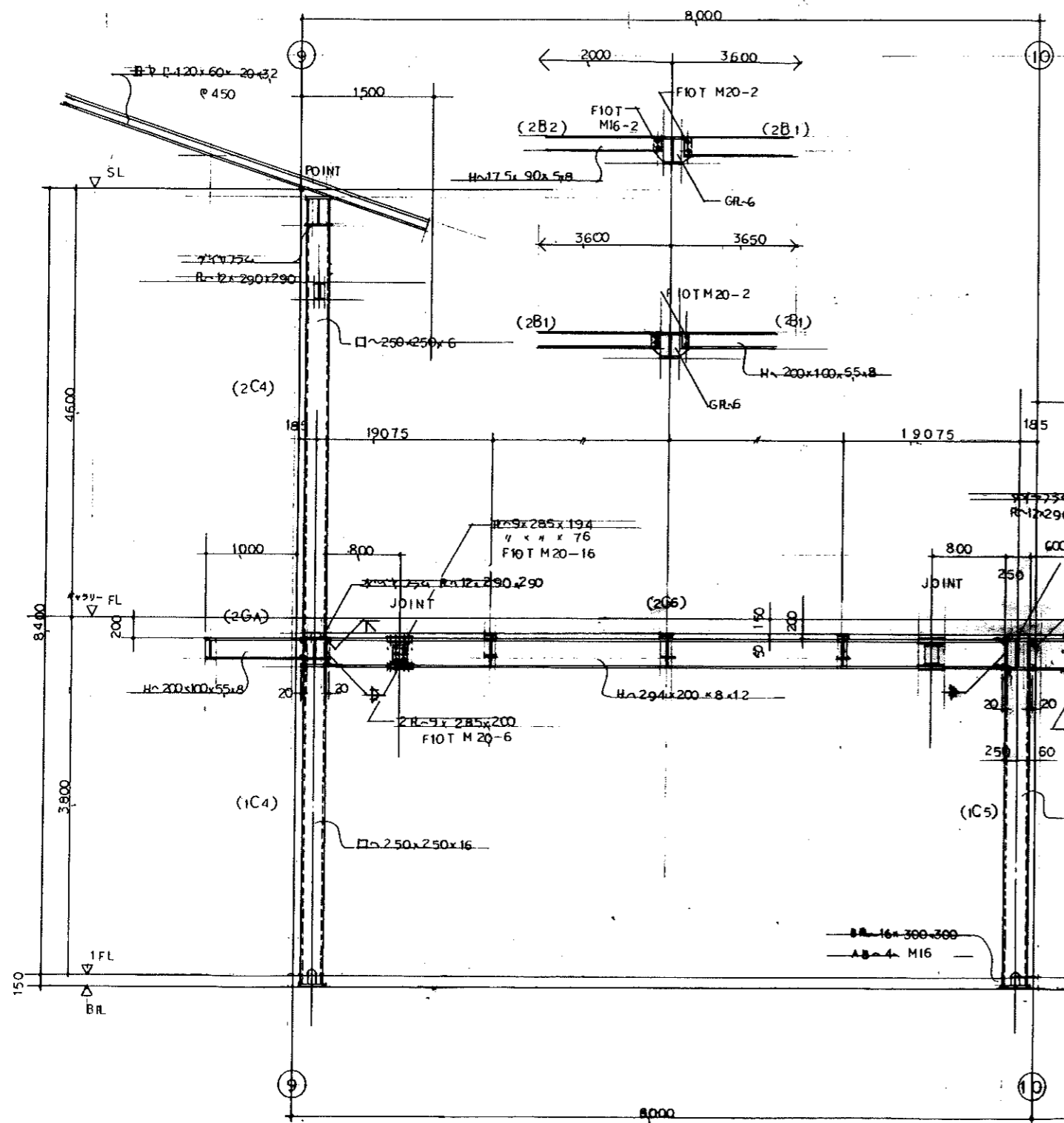
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

工单名称 田野小学校内運動場改築工事
 図面名称 (2) (Y2) 通架構図

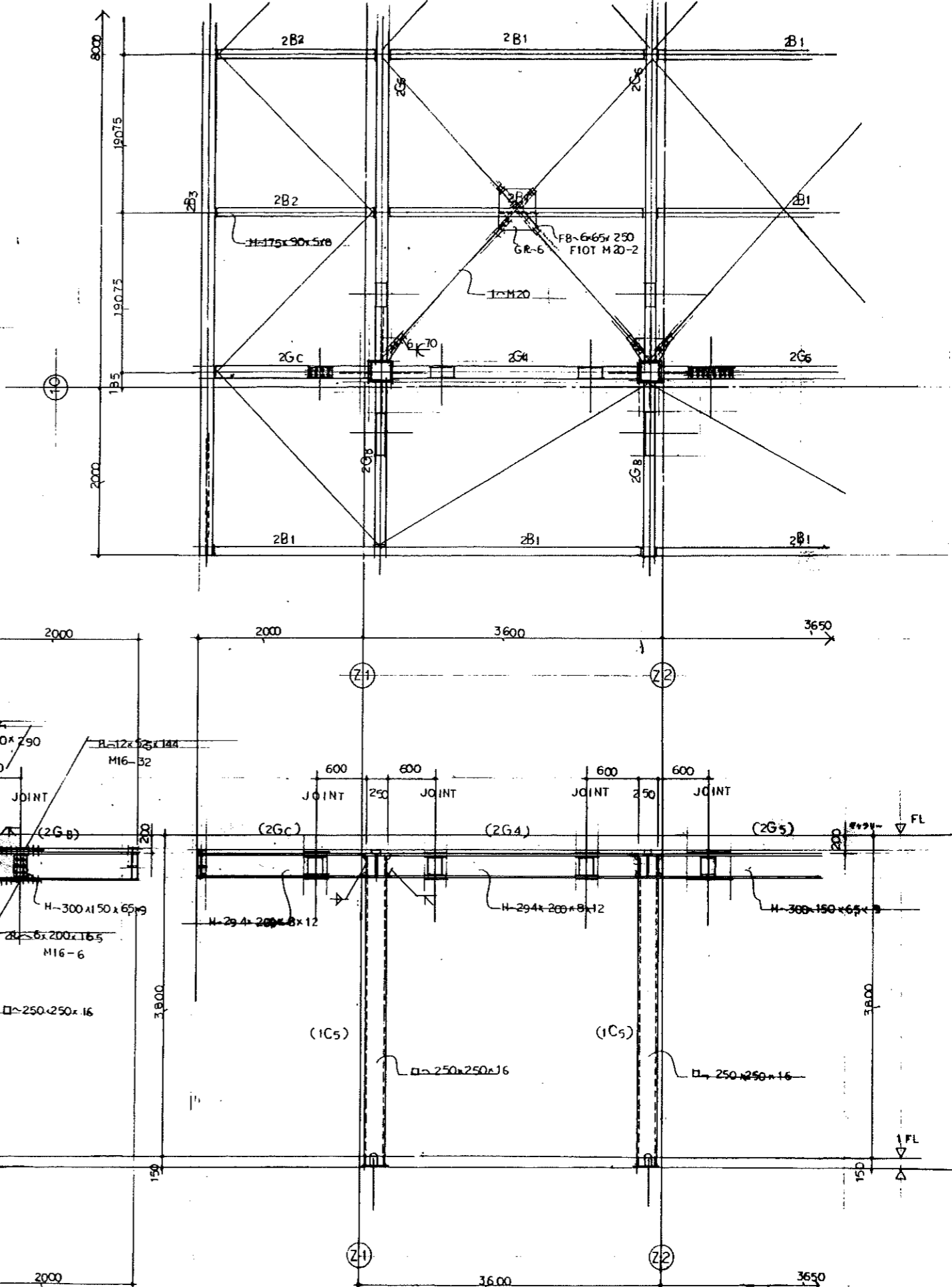


① 通架構図 1/30

⑨ 通架構図 1/30



(23) 通架構造 1:100

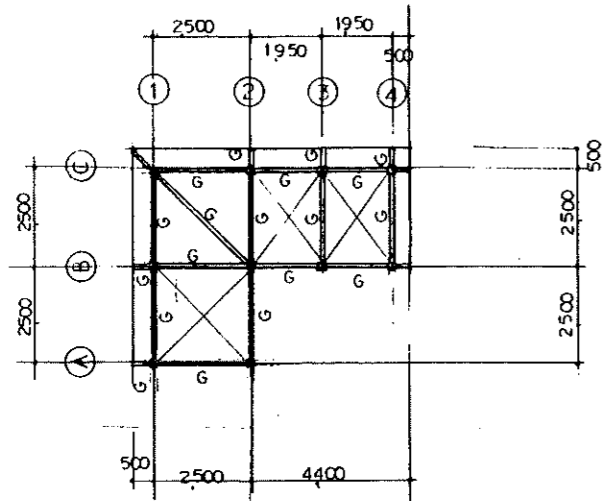


(10) 通架構造 1:100

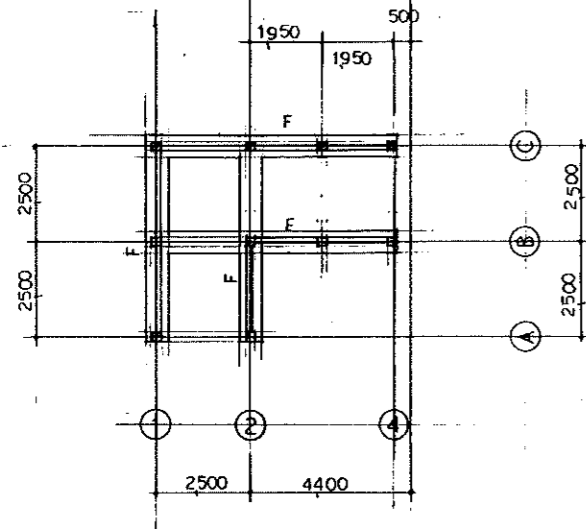
三和建築設計事務所

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

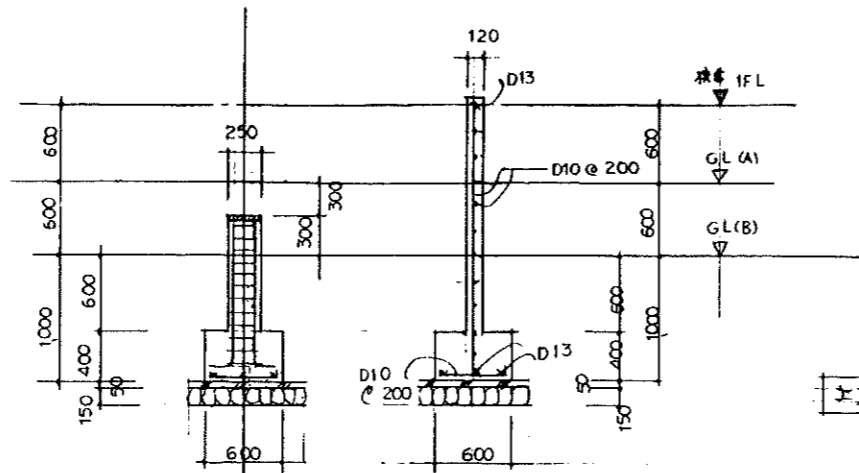
工事名称 田野郷村立 田野郷小学校屋内運動場改築工事
 図面名称 (23) (10) 通架構造



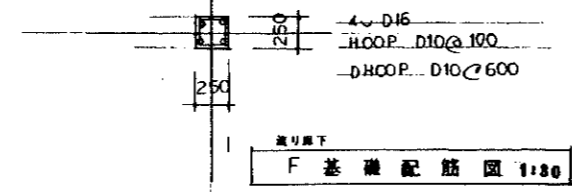
屋根下小屋伏図 1:100



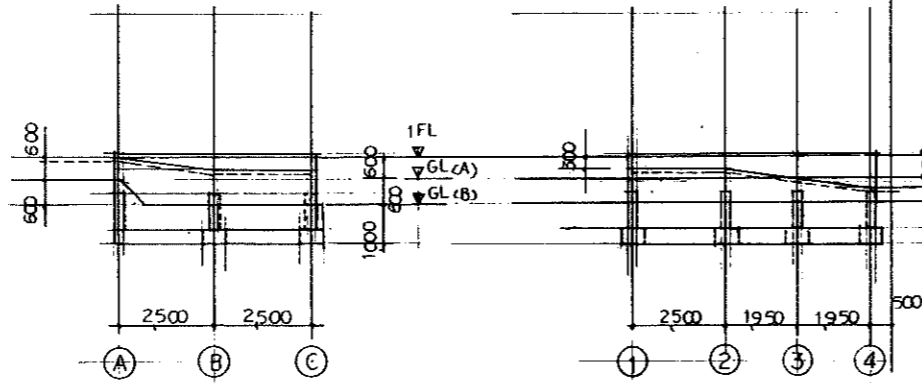
基礎伏図 1:100



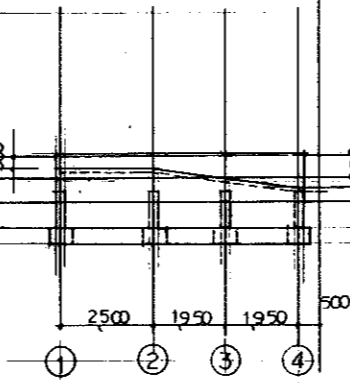
柱梁配筋図 1:100



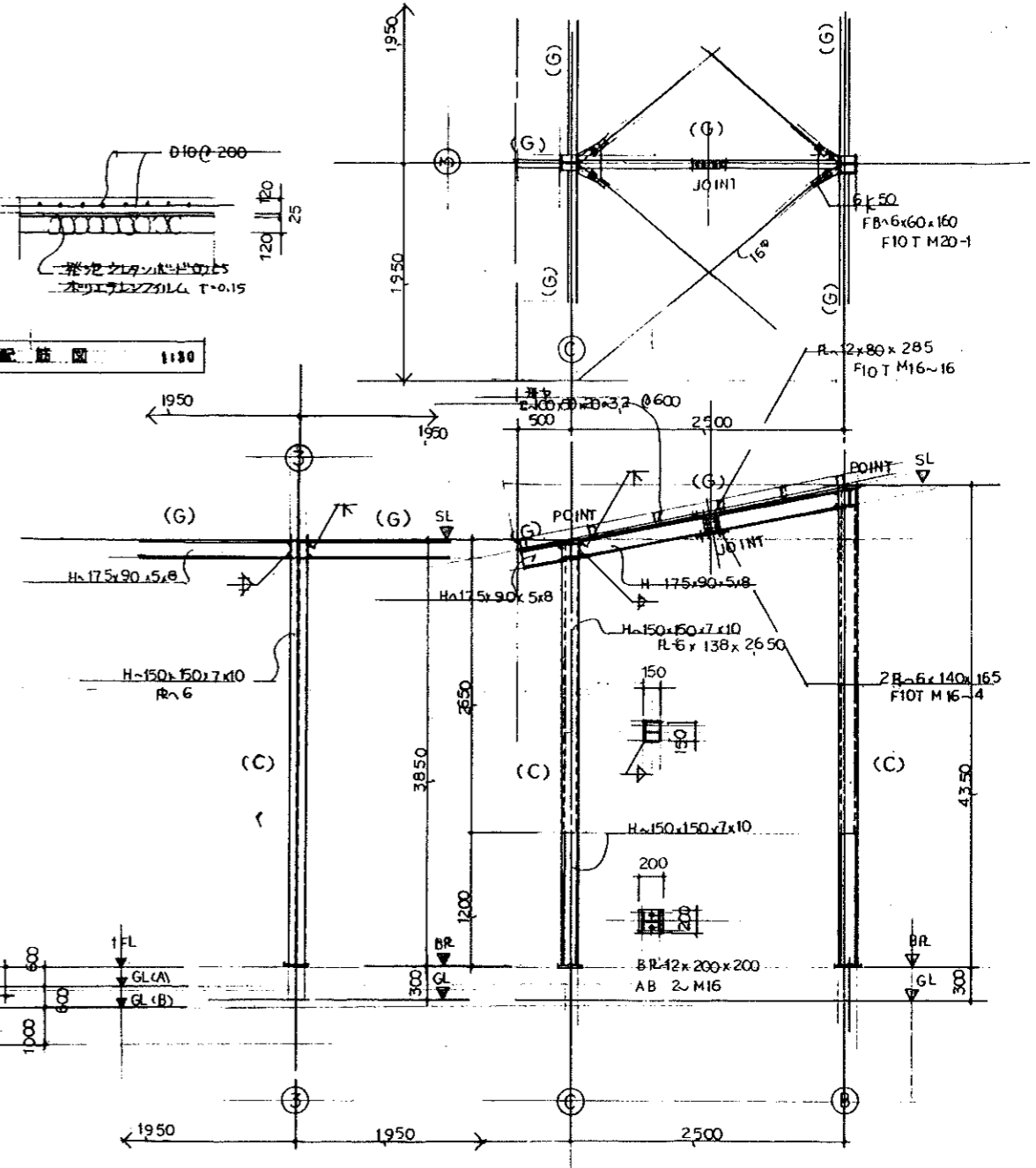
基礎配筋図 1:100



(1)(2) 断面図 1:100

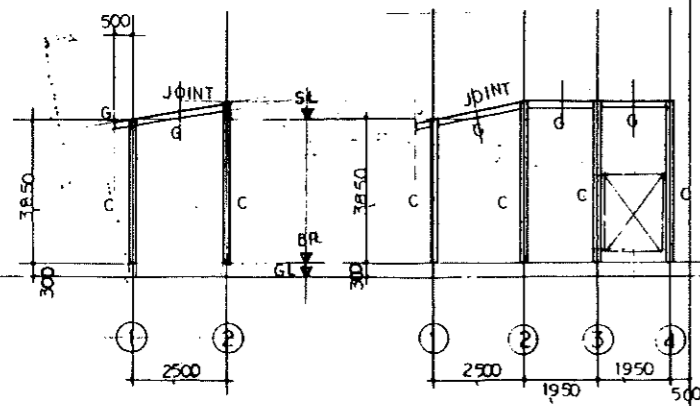


(B)(C) 断面図 1:100



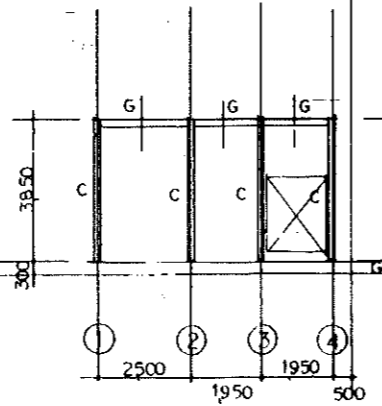
通架構図 1:100

(3) 通架構図 1:100

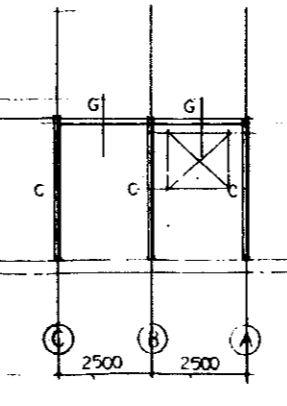


(A) 通架組図 1:100

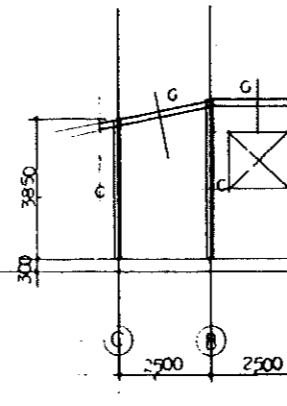
(B) 通架組図 1:100



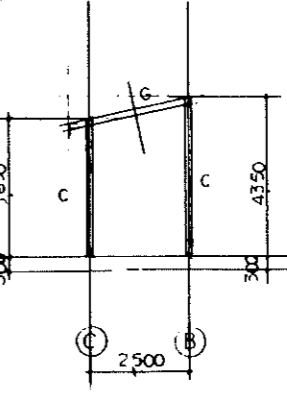
(C) 通架組図 1:100



(1) 通架組図 1:100



(2) 通架組図 1:100



(3)(4) 通架組図 1:100